三 重 県 多 気 郡 明 和 町
斎宮跡埋蔵文化財調査報告38

史 跡 斎 宮 跡

令和２年度現状変更緊急発掘調査報告

令和４（2022）年２月

明　　和　　町

序

史跡斎宮跡の発掘調査が開始され50年以上が経過しました。この間、数多くの重要な発見が積み重ねられるとともに、地域住民の皆様の「理解と納得と協力」を得ながら、史跡の保存と活用が図られ、三重県が今年度に実施した計画調査は節目の第200次調査を迎えました。平成29年度から竹川地内で実施してきた計画調査の成果から、飛鳥時代の中枢域と推定される掘立柱塀による区画について、規模並びに「正殿」、南北棟の規模や配置が明らかになるなど、斎宮跡を解明する上で重要な発見が相次ぎました。

一方、一般社団法人明和観光商社では、国の既存観光拠点再生・高付加価値化推進事業を活用し、長年の課題であった近鉄斎宮駅のトイレの美装化に近畿日本鉄道株式会社及び明和町との協力のもと着手いただき、３月から来訪者に供用されています。また、さいくう平安の杜の復元建物を活用したプロジェクションマッピングの実施など、町や関係団体と連携した史跡斎宮跡の活用が進められています。今後も民間の力を得て、史跡のさらなる保存と活用が進むことに期待を寄せているところです。

本町では、「明和町歴史的風致維持向上計画」に基づき、史跡西端を流れる祓川に神宮橋を数十年振りに架け直すとともに、史跡内の周遊性の向上及び来訪者の利便性の向上に期待をした祓戸広場の整備も進めているところです。町では計画に基づき史跡内の環境整備を今後も引き続き進めてまいります。また、認定を受けている「明和町文化財保存活用地域計画」や「日本遺産」制度も引き続き活用し、斎宮跡の積極的な情報発信に努め、史跡斎宮跡の保存と活用を一層図ってまいります。

さて、本書は史跡地内で個人住宅等の建設などに伴い発掘調査が必要であった13件の結果についてまとめたものです。調査に際しご理解とご協力いただきました地元地権者の皆さま、発掘調査から報告書作成に至るまでご指導、ご協力いただきました斎宮歴史博物館調査研究課の方々に厚くお礼申し上げます。

令和４（2022）年３月

三重県多気郡明和町

町長 世 古 口　哲 哉

例　言

1　本書は、令和２（2020）年度に明和町が実施した史跡斎宮跡（三重県多気郡明和町斎宮・竹川地区）の現状変更緊急発掘調査の結果をまとめたものである。

2　本書に掲載した調査のうち、第198－１・２・５・９・10・13次調査は事業者の明和町が費用を全額負担したが、それ以外については文化庁及び三重県の補助金を受けて実施している。

3　調査は明和町が主体となり、斎宮歴史博物館および明和町斎宮跡･文化観光課が現地調査を担当した。

4　調査区名の表示方法（例：6AL13）については、斎宮歴史博物館2003『史跡斎宮跡　平成13年度発掘調査概報』による。

5　遺構の平面図は、過年度との整合をはかるため、「測地成果2000」以前の旧国土座標第Ⅵ系に相当する座標系を用いて表示している。

6　遺構・遺物の時期区分については、斎宮歴史博物館2019『斎宮跡発掘調査報告Ⅱ　柳原区画の調査　出土遺物編』に拠り、その標記については「斎宮跡Ⅰ期第１段階」と表記するが、本文中ではこれを簡略的に「斎宮Ⅰ-１期」と、遺構一覧・遺物観察表などでは「斎宮Ⅰ-１」などとしている。その他の時期の土器については以下の文献を基準とした。

　中世陶磁器類：中世土器研究会1995『概説　中世の土器・陶磁器』真陽社

　中世土師器類：伊藤裕偉1996「伊勢の中世煮沸用土器から東海を見る」『鍋と甕のデザイン』東海考古学フォーラム

7　遺構記号は、文化庁文化財部記念物課2010『発掘調査のてびき―集落遺跡発掘編―』に準拠し、遺構の種類から以下のように表記している。

　SA：塀　SB：掘立柱建物　SD：溝　SE：井戸　SI：竪穴建物　SK：土坑　SZ：周溝墓・古墳

　SP：柱穴・ピット（SA・SB・ SIに伴う柱穴はP＋番号と表記）　SX：その他・不明遺構

8　図面・写真等の調査資料および出土遺物は、斎宮歴史博物館で一括保管している。

9　本書の執筆は、山中由紀子（斎宮歴史博物館）が前言・調査報告を、味噌井拓志（明和町斎宮跡・文化観光課）が付編の執筆を行い、編集は山中・味噌井が担当した。

目　次

Ⅰ　前言 ……（山中）1

Ⅱ　調査報告

1　第198－1次調査 ……（山中）3

2　第198－2次調査 ……（山中）4

3　第198－3次調査 ……（山中）5

4　第198－4次調査 ……（山中）6

5　第198－5次調査 ……（山中）9

6　第198－6次調査 ……（山中）13

7　第198－7次調査 ……（山中）15

8　第198－8次調査 ……（山中）17

9　第198－9次調査 ……（山中）19

10　第198－10次調査 ……（山中）21

11　第198－11次調査 ……（山中）22

12　第198－12次調査 ……（山中）23

13　第198－13次調査 ……（山中）28

付編　史跡現状変更等許可申請 ……（味噌井）35

表・挿図目次

第１表　史跡現状変更等許可申請の推移 …… 1
第２表　第198次調査　遺構一覧表 …… 30
第３表　第198次調査　出土遺物一覧表（1）…… 31
第４表　第198次調査　出土遺物一覧表（2）…… 32
第５表　第198次調査　出土遺物一覧表（3）…… 33
第６表　第198次調査　出土遺物一覧表（4）…… 34
第７表　令和２年度現状変更等許可申請一覧 …… 36

第１図　発掘調査地位置図 …… 2
第２図　第198－1次調査区位置図 …… 3
第３図　第198－1次調査 遺構平面図・土層図・遺物実測図 … 3
第４図　第198－2次調査区位置図 …… 4
第５図　第198－2次調査 遺構平面図・土層図・遺物実測図 … 4
第６図　第198－3次調査区位置図 …… 5
第７図　第198－3次調査 遺構平面図・土層図・遺物実測図 … 5
第８図　第198－4次調査区位置図 …… 6
第９図　第198－4次調査 遺構平面図 …… 7
第10図　第198－4次調査 土層図・P3土器出土状況図・遺物実測図 … 8
第11図　第198－5次調査区位置図 …… 9
第12図　第198－5次調査 遺構平面図 …… 10
第13図　第198－5次調査 土層図（1）…… 11
第14図　第198－5次調査 土層図（2）・遺物実測図 … 12
第15図　第198－6次調査区位置図 …… 13
第16図　第198－6次調査 遺構平面図・SI11390出土状況図・土層図 … 13
第17図　第198－6次調査 遺物実測図 …… 14
第18図　第198－7次調査区位置図 …… 15
第19図　第198－7次調査 遺構平面図・土層図 …… 16
第20図　第198－7次調査 遺物実測図 …… 17
第21図　第198－8次調査区位置図 …… 17
第22図　第198－8次調査 遺構平面図・土層図・遺物実測図 … 18
第23図　第198－9次調査区位置図 …… 19
第24図　第198－9次調査 遺構平面図 …… 19
第25図　第198－9次調査 土層図 …… 20
第26図　第198－9次調査・第76－1次調査Ａ地区
遺物実測図 …… 21
第27図　第198－10次調査区位置図 …… 21
第28図　第198－10次調査 遺構平面図・土層図 …… 22
第29図　第198－11次調査区位置図 …… 22
第30図　第198－11次調査 遺構平面図・土層図 …… 22
第31図　第198－12次調査区位置図 …… 23
第32図　第198－12次調査 土層図（1）…… 23
第33図　第198－12次調査 遺構平面図 …… 24
第34図　第198－12次調査 土層図（2）…… 25
第35図　第198－12次調査 遺物実測図（1）…… 26
第36図　第198－12次調査 SK11414土器出土状況図・遺物実測図（2）… 27
第37図　第198－13次調査区位置図 …… 28
第38図　第198－13次調査 遺物実測図 …… 28
第39図　第198－13次調査 遺構平面図・土層図 …… 29

写真図版

写真図版１　第198－1次 調査区 全景（東から）
写真図版２　第198－2次 西調査区全景（東から）
写真図版３　第198－3次 調査区全景（東から）
写真図版４　第198－4次 調査区全景（南東から）
写真図版５　第198－5次 １トレンチ 全景（南から）
写真図版６　第198－6次 調査区全景（北西から）
写真図版７　第198－7次 調査区 全景（南東から）
写真図版８　第198－8次 調査区 全景（南西から）
写真図版９　第198－9次 調査区全景（南東から）
写真図版10　第198－10次 ３トレンチ南壁土層（北東から）
写真図版11　第198－11次 調査区全景（北から）
写真図版12　第198－12次 調査区全景（南西から）
写真図版13　第198－12次 拡張部全景（北西から）
写真図版14　第198－12次 SK11414土器出土状況（南西から）
写真図版15　第198－13次 ５トレンチ全景（北から）

Ⅰ　前　言

令和２年度には65件の現状変更等許可申請が提出された。史跡指定後、年間約40～50件程度で推移しているが、令和２年度は例年に比べて件数が増加した。現状変更の内訳をみると、個人住宅の新築や改築、これに伴う盛土、排水路や公園の整備など、史跡内住民の生活維持のための現状変更に加え、明和町による史跡の環境整備（排水路整備・祓戸公園整備）などの歴史的風致維持向上計画（以下、「歴まち整備事業」）に伴う現状変更があり、事前の発掘調査や工事立会いで対応した。このうち、発掘調査が必要となった案件は13件で、調査面積の合計は約717.7㎡である。

第198-３・４・６～８・11・12次調査は個人住宅・事務所の新築、あるいはそれに伴う盛土で、建物の基礎工事や浄化槽の埋設などに先立って実施した。一方、「歴まち整備事業」として、第198-１・10次調査は史跡西部の水田地帯での祓戸広場整備及び散策路整備に関連して行った。第198-２・13次調査は史跡東部における排水路整備に関連するもので、改修に伴って排水溝埋設部の調査を行った。第198-５次調査は史跡南西部、南裏広場整備に伴う事前の発掘調査、第198-９次調査は史跡北西部、斎宮歴史博物館東の塚山広場整備に伴う事前の発掘調査である。これらの調査はいずれも、遺構密度や遺構面の高さの確認など史跡保護にかかるデータの蓄積はもとより、斎宮跡の実態解明にとって重要な成果を得た。

年　度	現状変更申請数	発掘調査件数	調査面積（㎡）	うち補助金調査件数	同調査面積（㎡）
昭和 54	33	17	3,968	12	996
55	60	12	1,281	10	815
56	53	12	5,416	10	696
57	50	8	657	7	577
58	52	16	3,757	10	1,440
59	30	15	2,884	12	1,589
60	39	8	1,260	5	1,014
61	54	12	1,845	9	1,507
62	57	16	2,854	13	1,620
63	46	17	8,820	7	1,131
平成 元	57	16	7,091	9	1,061
2	58	8	1,397	5	914
3	46	3	1,550	1	1,190
4	41	6	895	5	825
5	48	8	1,670	6	1,090
6	35	6	1,360	4	1,032
7	39	2	587	1	480
8	47	6	709	4	613
9	39	6	832	2	452
10	28	4	882	2	396
11	37	8	816	3	186
12	42	10	512	8	469
13	38	14	439	5	409
14	39	22	760	4	304
15	44	19	1,558	8	1,124
16	43	24	2,372	7	762
17	31	14	3,002	8	338
18	31	13	2,171	8	335
19	50	12	374	11	270
20	41	6	237	5	150
21	56	5	790	3	45
22	65	13	448.2	13	448.2
23	43	13	1,070.7	10	223.8
24	35	8	1,899.2	6	91
25	44	17	640.7	12	370
26	41	16	868	9	555.8
27	53	15	352.5	11	198
28	55	17	751.9	8	532.9
29	38	12	664.8	6	214.9
30	42	12	766.1	8	248.4
令和 元	27	7	2,007.3	5	349.3
2	65	13	717.7	6	418.7
計	1,873	488	72,933.1	298	27,481.1

第１表　史跡現状変更等許可申請の推移

第１図　発掘調査地位置図（1:10,000）

Ⅱ　調査報告

1　第198－1次調査（6AA8）

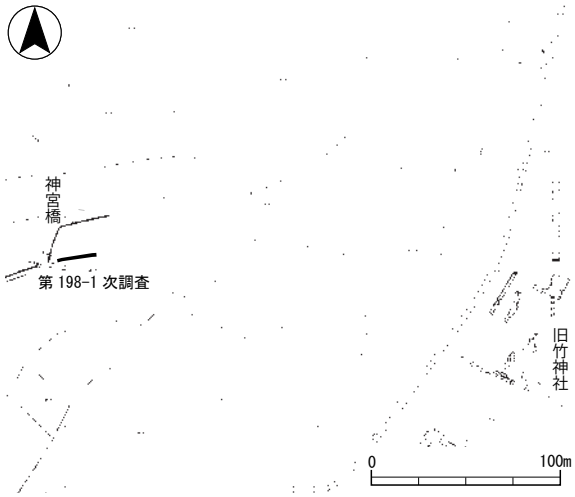
調査場所　多気郡明和町大字竹川地内

原　　因　「歴まち整備事業」公園整備にかかる事前発掘調査

調査期間　令和２年４月23日～令和２年５月11日

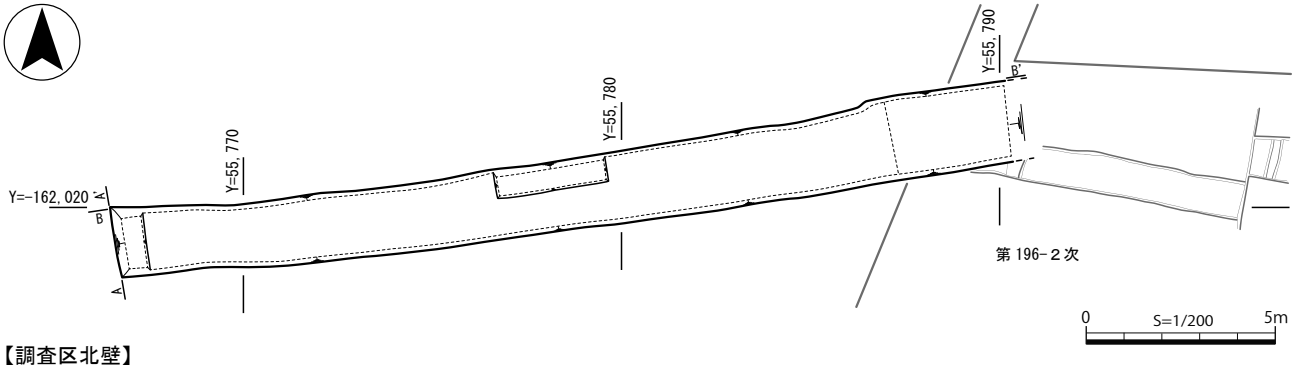
調査面積　37.5㎡

調査概要　調査地は、史跡西部の沖積低地に位置し、「歴まち整備事業」にかかる公園整備に伴う発掘調査の２カ年度目にあたる。令和元年度第196-２次調査地の西側に調査区を約４ｍを重複させて、幅約1.5～1.8ｍ・延長約25ｍのトレンチ状の調査区を設定した。旧耕作面上から約0.7ｍ掘り下げたが、安定した面が確認できなかったため調査区西端と中央付近で一部1.1～1.2ｍ掘り下げ、土層確認を行った。

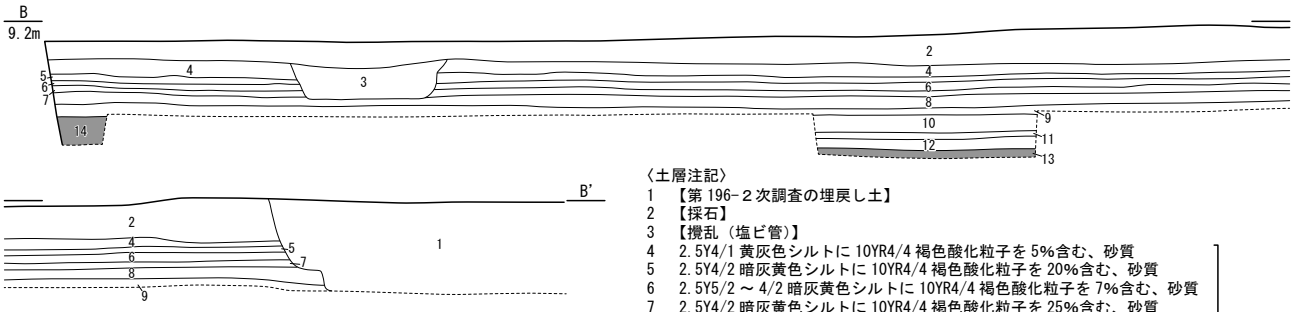


第２図　第198－1次調査区位置図（1:4,000）

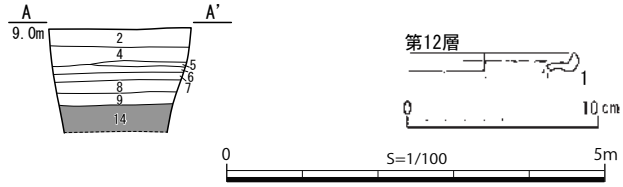
土層観察から、調査区のほぼ全面で近現代に由来する水田耕作面が４面（西端では３面）、深掘り部分で耕作面下層から後背湿地の植生に由来する炭化物粒を多く含む砂層を確認し、調査区の大半が後背湿地に当たると考えられる。耕作面には平安時代後期～16世紀代の土師器片が含まれるが、下層の砂層においても近世と考えられる陶器片や土師器片が見られ、後背湿地の形成は近世以降であると言える。また、耕作面の最下面からは、第196-２次調査で確認した整地土層は確認できなかった。出土遺物には古代に遡る土師器片や平安時代後期頃まで遡る時期の土師器小皿、15～16世紀頃の土師器小皿片や鍋口縁部片（１）、近世陶器片などが出土したが、いずれも細片である。



【調査区北壁】



【調査区西壁】



〈土層注記〉

1　【第 196-２次調査の埋戻し土】
2　【採石】
3　【撹乱（塩ビ管）】
4　2.5Y4/1 黄灰色シルトに 10YR4/4 褐色酸化粒子を 5%含む、砂質
5　2.5Y4/2 暗灰黄色シルトに 10YR4/4 褐色酸化粒子を 20%含む、砂質
6　2.5Y5/2 ～ 4/2 暗灰黄色シルトに 10YR4/4 褐色酸化粒子を 7%含む、砂質
7　2.5Y4/2 暗灰黄色シルトに 10YR4/4 褐色酸化粒子を 25%含む、砂質
8　2.5Y5/2 ～ 4/2 暗灰黄色シルトに 10YR4/4 褐色酸化粒子を 15%含む、砂質
9　2.5Y4/2 ～ 4/3 暗灰黄色～オリーブ褐色シルトに 10YR4/4 褐色酸化粒子を 25%、径 1mm 以下の雲母を多く含む、砂質
10　2.5Y4/2 暗灰黄色極細粒砂～シルトに 10YR3/4 暗褐色酸化粒子を 30%、径 1mm 以下の雲母を多く含む、砂質
11　2.5Y5/2 ～ 5/3 暗灰黄色～黄褐色極細粒砂～シルトに 10YR4/4 褐色酸化粒子を 10%含む、砂質
12　2.5Y5/2 ～ 5/3 暗灰黄色～黄褐色極細粒砂～シルトに 10YR4/4 ～ 3/4 褐色～暗褐色酸化粒子を 25%含む、砂質
【耕作土】
13　2.5Y4/3 オリーブ褐色細粒砂～シルトに 10YR4/6 褐色シルト、粘質をブロック状に 5%、炭化物を含む、砂質
14　2.5Y4/3 オリーブ褐色細粒砂に径 1mm 以下の雲母を多く含む、上層面に帯状の炭化物、砂質
【自然堆積砂層】

第３図　第198－1次調査　遺構平面図（1:200）**・土層図**（1:100）**・遺物実測図**（1:4）

2　第198－2次調査（6AV8）

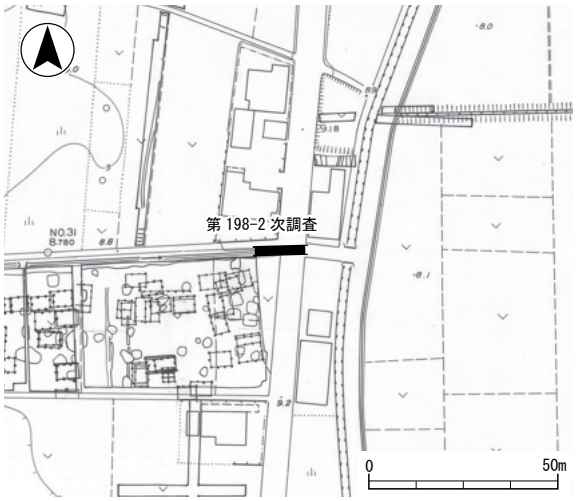
調査場所　多気郡明和町大字斎宮字東前沖地内（道路・水路）

原　　因　「歴まち整備事業」にかかる排水路改修

調査期間　令和２年５月22日～27日

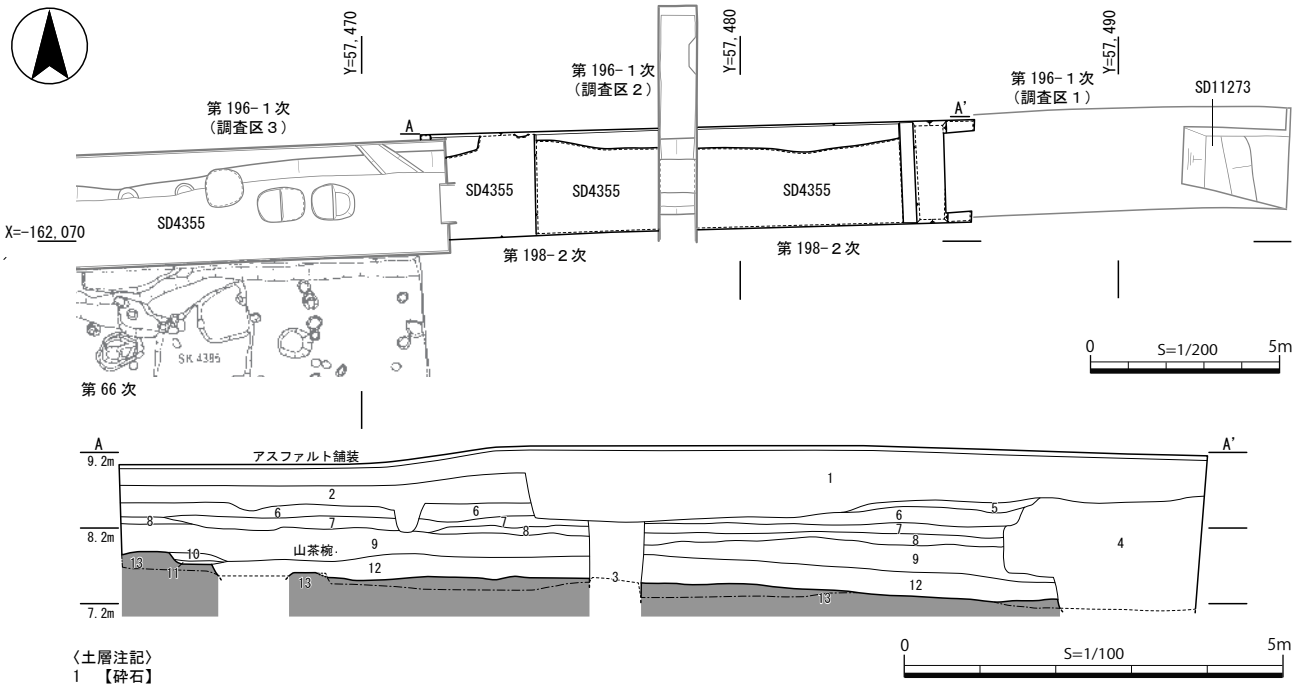
調査面積　35㎡

調査概要　史跡北東部、方格街区の北辺道路南側溝に相当する地点で、幹線排水路工事に伴い実施した発掘調査である。当該地では令和元年度に第196-１次調査を実施し、方格街区北辺道路の南側溝SD4355を確認している。今回は第196-1次調査の調査区１と調査区２の間、調査区２と調査区３の間に幅約2.7m、合計約13mの調査区を設定し、調査区の大半が交通量のある町道を横断することから３回に分けて調査した。掘削は地山となる黄褐色土上まで重機により行い、遺構は平面検出に止めた。



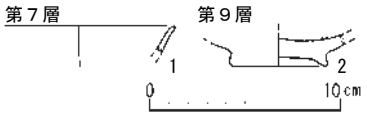
第４図　第198－2次調査区位置図（1:2,000）

調査では、現況地表面、道路舗装上面から約0.8～1.0mの深さで東西方向の溝の北肩部を確認した。南側肩は調査区外に遺存するものと思われる。調査区北側土層断面によると、現地表面から調査区西側で1.1m（標高7.8m）、東側で2.0m下（標高7.2m）で地山面を確認した。第196-１次調査区２・３の成果から、溝底部の標高は当調査区西端で約7.4mである。調査区北壁土層断面の観察によると地山面が西から東へと傾斜することから、溝は西から東へと傾斜するもしくは溝の中心軸が東へ行くにつれ北側へずれる可能性がある。第196-１次調査区１において方格街区東側溝と想定される南北方向の溝SD11273が確認されているが、確認範囲でその最深部は標高約6.7mであり、SD4355からの排水を受けたものと理解できる。SD4355の埋土上層である第９層から陶器小皿（２）が出土することから、下層



〈土層注記〉

1	【砕石】	
2	耕土に砕石を含む	【路面舗装下盛土】
3	【山砂】	【第 196-１次調査区・水道管埋設】
4	【攪乱】	【塩ビ管埋設】
5	5Y3/1 オリーブ褐色シルト	【耕土】
6	2.5Y3/1 黒褐色シルト、径～ 10 cmの礫を少量含む	【黒ボク】
7	2.5Y オリーブ褐色シルト、緑釉陶器出土	
8	2.5Y5/6 黄褐色シルト、部分的に酸化	【SD4355 上層】
9	2.5Y4/2 暗灰黄色シルトに地山ブロック 20%含む、山茶椀・土師器出土	【SD4355】
10	2.5Y 黒褐色シルト、炭化物を粒子状に含む	【土坑？上層】
11	2.5Y4/1 黄灰色シルト	【土坑？下層】
12	5Y4/2 灰オリーブ色シルト、部分的に砂質	【SD4355 下層】
13	2.5Y5/6 黄褐色シルト、下層は 5Y5/6 オリーブ色シルト	【地山】



第５図　第198－2次調査　遺構平面図（1:200）**・土層図**（1:100）**・遺物実測図**（1:4）

である第12層は古代までさかのぼると考えられる。出土遺物にはその他に第７層から緑釉陶器椀（１）がある。

３　第198－3次調査（6AR3）

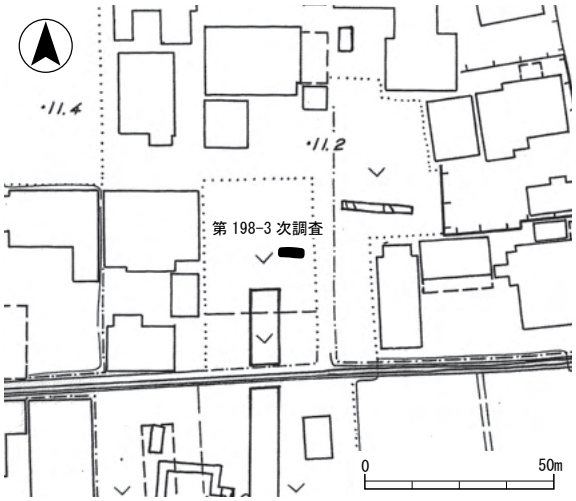
調査場所　多気郡明和町大字斎宮字牛葉572-3、574-2

原　　因　住宅建築

調査期間　令和２年５月29日～６月２日

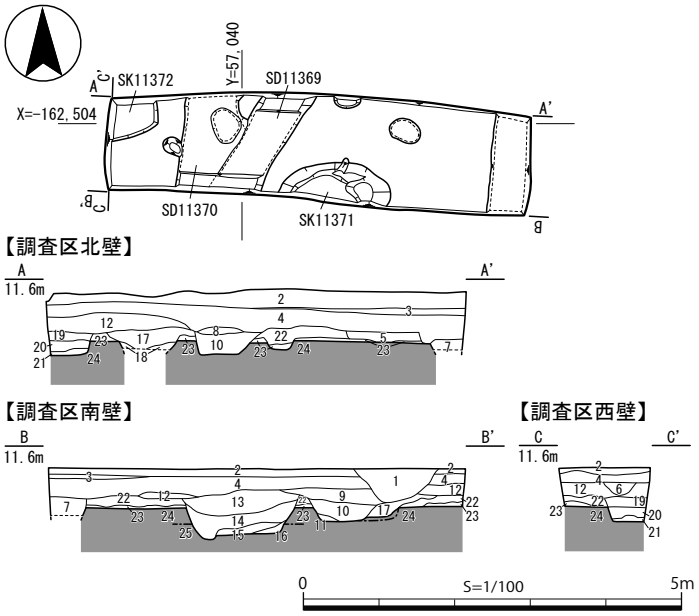
調査面積　７㎡

調査概要　調査地は史跡南部、竹神社南に位置する宅地である。住宅建築に伴い実施した発掘調査で、耕作中の畑地や進入路等の制限から東西5.8m、南北1.1～1.3mと長方形の調査区を設定した。調査区南部で地表面から深さ0.5m、北部で深さ0.6mで地山面に至り、この地山面上で遺構検出を行った。遺構は平安時代～鎌倉時代の溝２条や土坑２基、ピットなどを確認した。

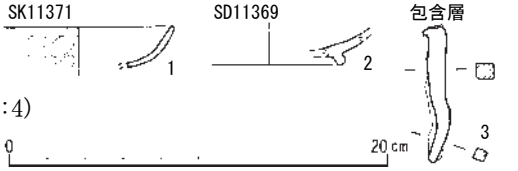


第６図　第198－3次調査区位置図（1:2,000）

SD11369は幅0.55m・検出面からの深さ0.15mの断面箱形を呈し、N30°Eの方向に延びる溝である。調査区内で確認した長さは1.3mである。埋土はにぶい黄褐色～黒褐色を呈し、埋土からはK14-２窯式、９世紀前半代の灰釉陶器椀（２）が出土するが、ロクロ土師器の破片も出土することから10世紀後半代まで機能していた遺構と考えられる。SD11369に重複するSD11370は幅0.8m・深さ0.1m、調査区北壁で確認する断面形状は船底状となる。重複関係からSD11369より古く、埋土は黒色を呈することから平安時代前期以前の可能性が高い。出土遺物は古墳時代～平安時代の土師器細片２片のみである。SK11371は調査区外に広がる土坑で、確認できる範囲の規模は東西1.45m・南北0.5m以上・深さ0.35mで、断面は逆台形状を呈する。出土遺物には土師器小皿・皿（１）・鍋、陶器椀などがあり、平安時代末～鎌倉時代頃の所産と考えられる。調査区北西角で確認したSK11372は東西0.55m以上・南北0.5m以上、検出面からの深さ0.2mの方形を呈する土坑で、検出面から約0.1mで硬化面を確認したことから竪穴建物の可能性もある。出土遺物はロクロ土師器台付皿あるいは杯の高台部や古代末～中世の範疇に収まると考えられる土師器小皿片であり、古くとも10世紀後半以降の遺構と考えられる。以上のように、おおよそ平安時代後期～室町時代の遺構を確認したが、周辺の調査歴を見ると、当調査区の北東15mに位置する平成22年度第170-12次調査では、断面箱形状を呈する南北方向の溝２条を確認した。また、当調査区の南西10mの地点で実施した第９-



〈土層注記〉
1　10YR4/2 灰黄褐色極細粒砂に砕石を多く含む
2　【山砂】
3　【砕石・コンクリート】
4　10YR4/3 にぶい黄褐色極細粒砂、しまり極強　【整地層】
5　10YR3/4 暗褐色極細粒砂、しまり極強
6　10YR3/3 暗褐色極細粒砂
7　10YR6/3 ～ 5/3 にぶい黄橙～にぶい黄褐色シルト、粘質　【攪乱】
8　10YR4/3 にぶい黄褐色極細粒砂に地山粒子を 5% 含む
9　10YR3/3 ～ 3/2 暗褐～黒褐色極細粒砂
10　10YR3/2 黒褐色極細粒砂に地山（24 層）粒子を 5% 含む　【SD11369】
11　10YR3/3 暗褐色極細粒砂に地山（24 層）粒子を 20% 含む
12　10YR3/2 黒褐色極細粒砂
13　10YR2/3 黒褐色極細粒砂に地山（24 層）ブロックを 3% 含む
14　10YR2/3 黒褐色極細粒砂に地山（24 層）ブロックを 10% 含む
15　10YR2/3 黒褐色極細粒砂に
地山（24 層）ブロック・粒子を 20% 含む　【SK11371】
16　10YR2/3 黒褐色極細粒砂に
地山（25 層）ブロック・粒子を 30% 含む
17　10YR2/3 黒褐色極細粒砂
18　10YR3/2 黒褐色極細粒砂に地山（24 層）ブロックを 15% 含む　【SD11370】
19　10YR3/1 黒褐色極細粒砂
20　10YR3/1 ～ 3/2 黒褐色極細粒砂　【SK11372】
21　10YR4/2 灰黄褐色シルトに地山（24 層）ブロックを 5% 含む
22　10YR3/2 黒褐色極細粒砂～シルト、粘質
23　10YR3/3 暗褐色極細粒砂～シルト、粘質　【包含層】
24　10YR4/6 褐色シルト、粘質
25　5YR3/6 暗赤褐色シルト　【地山】



第７図　第198－3次調査　遺構平面図・土層図（1:100）**・遺物実測図**（1:4）

９次調査では当調査区に近い北調査区において南北方向の溝を確認しており、これはSD11370の延長部分の可能性がある。これらの溝は断面箱形を呈する等、方格街区の区画溝の形状に類似することから、平安時代後期以降に区画内を細分化する溝とも考えられる。出土遺物には他に青磁椀、鉄製品釘（３）、近世の土師器鍋や陶器鉢、瓦質土器がある。

４　第198－4次調査（6AP7）

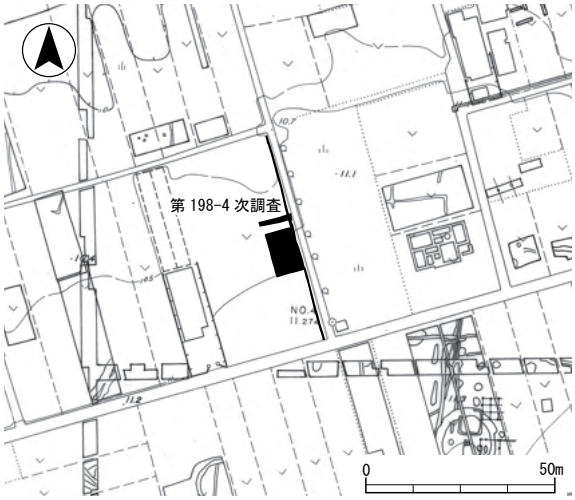
調査場所　多気郡明和町大字斎宮字楽殿2889-2

原　　因　住宅新築

調査期間　令和２年８月17日～９月16日

調査面積　115㎡

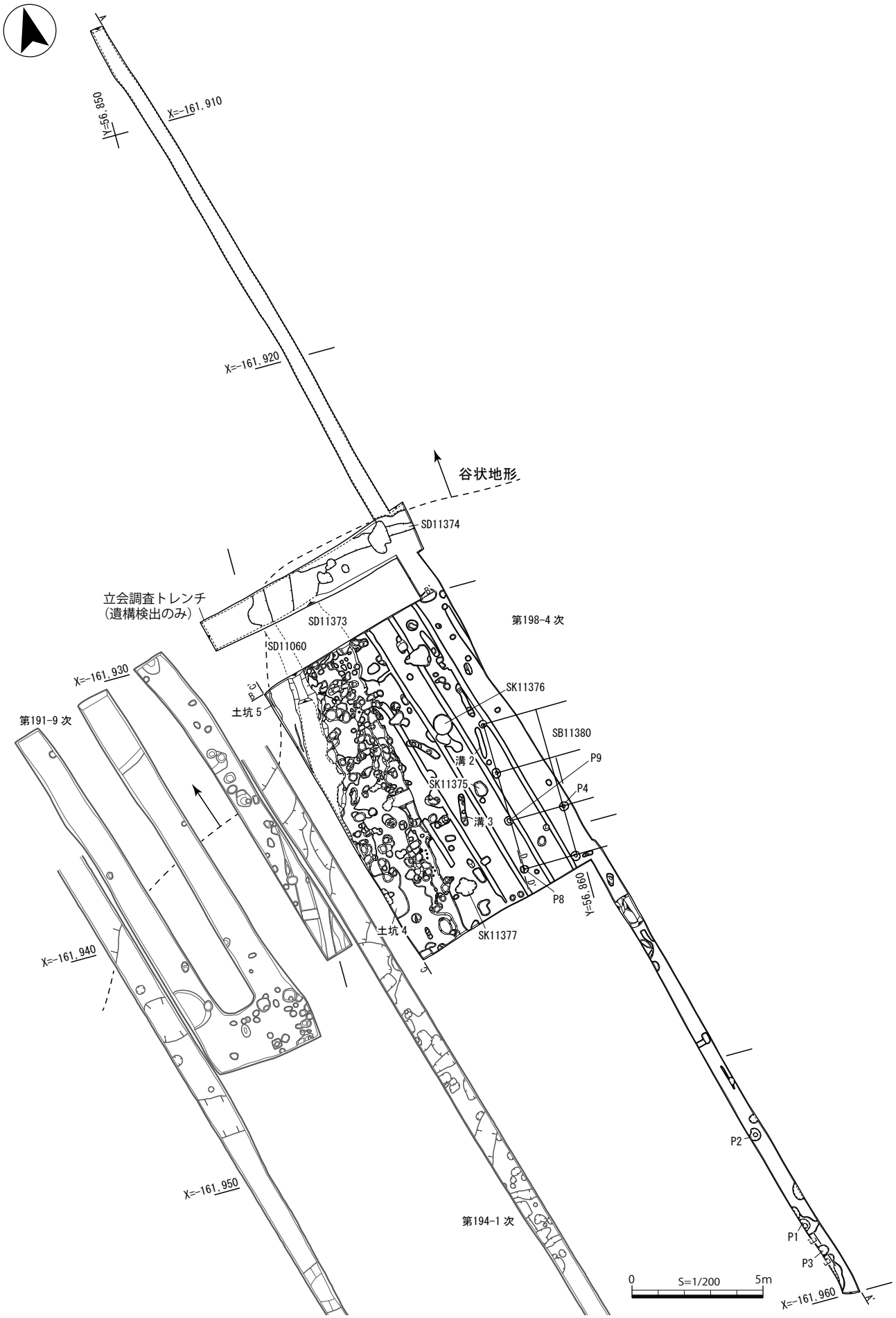
調査概要　調査地は史跡北部に位置する畑地で、「斎王の森」から北東へ150mの地点にあたる。住宅建築に伴う発掘調査であり、地下遺構の状況を把握するための調査を行った。調査区の設定は、住宅建設地点を外した位置に、東西約7.5m・南北約11.5mの矩形の調査区とし、東端部を北側に幅0.5～0.6m、長さ約25m、南側に幅約0.5m、長さ約19.5mと拡張した。また、事前調査後、中央調査区から北に約２m地点においてブロック塀設置に伴う立会を行った際、深さ約0.45m地点で遺構面を検出したため急遽東西約９m、南北約1.5mの範囲で遺構検出までの調査を行った。周辺の既往調査として、当調査区西側において平成29年度第191-９次調査、平成30年度第194-１次調査がある。



第８図　第198－4次調査区位置図（1:2,000）

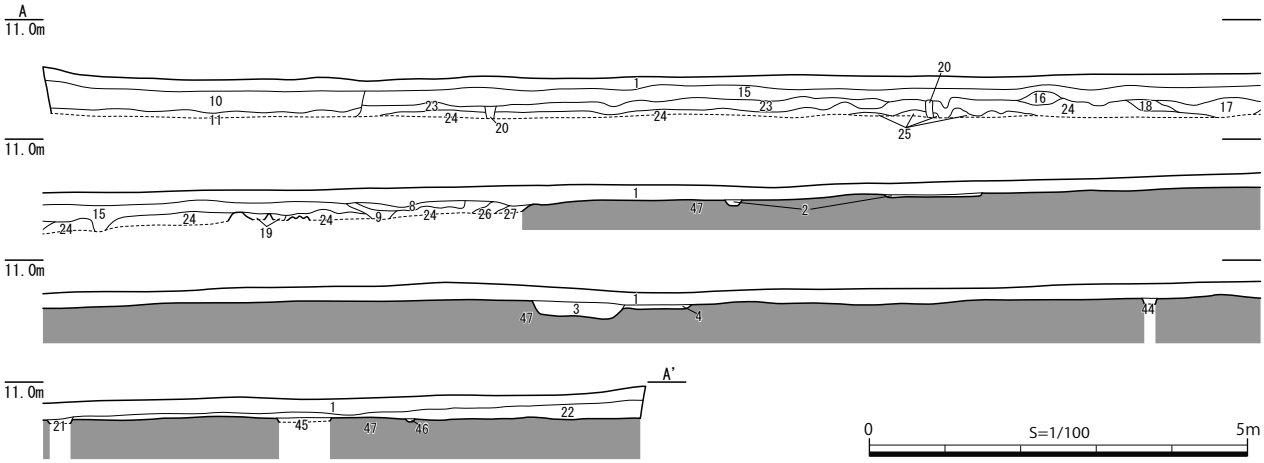
基本層序は南半部ではおおよそは表土直下で地山面となり、地表面から深さ0.2～0.4mである。北半部では途中から埋積浅谷に由来する落ち込みがみられ、表土の下からにぶい黄褐色極細粒砂～シルト層（包含層）、黒褐色極細粒砂～シルト層を確認したが、深さ0.6mでも地山面を確認することができなかった。北端付近では、表土下に灰黄褐色細粒砂～極細粒砂、黒褐色細粒砂～極細粒砂を確認したが各層の下層部は硬化が見られ、埋積浅谷を整地した痕跡の可能性がある。調査では地山面を遺構検出面として調査を実施したが、こうしたことから北側では遺構は確認できていない。

中央の調査区では、概ね真北を志向する遺構群を確認した。調査区西半部では、第196-１次調査で確認したSD11060、その1.5m東側にSD11373が並走する。両溝間には多数のピット・落ち込みが見られ、SD11373の西肩は不明瞭である。SD11060は幅0.8m・調査区内での延長約5.5m、検出面からの深さ0.4m、断面形状は台形を呈する。出土遺物には斎宮Ⅲ-３期の土師器甕や陶器椀（６）のほか、土師器皿（５）・鍋片、陶器皿、須恵器甕片（７）などが出土し、平安時代末～鎌倉時代には埋没したと考えられる。SD11373は幅0.9m・調査区内での延長約12m・検出面からの深さ0.2m、箱形の断面形状を呈する。出土遺物に土師器皿・甕（１）や土錘（２）、陶器椀（３・４）や須恵器甕片などがあり、古くとも斎宮Ⅲ-３期、平安時代末期には埋没したと考えられる。SD11060とSD11373は並走するが、南へ行くにつれてSD11060は西へやや開く。その他、立会調査トレンチにおいて確認したSD11374はＥ５°Ｎを志向する東西方向の溝で、幅約0.5m、調査区内での延長約５mである。SD11373埋没後に掘削されることから、平安時代末期より下がる時期の溝と考えられるが、検出に止めていることから詳細な時期不明である。調査区東部に南北３間×東西２間以上、主軸方向が真北のSB11380があり、柱穴は６カ所確認した。柱掘方は直径0.35m程の円形である。南西隅のＰ８を半截したところ、検出面から深さ約0.17m、柱直径８cm程度とわかった。Ｐ４・Ｐ９の柱痕跡出土遺物から、斎宮Ⅲ-１・２期以前に埋没したと言える。南延長部においても柱痕跡を持つピットを確認しているが、調査区が狭小のため建物については不明である。Ｐ３は直径0.4m・深さ0.2m以上の小穴で、検出面から約0.1mの地点で土師器杯椀Ａ（13）が出土した。これは斎宮Ⅰ-２期の所産であるが、その他埋土からは12世紀代と思われる土師器甕口縁部片（12）も出土しており、土師器杯Ａは埋没時の混入と思われる。その他、中央調査区において土坑４基を確認しているが、いずれも出土遺物は少量で、時期の判断できる遺物で斎宮Ⅱ-４～Ⅲ-１期のものとなり、おおよそ他の溝や建物の年代と同時期と考えられる。

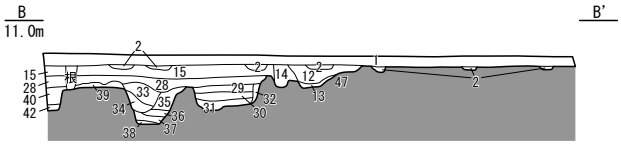


第９図　第198－4次調査　遺構平面図（1:200）

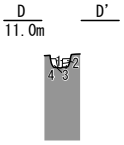
【調査区東壁】



【拡張部北壁】



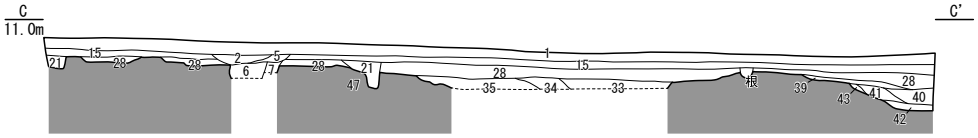
【SB11380 柱穴Ｐ８】



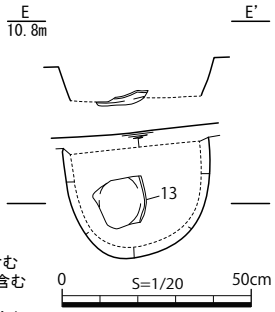
＜土層注記＞

1　10YR5/3 にぶい黄褐色極細粒砂　【柱痕】
2　10YR4/3 にぶい黄褐色極細粒砂に地山ブロックを 30%含む　【掘方埋土】
3　10YR4/3 にぶい黄褐色極細粒砂　【掘方埋土】
4　10YR5/6 黄褐色シルト　【地山】

【拡張部西壁】

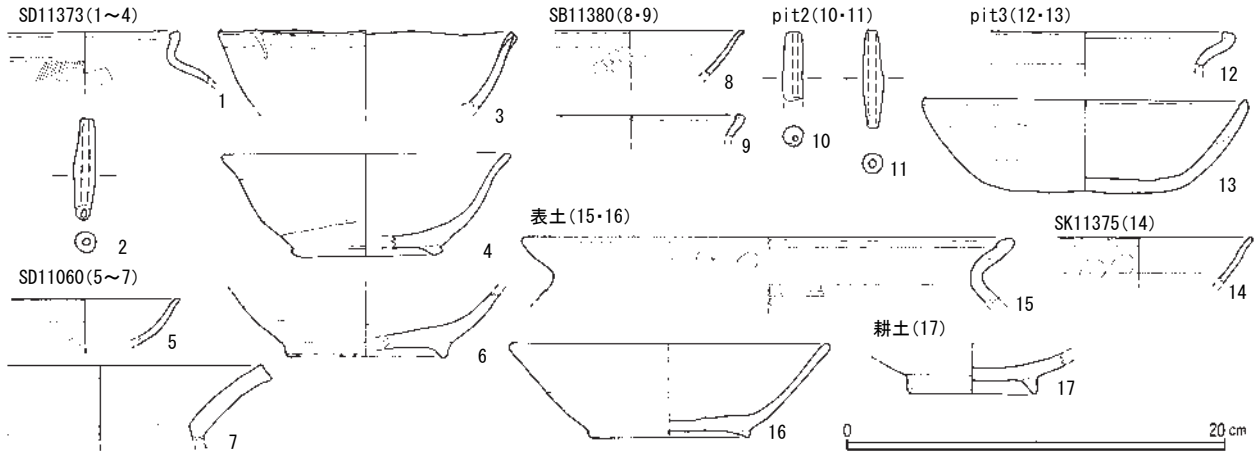


【Ｐ３土器出土状況】



＜土層注記＞

1　10YR5/3 にぶい黄褐色極細粒砂　【表土】
2　10YR5/2 灰黄褐色細粒砂～極細粒砂　【攪乱溝】
3　10YR4/2 灰黄褐色極細粒砂～シルトに地山ブロック40%含む
4　10YR4/2 灰黄褐色極細粒砂～シルトに地山ブロック60%含む
5　2 層に 5YR6/6 橙色シルト20%含む　【攪乱】
6　10YR3/3 暗褐色極細粒砂～シルトに地山ブロック10%含む
7　10YR3/4 暗褐色極細粒砂～シルト　しまり極めて弱い　【根攪乱】
8　5YR6/6 橙色シルト　【盛土】
9　10YR4/4 褐色シルトに 8 層ブロック10%含む
10　10YR4/2 灰黄褐色細粒砂～極細粒砂に 10YR2/1 黒色シルトブロック10%含む、下層面硬化
11　10YR3/2 黒褐色細粒砂～極細粒砂に 10YR2/1 黒色シルトブロック20%含む、全体硬化　【整地？】
12　10YR3/3 暗褐色極細粒砂～シルトに径 5mm 以下の白色礫を含む
13　10YR3/3 暗褐色極細粒砂～シルトに地山ブロック3%含む　【SD11373】
14　10YR4/3 にぶい黄褐色細粒砂～シルト
15　10YR4/3 にぶい黄褐色極細粒砂～シルト　【包含層】
16　15 層に 10YR2/1 黒色シルトブロック10%含む
17　10YR4/4 褐色極細粒砂～シルト
18　17 層に 10YR2/1 黒色シルトブロック10%含む
19　10YR3/2 黒褐色極細粒砂～シルトに 10YR5/4 にぶい黄褐色シルトブロック10%含む
20　10YR4/3 にぶい黄褐色極細粒砂
21　10YR4/3 にぶい黄褐色細粒砂～極細粒砂
22　10YR4/2 灰黄褐色極細粒砂～シルト　【包含層】
23　10YR3/2 黒褐色極細粒砂～シルト
24　10YR3/1 黒褐色極細粒砂～シルト
25　10YR4/1 褐灰色極細粒砂
26　10YR3/2 黒褐色極細粒砂～シルトに地山ブロック5%含む
27　10YR3/1 黒褐色極細粒砂～シルトに地山ブロック10%含む
28　10YR3/2 黒褐色極細粒砂～シルト
29　10YR3/2 黒褐色極細粒砂～シルトに地山ブロック10%含む
30　10YR2/2 黒褐色極細粒砂～シルトに地山ブロック5%含む
31　10YR2/2 黒褐色極細粒砂～シルトに地山粒20%含む
32　地山土に 10YR2/2 黒褐色極細粒砂～シルトブロック30%含む
33　10YR3/4 暗褐色極細粒砂～シルトに径 5mm 以下の白色礫を含む
34　10YR3/3 暗褐色極細粒砂～シルトに径 5mm 以下の白色礫を多く含む
35　10YR3/2 黒褐色極細粒砂～シルトに地山ブロック5%含む
36　10YR3/2 黒褐色極細粒砂～シルトに地山ブロック3%含む
37　10YR2/3 黒褐色極細粒砂～シルトに地山ブロック10%含む
38　10YR2/3 黒褐色極細粒砂～シルト　【SD11060】
39　10YR3/2 黒褐色シルトに地山ブロック5%含む
40　10YR3/2 黒褐色シルトに炭化物粒多く含む
41　10YR2/2 黒褐色シルトに地山ブロック10%含む
42　10YR2/1 黒色シルト
43　10YR3/3 暗褐色極細粒砂～シルト
44　10YR3/2 黒褐色極細粒砂～シルト
45　10YR3/1 黒褐色極細粒砂～シルト
46　10YR3/3 暗褐色極細粒砂～シルト
47　10YR5/6 黄褐色シルト　【地山】



第10図　第198－4次調査　土層図（1:100）・Ｐ３土器出土状況図（1:20）・遺物実測図（1:4）

遺物は、SD11060からは斎宮Ⅲ-２期の土師器杯Ｄ（５）・渥美産４型式の陶器椀（６）、須恵器甕口縁部片（７）があり、やはり12世紀後半代に収まる。土師器杯Ｄ（８）はSB11380のＰ４柱痕跡出土で斎宮Ⅲ-１期と考えられ、建物の廃絶時期を判断する資料となる。土師器甕（９）は同じくＰ４柱穴出土であり、平安時代後期に収まると考えられる。土坑群出土遺物のうち図化できたのはSK11375出土の土師器椀Ｃ（14）で、これも斎宮Ⅲ-１期である。その他、緑釉陶器椀（17）は調査区土層精査中にSK11378が接する部分で包含層である第15層から出土したものである。胎土が粗く産地は判然としないが、10世紀以降の所産と考えられる。

５　第198－5次調査（6AI13・I14・J14）

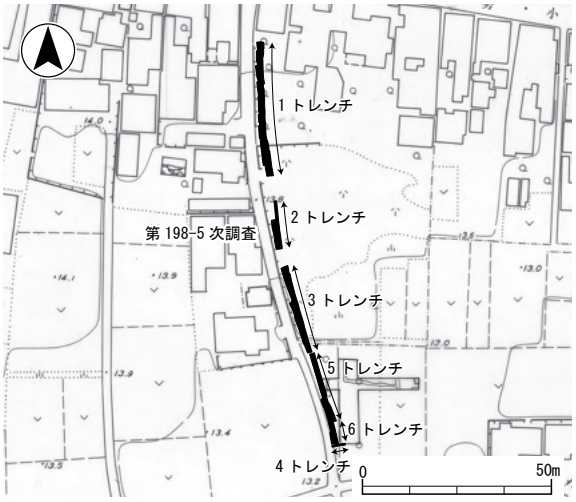
調査場所　多気郡明和町大字斎宮字南裏245-1、245-4、245-5、245-6、246-1、247、247-3、247-5

原　　因　「歴まち整備事業」にかかる道路拡幅等の史跡環境整備

調査期間　令和２年９月７日～10月７日

調査面積　110.5㎡

調査概要　調査地は史跡南部、斎宮小学校の南西約200mに位置し、史跡と南接する露越遺跡に跨る町道に沿う。調査区南東には昭和63年度第76-９次調査地がある。町道拡幅部分を対象に発掘調査を実施した。調査区は町道東側に幅0.4～2.0m、延長3.5～36mの南北方向のトレンチ５本、東西方向のトレンチ１本を設定し、北から順にトレンチ番号を付与した。このうち、４～６トレンチは露越遺跡に含まれる。１～３トレンチでは大半が近世の掘り込みにより遺物包含層や、明確な地山面が確認できず、１トレンチの北から約９m付近で一部深掘りした。調査時の地表面から約１mで地山面を、北から約19m地点、深さ0.5mで遺物包含層上面に達するが、その上部は近世の攪乱が及んでいる。２トレンチも大半に近世の攪乱が及び、トレンチ南端で現地表面から深さ1.1mの地点で地山面を確認したが、こちらについても本来の地山面や遺物包含層上面は更に浅かったものと考えられる。３トレンチは南部に近世の攪乱が及ぶが、北部は比較的地山面の残存状況が良く、現地表面から0.6～0.8mで地山面に達する。５トレンチは北部に近世の落ち込みがあり、地表面から0.8m掘削するも遺構面もしくは遺物包含層は確認できない。中央付近、第76-９次調査に接する部分から南は近世の攪乱が及ぶものの深さ0.2mで遺物包含層上面に達し、0.4mの深さで地山面が確認できる。６トレンチは、深さ0.4mで遺物包含層上面に達し、0.5mで地山面を確認した。南端の４トレンチは、深さ0.5mで遺物包含層に達する。全トレンチに渡って近世の攪乱が及んではいるが、溝４条、土坑３基等を確認した。遺構は、遺物包含層上面から掘削されているが、誤認を避けるため地山面で検出を行っている。

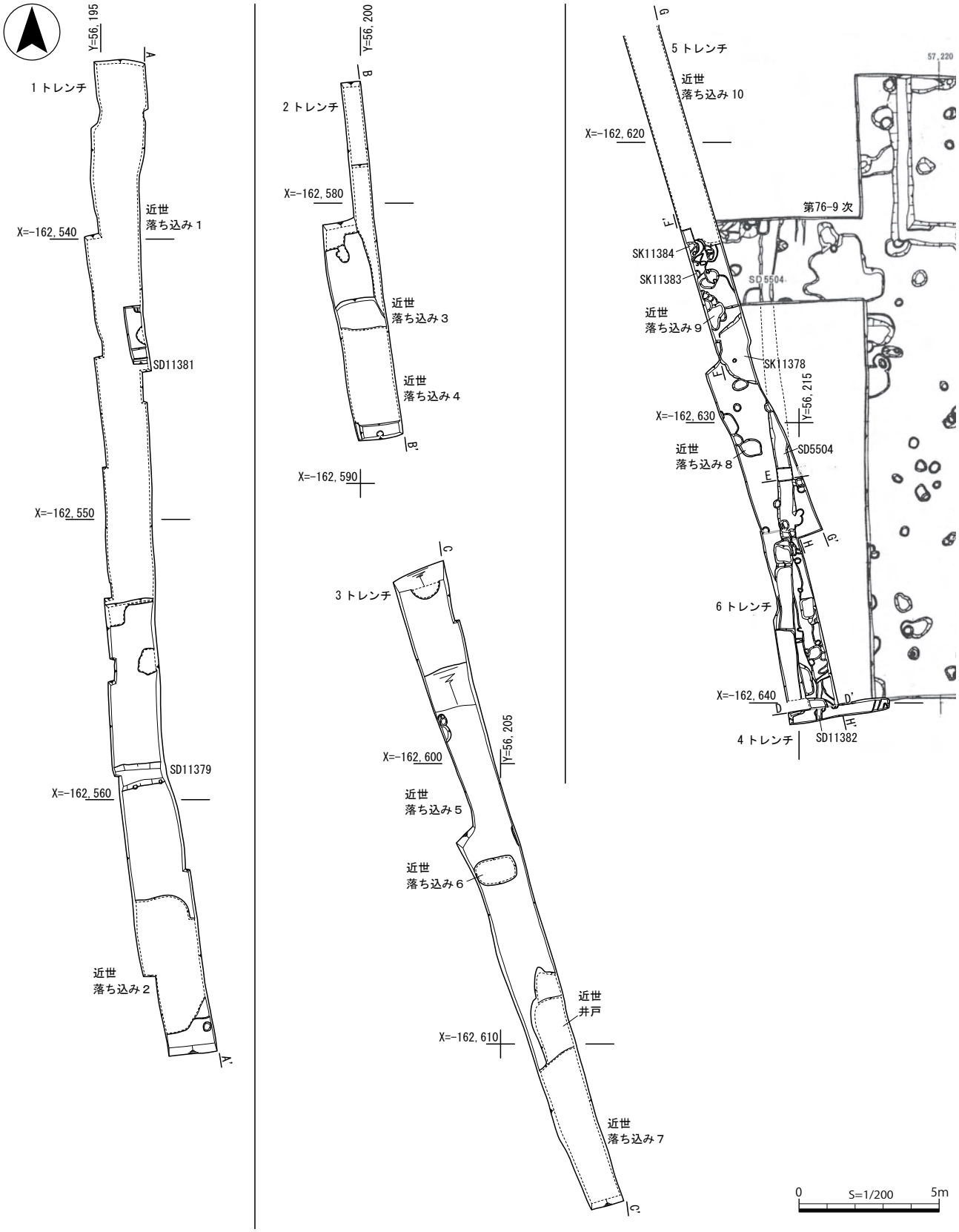


第11図　第198－5次調査区位置図（1:2,000）

SK11378は５トレンチ中央付近で確認した、南北2.6m、東西1.2m以上、深さ約0.2mの不整円形を呈する土坑である。断面形は浅い皿状である。５トレンチの東壁際で確認し、大半は調査区外へ広がる。埋土内からは斎宮第Ⅱ-１～２期の土師器杯Ａが大量に出土したが、遺構底面ではなく、５トレンチ22層から出土している。SK11383・11384は５トレンチ中央、SK11378の北部で確認した。５トレンチ西壁際にかかり、その上近世の攪乱が及んでいるため全体形状は不明であるが、西壁土層によるとSK11383は残存する南北方向は約0.4m・深さ0.15m、SK11384は残存する南北方向は1.1m・深さ0.3mを測る。西壁土層観察により、SK11384よりもSK11383が古いことがわかる。出土遺物は古代の所産と考えられる土師器椀杯類や甕の破片があるのみである。

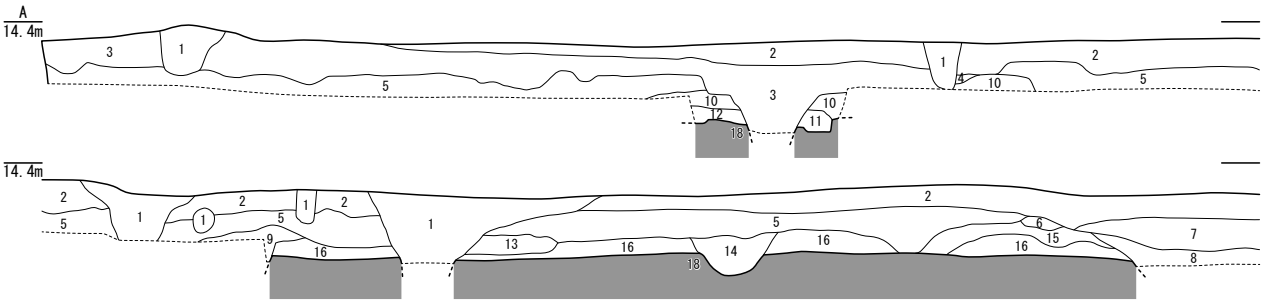
SD5504は５・６トレンチで確認した南北方向の溝で、第76-９次で確認した溝の延長と考えられる。第76-９次調査と合わせた延長は約17m、遺物包含層からの深さは約0.25mの断面箱形を呈する。出土遺物は平安時代前期の範疇に収まるが、第76-９次調査では細片ながら13世紀代の所産と考えられる土師器鍋が出土している。SD11379・SD11381は東西方向の溝で、SD11379は幅0.8m・遺物包含層上面からの深さ約1.1m、断面船底状を呈する溝である。出土遺物

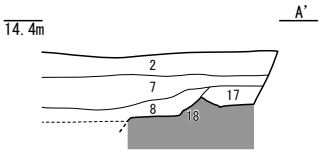
には土師器杯・皿・鍋細片があり、平安時代から鎌倉時代の所産と考えられる。SD11381は攪乱が重複しているが、残存幅0.4m、残存する深さ0.3m、断面形状が箱形を呈する。出土遺物には土師器鍋や常滑産と考えられる陶器甕細片があり、近世攪乱の混入も考えられるが室町時代～近世の溝と考えておきたい。SD11382は４・６トレンチで確認した南北方向の溝であり、前述のSD5504に重複する。幅約0.2m・延長1.5m、残存する深さ0.2mを測る断面形が船底状を呈する小溝である。土師器甕体部細片が出土し、少なくとも古代以降の埋没であろうか。



第12図　第198－5次調査　遺構平面図（1:200）

【1 トレンチ東壁】

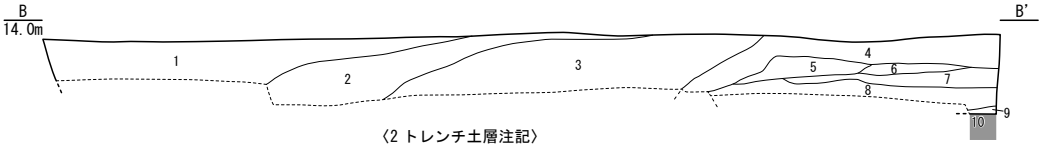




〈1 トレンチ土層注記〉

1 【切株・根】
2 【山砂・盛土】
3 10YR6/2 ～ 5/2 灰黄褐色極細粒砂～シルトに瓦・炭化物を含む 【撹乱】
4 【山砂・シルト】
5 10YR5/2 灰黄褐色細粒砂～極細粒砂
6 10YR4/2 灰黄褐色極細粒砂～シルト
7 10YR4/3 にぶい黄褐色極細粒砂～シルトに瓦・炭化物・径 20cm 以下の礫を多く含む
8 10YR4/2 灰黄褐色極細粒砂～シルトに径 20cm 以下の礫を多く含む
9 10YR6/8 明黄褐色中粒砂～細粒砂に径 20cm 以下の礫を非常に多く含む
【撹乱】
10 10YR2/3 黒褐色極細粒砂～シルト 【撹乱】
11 10YR3/3 暗褐色極細粒砂～シルト、しまり弱 【SD11381】
12 10YR2/2 黒褐色極細粒砂～シルトに地山ブロック50%含む
13 10YR2/1 黒色シルト 【黒ボク】
14 10YR2/2 黒褐色極細粒砂～シルトに古代の土師器を含む 【SD11379】
15 10YR3/2 黒褐色極細粒砂～シルト
16 10YR3/4 暗褐色極細粒砂～シルト
17 16 層に地山粒20%含む
【包含層】
18 10YR5/6 黄褐色シルト 【地山】

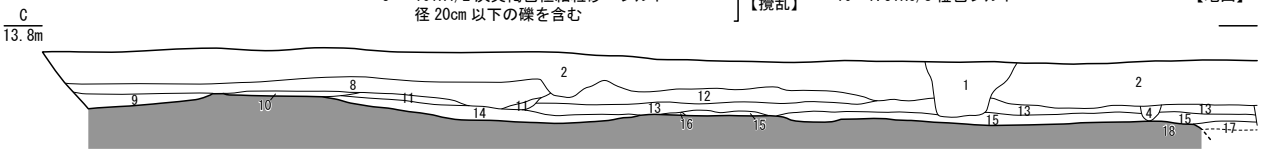
【2 トレンチ東壁】

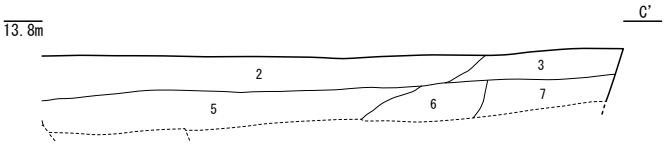


〈2 トレンチ土層注記〉

1 10 YR3/1 黒褐色中粒砂～シルト山砂・礫を多く含む 【撹乱】
2 7.5YR6/8 橙色細粒砂～シルト
3 10YR5/3 にぶい黄褐色粗粒砂～極細粒砂径 30cm 以下の礫を非常に多く含む
【山砂・盛土】
4 10YR3/2 黒褐色極細粒砂～シルト径 20cm 以下の礫をわずかに含む
5 10YR4/2 灰黄褐色極細粒砂～シルト径 20cm 以下の礫を含む 【撹乱】
6 10YR4/3 にぶい黄褐色極細粒砂～シルト径 20cm 以下の礫をわずかに含む
7 10YR4/2 灰黄褐色極細粒砂～シルト地山粒30%含む
8 10YR3/3 暗褐色極細粒砂～シルト径 20cm 以下の礫をわずかに含む
9 8 層に地山ブロック50%含む
【撹乱】
10 7.5YR6/8 橙色シルト 【地山】

【3 トレンチ東壁】

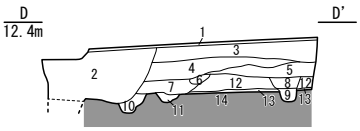




〈3 トレンチ土層注記〉

1 【切株・根】
2 10YR6/2 ～ 5/2 灰黄褐色中粒砂～シルトに山砂ブロック・礫を含む 【盛土】
3 10YR2/3 黒褐色細粒砂～シルト しまり弱 【表土】
4 【根】
5 10YR5/3 にぶい黄褐色細粒砂～シルトに径 30cm 以下の礫を多く含む しまり弱 【近世井戸】
6 10YR3/3 暗褐色細粒砂～極細粒砂に径 20cm 以下の礫、炭化物ををわずかに含む
7 10YR2/3 黒褐色細粒砂～極細粒砂に径 20cm 以下の礫・瓦を含む しまり弱
【撹乱】
8 10YR4/3 にぶい黄褐色細粒砂～シルトに地山ブロック5%含む
9 7.5YR6/8 橙色中粒砂～シルトに径 20cm 以下の礫をわずかに含む
【山砂】
10 10YR3/2 黒褐色シルトに地山を層状に含む
11 10YR6/8 明黄褐色中粒砂～シルトに径 20cm 以下の礫を含む
【山砂】
12 10YR4/2 灰黄褐色極細粒砂～シルトに径 20cm 以下の礫をわずかに含む
13 10YR3/3 暗褐色極細粒砂～シルトに炭化物をわずかに含む
14 10YR4/3 にぶい黄褐色極細粒砂～シルトに地山ブロック10%含む
15 10YR4/4 褐色極細粒砂～シルトに地山ブロック20%含む
16 10YR3/3 暗褐色極細粒砂～シルト
17 10YR3/3 暗褐色極細粒砂～シルトに炭化物・地山ブロック10%含む
18 7.5YR6/8 橙色シルト 【地山】

【4 トレンチ北壁】



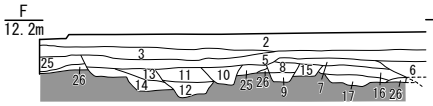
〈4 トレンチ土層注記〉

1 アスファルト
2 撹乱・コンクリート
3 砕石・盛土
4 撹乱
5 10YR4/2 灰黄褐色細粒砂炭化物・径 5mm 以下の砂粒を含む
6 10YR3/1 黒褐色極細粒砂地山ブロック30%含む
7 10YR3/2 黒褐色細粒砂～極細粒砂
8 10YR2/2 黒褐色極細粒砂～シルト
9 10YR2/3 黒褐色極細粒砂～シルト地山粒5%含む
【溝】
10 10YR3/3 暗褐色極細粒砂地山粒20%含む 【SD11382】
11 10YR4/4 褐色シルト 【根か？】
12 10YR2/3 黒褐色極細粒砂～シルト
13 10YR3/3 暗褐色極細粒砂～シルト
【包含層】
14 10YR5/6 黄褐色シルト 【地山】

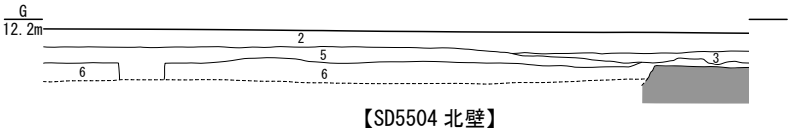
0 S=1/100 5m

第13図　第198－5次調査　土層図（1）（1:100）

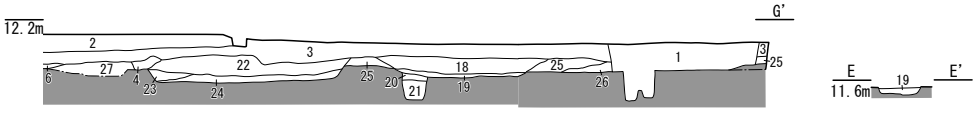
【5 トレンチ西壁】



【5 トレンチ東壁】



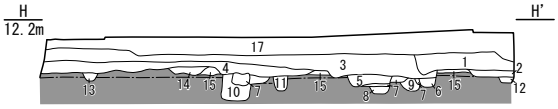
【SD5504 北壁】

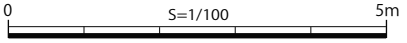


〈5 トレンチ・SD5504 土層注記〉

1 第 76-9 次調査埋戻し土
2 砕石・アスファルト
3 10YR4/2 灰黄褐色細粒砂～極細粒砂 しまり弱
4 【撹乱土】
5 10YR3/3 暗褐色細粒砂～シルトに地山ブロック 20%、炭化物を含む
6 10YR3/2 黒褐色細粒砂～シルトに地山粒 20%、炭化物・近世陶磁器を多く含む
7 10YR3/3 暗褐色細粒砂～シルト
8 10YR2/3 黒褐色細粒砂～シルト
9 10YR2/3 黒褐色細粒砂～シルトに地山粒 10%含む
【撹乱】
10 10YR4/2 灰黄褐色細粒砂～シルトに地山粒 10%含む
11 10YR2/1 黒色細粒砂～シルトに地山ブロック 5%含む
12 10YR2/1 黒色細粒砂～シルトに地山ブロック 30%含む
13 10YR4/2 灰黄褐色中粒砂～シルトに地山粒 20%、径 20cm 以下の層を多く含む
14 10YR4/3 にぶい黄褐色細粒砂～シルトに地山ブロック 20%含む
【撹乱】
15 10YR2/2 黒褐色極細粒砂～シルト 【SK11383】
16 10YR2/1 黒極色細粒砂～シルト
17 16 層に地山ブロック 10%含む
【SK11384】
18 10YR2/3 黒褐色極細粒砂～シルト
19 18 層に地山ブロック 20%含む
【SD5504】
20 10YR3/2 黒褐色極細粒砂～シルト
21 20 層に地山粒を 30%含む、しまりやや強
【ピット】
22 10YR2/2 黒褐色極細粒砂～シルト、平安時代土器を多く含む
23 22 層に地山ブロック 10%含む
24 10YR3/2 黒褐色極細粒砂～シルトに地山ブロック 20%含む
【SK11378】
25 10YR2/2 黒褐色極細粒砂～シルト
26 10YR4/4 褐色極細粒砂～シルト
【包含層】
27 10YR4/6 褐色極細粒砂～シルト
【地山】

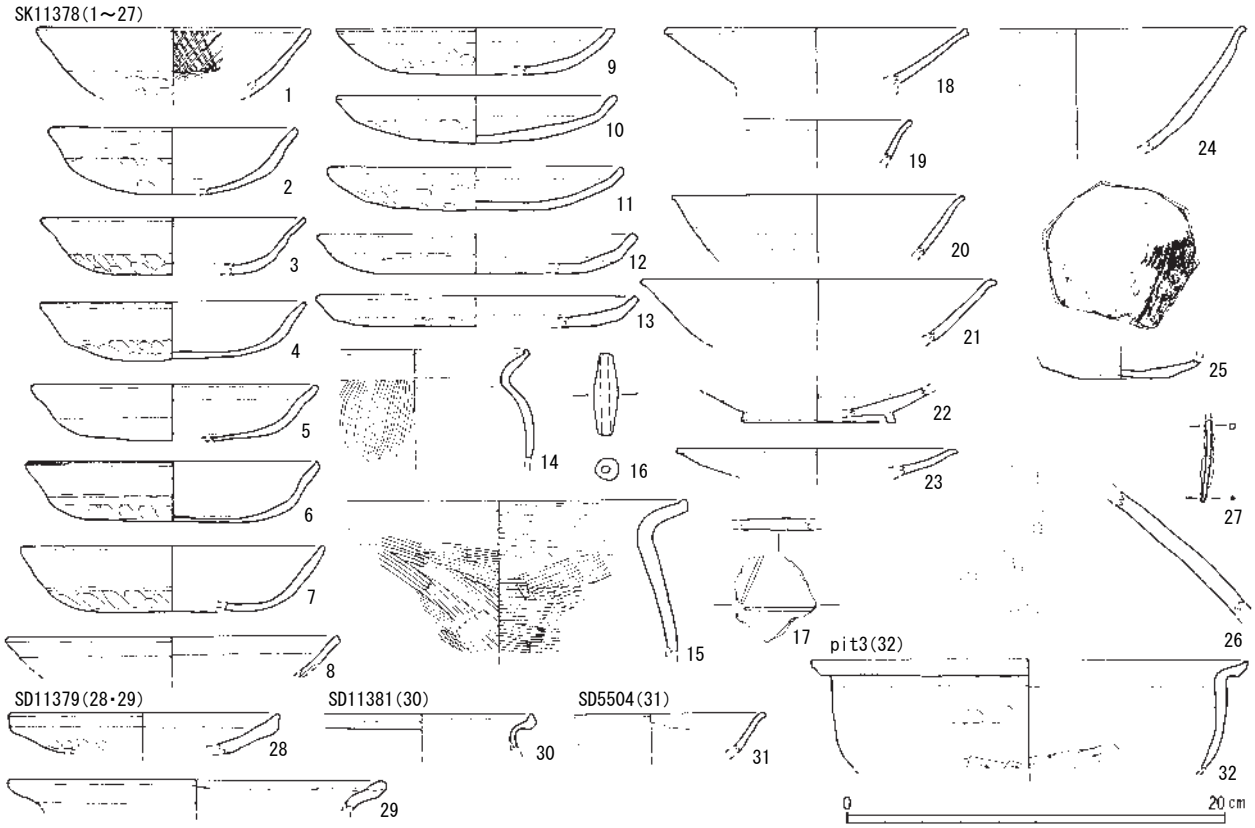
【6 トレンチ東壁】





〈6 トレンチ土層注記〉

1 【撹乱】
2 10YR2/2 黒褐色細粒砂～シルトに地山ブロック 20%含む
3 10YR4/2 灰黄褐色細粒砂～シルトに地山粒 10%、近世陶磁器含む
4 10YR3/3 暗褐色細粒砂～シルト
5 10YR3/2 黒褐色極細粒砂～シルトに地山粒 5%含む
6 10YR2/2 黒褐色極細粒砂～シルトに 10YR2/1 黒色シルトブロック 10%含む
7 10YR4/6 褐色シルトに地山ブロック含む
8 5 層に地山ブロック 5%含む
9 5 層に類似
10 10YR2/1 黒色極細粒砂～シルト 【樹木根】
11 10YR2/2 黒褐色極細粒砂～シルトに地山ブロック 10%含む
12 10YR3/3 暗褐色極細粒砂～シルト
13 10YR2/1 黒色極細粒砂～シルトに地山ブロック 5%含む
14 10YR2/3 黒褐色極細粒砂～シルトに地山粒 5%含む
15 10YR4/4 褐色シルト 【遺物包含層】
16 10YR4/6 褐色シルト 【地山層】
17 砕石・アスファルト



第14図　第198－5次調査　土層図（2）（1:100）**・遺物実測図**（1:4）

SK11380からは須恵器転用硯（25・26）も出土し、特に（26）は朱墨硯である。露越遺跡の範囲であり方格街区外に位置するが斎宮に関わるものと考えてよく、斎宮に関わる活動が史跡南端にも及んでいたと言える。

6　第198－6次調査（6AL5）

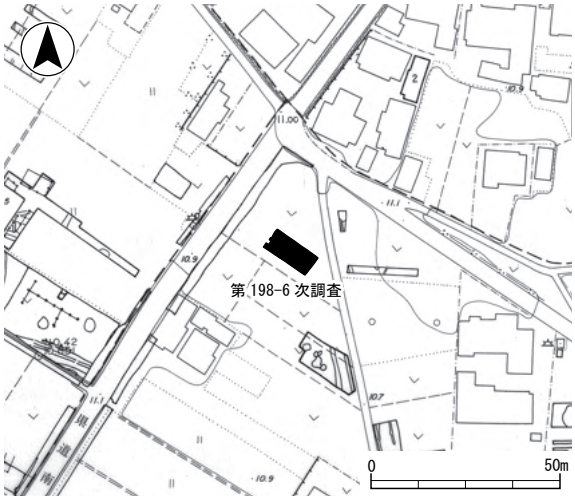
調査場所　多気郡明和町大字斎宮字古里3259-3

原　　因　住宅建築

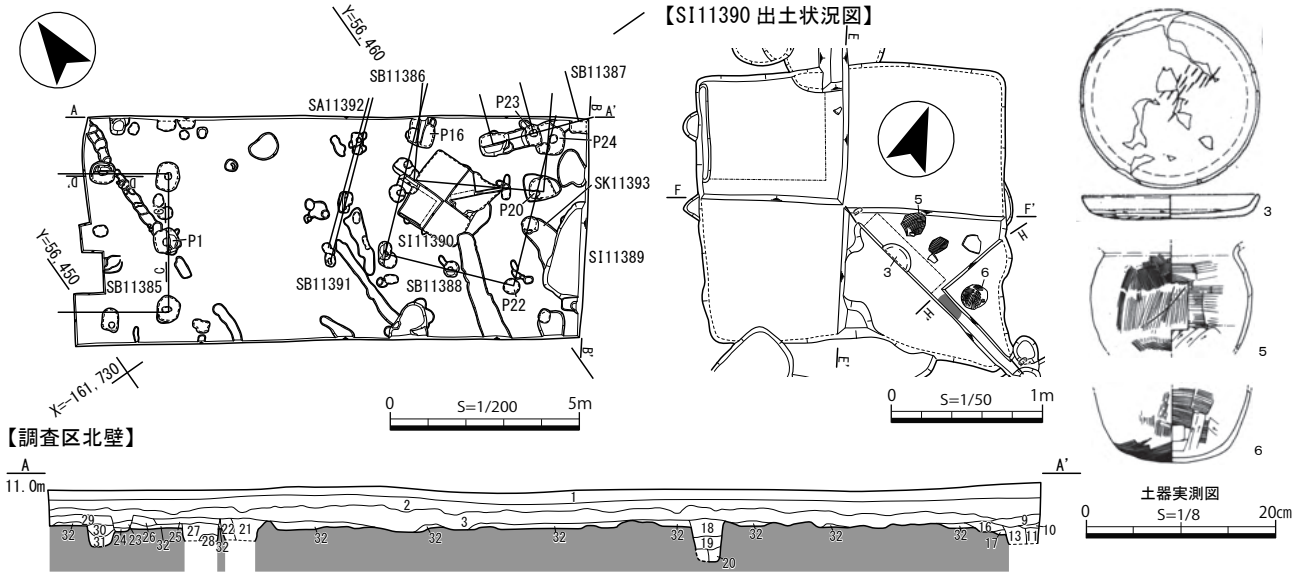
調査期間　令和２年10月６日～19日

調査面積　76.5㎡

調査概要　調査地は史跡北西部の史跡境界近くに位置し、斎宮歴史博物館から北東約80m地点の畑地である。住宅建築に伴う発掘調査で、東西約12.5m、南北約６mの矩形の調査区を設定し、西側一部を拡張した。調査地は地表面から深さ0.2mで遺物包含層に達し、更に0.2mの深さで地山面に至る。検出遺構は竪穴建物２棟、掘立柱建物４棟、柱列２条、土坑、溝で、その他、建物としてまとまらない小穴を複数確認した。

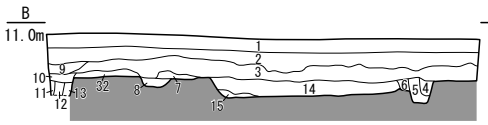


第15図　第198－6次調査区位置図（1:2,000）

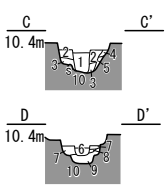


【調査区北壁】

【調査区東壁】



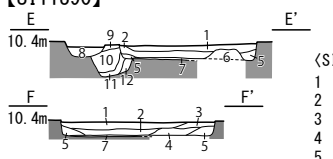
【SB11385】



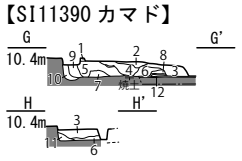
〈SB11385 土層注記〉

1　10YR2/2 黒褐色極細粒砂～シルトに地山粒 3%含む　【柱痕跡】
2　10YR2/1 黒色シルトに地山ブロック 30%含む
3　10YR2/1 黒色シルト
4　10YR3/3 暗褐色極細粒砂～シルト
5　10YR2/3 黒褐色極細粒砂～シルトに地山ブロック 5%含む　【掘方】
6　10YR2/2 黒褐色極細粒砂～シルト　【柱痕跡】
7　10YR2/1 黒色シルト
8　2 層に地山ブロック 5%含む
9　10YR2/3 黒褐色極細粒砂～シルトに地山ブロック 5%含む　【掘方】
10　10YR5/6 黄褐色シルト　【地山】

【SI11390】



【SI11390 カマド】



〈SI11390 土層注記〉

1　10YR2/1 黒色極細粒砂～シルトに地山ブロック 5%含む
2　10YR2/3 黒褐色極細粒砂～シルトに地山粒 5%含む
3　10YR4/2 灰黄褐色極細粒砂～シルト
4　３層に地山ブロック 5%含む
5　10YR2/1 黒色シルトに地山ブロック 10%含む
6　10YR3/4 暗褐色シルト
7　10YR5/6 黄褐色シルト、しまり強に 10YR2/1 黒色シルト粒 20%含む
8　10YR3/3 暗褐色極細粒砂～シルトに地山ブロック 30%含む　【P16】
9　10YR3/2 黒褐色極細粒砂～シルトに 10YR5/6 黄褐色シルトブロック 20%含む　【SB11386 P14】
10　10YR5/6 黄褐色シルトに 10YR2/2 黒褐色シルトを 20%含む
11　10YR2/1 黒色シルト
12　10YR5/6 黄褐色中粒砂～シルト

〈調査区壁土層注記〉

1　10YR5/2 灰黄褐色中粒砂～極細粒砂　【表土】
2　10YR4/2 灰黄褐色細粒砂～シルト　【耕土】
3　10YR2/3 黒褐色極細粒砂～シルト　【包含層】
4　10YR3/2 黒褐色極細粒砂～シルトに地山粒 5%含む
5　10YR3/2 黒褐色極細粒砂～シルトと地山ブロックの混合土
6　5 層に類似、地山ブロックやや少ない
7　10YR4/4 褐色シルト
8　10YR4/6 褐色シルト
9　10YR3/4 暗褐色シルト　【SB11387 柱穴】
10　10YR3/3 暗褐色極細粒砂～シルトに地山粒 3%含む
11　10YR2/1 黒色シルトに地山粒 5%含む
12　10YR3/3 暗褐色土極細粒砂～シルト
13　10YR2/2 黒褐色極細粒砂～シルトに 9・10 層が混ざる
14　10YR2/2 黒褐色シルト　【SI11389】
15　13 層に地山ブロック 30%含む
16　10YR2/1 黒色シルトに地山ブロック 5%含む
17　10YR3/3 暗褐色シルトに地山ブロック 20%含む
18　10YR3/3 暗褐色極細粒砂～シルトに 10YR2/1 黒色シルトブロック・地山ブロックそれぞれ 10%含む　【SB11387 柱穴】
19　10YR3/3 暗褐色極細粒砂～シルトに地山ブロック 30%含む　【SB113873 柱穴】
20　10YR2/3 黒褐色極細粒砂～シルトに地山粒 10%含む
21　10YR3/4 暗褐色極細粒砂～シルトに地山ブロック 20%含む
22　10YR2/1 黒色シルトに地山ブロック 3%含む
23　10YR2/3 黒褐色極細粒砂～シルト
24　10YR4/4 褐色シルト
25　10YR3/2 黒褐色極細粒砂～シルト
26　24 層に地山粒 10%含む
27　10YR3/3 暗褐色極細粒砂～シルトに 10YR2/1 黒色シルトブロック 10%、地山ブロック 5%含む
28　10YR5/6 黄褐色シルト
29　10YR2/2 黒褐色シルトに地山粒 3%含む
30　10YR2/1 黒色シルトに地山ブロック 10%含む
31　10YR2/1 黒色シルトに地山ブロック 30%含む
32　10YR2/3 黒褐色極細粒砂～シルト　【地山】
33　10YR5/6 黄褐色シルト

〈SI11390 カマド土層注記〉

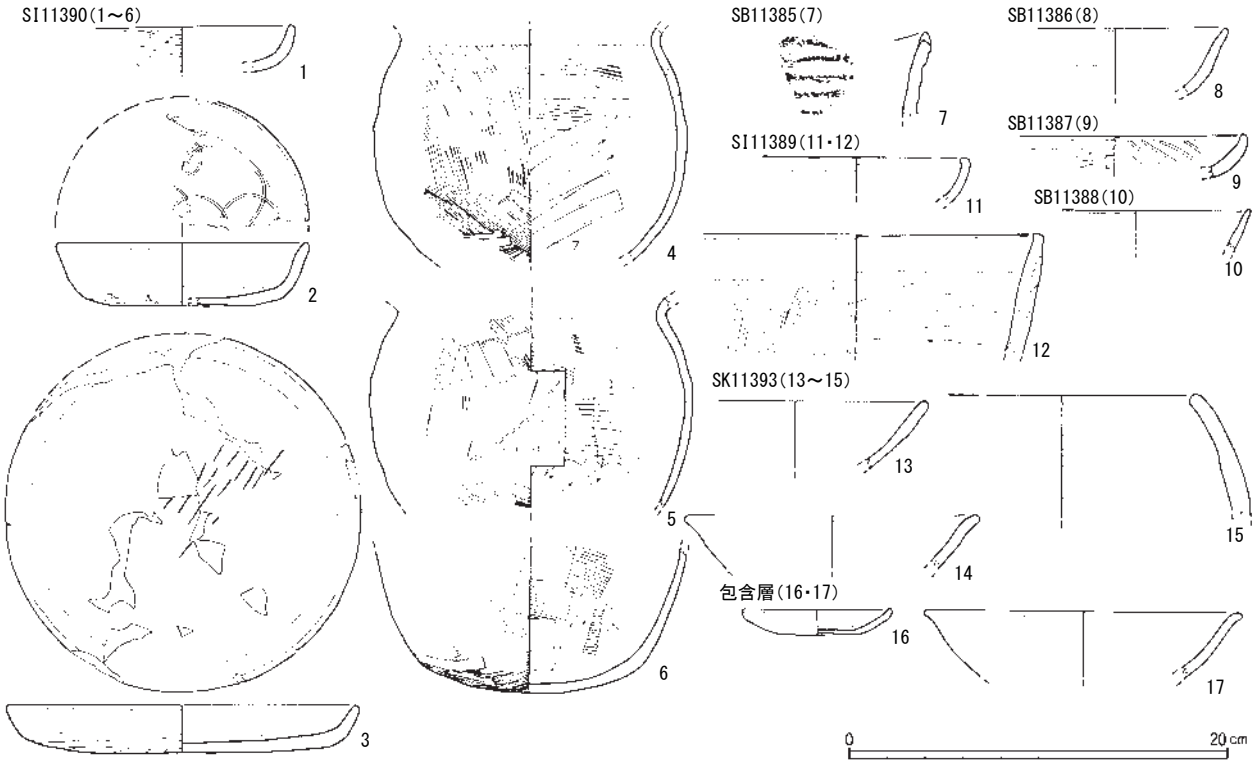
1　【地山】
2　10YR2/3 黒褐色極細粒砂～シルトに地山ブロック 5%含む
3　10YR4/4 褐色シルトに地山粒 10%含む
4　10YR2/2 黒褐色極細粒砂～シルトに焼土・地山ブロック 10%含む
5　10YR3/2 黒褐色極細粒砂～シルト
6　10YR4/2 灰黄褐色シルトに焼土粒 5%含む
7　10YR2/1 黒色シルトに地山ブロック 20%含む
8　10YR5/6 黄褐色シルト　【地山か】
9　10YR2/1 黒色極細粒砂～シルト
10　9 層に地山ブロック 10%含む
11　10YR2/1 黒色シルトに地山ブロック 10%含む
12　10YR5/6 黄褐色シルト、しまり強に 10YR2/1 黒色シルト粒 20%含む

第16図　第198－6次調査　遺構平面図（1:200）**・SI11390出土状況図**（1:50）**・土層図**（1:100）

SI11390は東西2.0m・南北1.8mのやや長方形の平面形を持つ。北東部・南西部は未掘としたが、南東コーナーにカマドがあり、その外側延長に煙り出しと考えられるピットがある。カマド本体の構築土は土層観察等では確認できず、C・D３層に灰層や焼土粒子が混入する程度のため、構造体は残存していない可能性が高い。カマド燃焼部は床面が被熱により硬化しているC・D12層周辺と考えられる。土師器皿A（３）は地山シルトブロックに覆われてカマド埋土下層から出土しているが、地山シルトブロックはカマド崩落土で、土師器皿はカマド崩落時に混入したと考えられることから、土器の年代すなわち斎宮Ⅰ-２期がカマド廃絶時期と考えられる。主柱穴は確認できず、北西部では西壁に沿って幅約0.1mの壁周溝が延長約0.65m確認できた。また、北西部では貼床及び硬化面を確認した。

SI11389は調査区東端で検出し、大半が調査区外へと広がる。確認できる規模は、南北2.5m・東西1.0m以上の隅丸方形の平面形を呈すると考えられ、地山面からの深さは0.2mである。断面形状は壁面がほぼ垂直である。調査範囲では壁周溝や主柱穴等は確認できなかったが、平面及び断面形状から竪穴建物とした。出土遺物は土師器皿A（11）・甑（12）があり、SI11390と同様、斎宮Ⅰ-２併行期、８世紀前半、奈良時代と考えられる。

SB11385は調査区西側で確認した、桁行２間以上×梁行２間の東西棟建物である。建物の大半が調査区外へと延びる。建物方位はおよそN32°Eである。柱間寸法はいずれも約1.8m（６尺）で柱掘方は一辺0.6～0.8mの隅丸方形である。梁行妻柱であるP１の掘方から図化はしていないが斎宮Ⅰ-２～３期と考えられる土師器皿底部片が出土していることから、SB11385の掘削時期は遅くともⅠ-３期と言える。SB11386は調査区東側で確認した桁行２間以上×梁行１～２間の南北棟の建物である。建物の大半が調査区外へとのびる。建物方向はおよそN38°Eである。柱間は桁行1.5m、梁行は１間の場合3.6mである。SI11390、SB11387・11388と重複関係にあり、SB11386は最も古い建物である。妻柱部分はSI11390と重複しており、妻柱の想定箇所がSI11390カマドに当たることからカマドの東西方向土層観察畦に沿って土層観察したが、竪穴建物の貼床下では柱穴等は確認できなかった。出土遺物はP16から斎宮Ⅰ-２～３期に併行すると思われる土師器杯片、P20から斎宮Ⅰ-３期の土師器皿片、P24から斎宮１-３期の土師器杯A（８）が出土することから、遺物取り上げ時に柱掘方と柱痕跡とで分けていないこともあるが、少なくとも建物建設は斎宮Ⅰ-２期以降、廃絶はSI11390より古い斎宮Ⅰ-３期までといっていい。SB11387は調査区東隅で検出した建物で、布掘りを持つ掘方に南柱列のみ確認できる。柱間が1.2～1.3mと狭いことや斎宮跡では布掘り掘方をもつ掘立柱建物は総柱建物である例が多いことからSB11387も総柱建物の可能性が高い。方位はおおよそN15°Eである。遺物はP23から斎宮Ⅰ-２～３期の土師器皿A（９）が出土しており、掘方と柱痕跡からの出土か区別はしていない。少なくとも造営は斎宮Ⅰ-２期に遡る可能性はあるが、重複関係からSB11386よりも新しいといえる。SB11388は調査区南東部で検出した建物で、桁行３間以上×梁行２間である。建物方向はN49°



第17図　第198－6次調査　遺物実測図（1:4）

E、柱間寸法は桁行2.0m、梁行1.8mである。出土遺物は細片ではあるが柱穴から古代に属する土師器片が出土する。P22からは斎宮Ⅰ-３期と考えられる須恵器杯口縁部片（10）が出土する。掘方か柱痕跡からの出土か判然としないが、古くとも斎宮Ⅰ-３期、重複関係からSB11386・SB11387よりも新しいと言えることから、奈良時代の範疇に収まる。

SA11391・11392はほぼ同じ位置に建替えられる柱列で、SB11388と方向をほぼ同じくすることから、SB11388に伴う遮蔽施設の可能性もある。出土遺物は、古代の範疇に収まる土師器甕体部片や杯部底部片が細片で出土した。

SK11393は、断面形状がやや船底状を呈する長辺1.5m×短辺約0.7m、検出面からの深さ約0.1mの土坑である。重複関係からSI11389よりも新しく、出土遺物は13世紀代の所産と考えられる南伊勢系土師器鍋口縁部片や４～５段階の渥美産陶器椀（13・14）・壺（15）があり、鎌倉時代の遺構といえる。その他、ほぼ真北を向く溝４条は、出土遺物がないものの、重複関係からSI11390やSB11385よりも新しく、少なくとも平安時代以降の溝と言える。

7　第198－7次調査（6AL13）

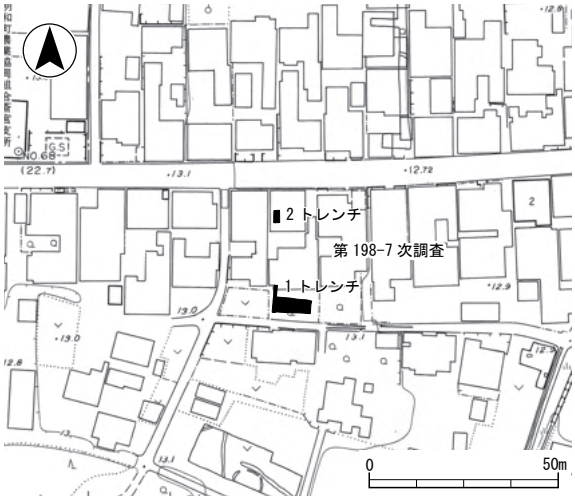
調査場所　多気郡明和町大字斎宮字牛葉100-1、100-2、96-3

原　　因　住宅建築

調査期間　令和２年10月27日～令和３年２月12日

調査面積　42.2㎡

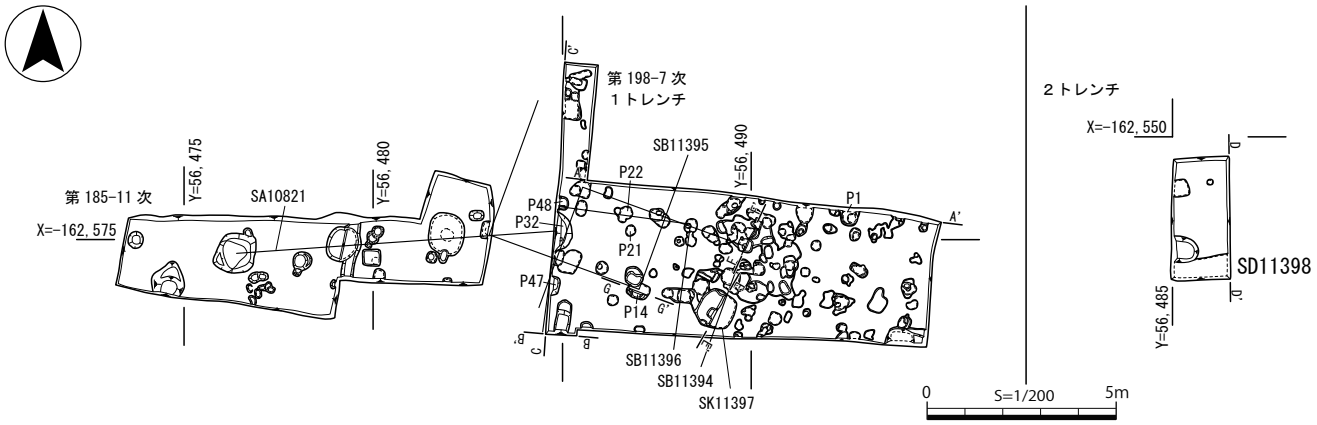
調査概要　調査地は史跡南東部、斎宮小学校から南東に約150mの地点にある宅地に位置する。住宅建築に伴う発掘調査で、調査区は２カ所に分け、南の１トレンチは東西約10m・南北３～４mで、西端部の北側を約３m分拡張し、北の２トレンチは浄化槽埋設に伴い設定した調査区で、東西約１m・南北約３mである。調査時の地表面から１トレンチでは0.25mで遺物包含層上面に、２トレンチでは調査時地表面から0.33mで遺物包含層上面に達する。なお２トレンチは近世の削平が及んでいることから、本来の遺物包含層はもう少し浅いところで確認できるものと考えられる。今回確認した平安時代を中心とした遺構はこの遺物包含層上面から切り込んでおり、本来ならばこの遺物包含層上面で遺構検出を行うべきではあるが、遺構埋土と遺物包含層の土色が類似することから、遺構誤認を避けるために地山面上に置いて遺構検出を行った。なおこの地山面までの深さは１トレンチでは0.45～0.5m、２トレンチでは0.37mである。



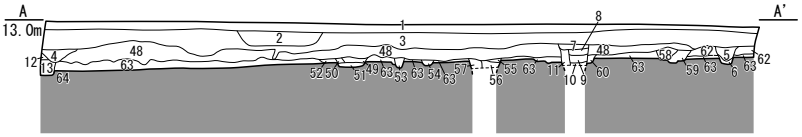
第18図　第198－7次調査区位置図（1:2,000）

遺構は、掘立柱建物３棟、柱列１条、溝１条、土坑１基、建物を構成すると思われる小ピット多数である。調査時、土坑は５基を数えたが、そのうち４基については不整形を呈し、掘り下げるとピットを検出したことから、ピットの重複等により土坑状に検出されたと考え、４基については本報告では遺構番号を付与していない。

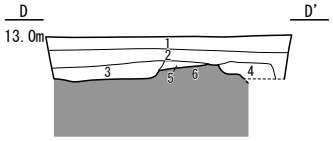
SB11395は桁行２間以上・梁行２間の南北棟と思われ、柱間は桁行、梁行とも2.0mである。柱掘方の形状は隅丸の略方形を呈し、１辺が約0.3m、柱痕跡が確認できた南東隅柱P14では柱径0.16m程である。建物方位はN20°Eである。SB11394・11396の柱穴と重複関係にあり、SB11395がそれらよりも古い段階のものとわかる。南東隅の柱穴P14から土師器杯（３～５）が出土しており、斎宮Ⅱ-３期の建物であると言える。SB11394は桁行２間以上×梁行２間の南北棟と思われ、柱間は桁行1.9m、梁行は東から2.4m・2.1mである。柱掘方の形状は隅丸の方形を呈すると思われ、１辺が約0.4mである。柱痕跡は、確認できる北東隅柱のP57では、柱径は0.14mである。建物方位はN20°Eである。北の妻柱がSB11395柱掘方と、SB11395南妻柱がSB11394側柱柱掘方がそれぞれ重複関係にありSB11395よりも新しいことがわかる。また、後述する第185-11次調査で検出したSA10821の柱掘方とも重複関係にあり、SB11394が新しいことがわかる。その他、SB11394の側柱掘方がSK11397と重複関係にあり、SK11397が新しいことが判明している。SB11394の柱掘方からは図化できる土器は出土しなかったが、重複関係から斎宮Ⅱ-３期よりも新しく、SK11397から図化はしていないがH-72窯式期、10世紀後半の灰釉陶器が出土していることから、SB11394は概ね10世紀前半代に収まる時期の建物と言える。SB11396は１トレンチ西部で確認した建物で、桁行２間以上・梁行２間の南北棟である。柱間は東側柱は1.9m、西側柱は2.1m、梁行は1.7mの等間である。柱掘方の形状は隅丸方形で、１辺0.3～0.35mである。柱痕跡は平面検出で確認した北東隅の



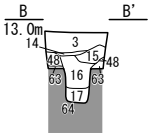
【1 トレンチ北壁】



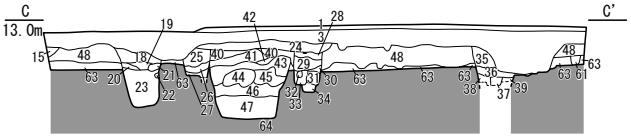
【2 トレンチ東壁】



【1 トレンチ南壁】



【1 トレンチ西壁】



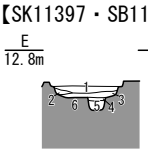
〈2 トレンチ土層注記〉

1 10YR4/4 ～ 4/6 褐色シルト、砕石混じる 【表土】
2 10YR3/4 暗褐色極細粒砂～シルトに
10YR2/1 黒色シルト・地山ブロック 10%含む
3 10YR2/1 黒色シルトに２層をブロック状に 30%含む
4 10YR2/1 黒色極細粒砂～シルトに古代の遺物を含む 【SD11398】
5 10YR2/3 黒褐色極細粒砂～シルト 【包含層】
6 2.5Y7/6 明黄褐色シルト 【地山】

〈1 トレンチ土層注記〉

1 【砕石】
2 【攪乱】
3 10YR3/2 黒褐色極細粒砂～シルト
4 10YR3/3 暗褐色極細粒砂～シルト
5 10YR2/2 黒褐色極細粒砂～シルトに地山ブロック 5%含む
6 10YR4/4 褐色シルトと 3 層の混合土
7 10YR4/3 にぶい黄褐色極細粒砂～シルトに地山粒 20%含む
8 10YR2/2 黒褐色極細粒砂～シルトに地山粒 3%含む
9 10YR2/2 黒褐色極細粒砂～シルトと
10YR3/3 暗褐色シルトの混合土に地山粒 5%含む
10 10YR2/2 黒褐色極細粒砂～シルトに地山粒 10%含む
11 10YR4/3 にぶい黄褐色極細粒砂～シルトと地山ブロックの混合土 【P1】
12 10YR3/3 暗褐色極細粒砂～シルトに地山ブロック 30%含む
13 10YR3/3 暗褐色極細粒砂～シルトに
10YR2/2 黒褐色シルト粒子・地山粒 10%含む
14 10YR4/1 褐灰色極細粒砂～シルト
15 10YR6/3 にぶい黄橙色シルトに 14 層を 20%含む
16 10YR6/3 にぶい黄橙色シルトと 14 層の混合土 【P46】
17 10YR2/1 黒色極細粒砂～シルト
18 10YR4/1 褐灰色極細粒砂～シルトに地山ブロック 10%含む
19 10YR4/1 褐灰色極細粒砂～シルトに地山ブロック 3%含む
20 10YR4/2 灰黄褐色極細粒砂～シルトに地山ブロック 20%含む
21 10YR5/2 灰黄褐色極細粒砂～シルトに
10YR4/1 褐灰色極細粒砂～シルト 20%含む
22 【地山ブロック】
23 10YR3/1 黒褐色極細粒砂～シルトに地山ブロック 20%含む 【SB11396 P47】
24 10YR5/3 にぶい黄褐色極細粒砂～シルト
25 10YR3/2 黒褐色極細粒砂～シルト
26 10YR4/2 灰黄褐色極細粒砂～シルト 【SB11394 P33】
27 26 層に地山ブロックを 40%含む
28 10YR4/1 褐灰色極細粒砂～シルトに地山ブロック 3%含む
29 10YR4/1 褐灰色極細粒砂～シルトに地山粒 30%含む
30 10YR3/2 黒褐色極細粒砂～シルトに地山ブロック 20%含む 【SB11396 P48】
31 10YR6/3 にぶい黄橙色シルトに
10YR3/2 黒褐色極細粒砂～シルト 20%含む
32 【地山ブロック】
33 10YR3/2 黒褐色極細粒砂～シルトに地山粒 5%含む
34 10YR3/2 黒褐色極細粒砂～シルトに地山ブロック 30%含む 【SB11396 P48】
35 10YR3/1 黒褐色シルトに地山粒 10%含む
36 10YR3/1 黒褐色シルトに地山粒 40%含む
37 10YR5/2 灰黄褐色極細粒砂～シルトに
10YR2/1 黒色極細粒砂～シルトを 30%含む
38 10YR5/2 灰黄褐色極細粒砂～シルトに地山ブロック 10%含む
39 10YR2/1 黒色極細粒砂～シルトに地山ブロック 10%含む 【P68】
40 10YR4/1 褐灰色極細粒砂～シルトに地山粒 5%含む
41 10YR3/1 黒褐色極細粒砂～シルトに地山粒 5%含む
42 40 層・41 層の混合土に地山ブロック 30%含む
43 10YR3/1 黒褐色極細粒砂～シルトに地山粒 20%含む
44 10YR2/1 黒色シルトに地山ブロック（擬礫化）・地山粒 30%含む
45 10YR2/1 黒色シルトに地山ブロック（擬礫化）・地山粒 10%含む 【SA10821 P32】
46 10YR6/3 にぶい黄橙色シルトに
地山ブロック（擬礫化）・10YR2/1 黒色シルト 20%含む
47 10YR6/3 にぶい黄橙色シルトに
地山ブロック（擬礫化）・10YR2/2 黒褐色シルト 40%含む
48 10YR2/2 黒褐色極細粒砂～シルトに
10YR3/3 暗褐色極細粒砂～シルトブロック 10%含む 【包含層 1】
49 10YR2/2 黒褐色極細粒砂～シルトに地山ブロック 3%含む
50 10YR4/4 褐色シルト
51 10YR2/1 黒色極細粒砂～シルトに地山粒 40%含む
52 10YR3/3 暗褐色極細粒砂～シルトに地山ブロック 10%含む
53 10YR2/1 黒色極細粒砂～シルトに地山ブロック 10%含む
54 10YR3/3 暗褐色極細粒砂～シルトに地山ブロック 10%含む
55 10YR2/2 黒褐色シルトに地山粒 3%含む
56 10YR2/2 黒褐色極細粒砂～シルトに地山粒 20%含む
57 10YR3/3 暗褐色極細粒砂～シルトに地山ブロック 10%含む
58 10YR2/2 黒褐色極細粒砂～シルトに地山粒 5%含む
59 10YR3/3 暗褐色極細粒砂～シルトに地山ブロック・地山粒 30%含む
60 10YR2/2 黒褐色極細粒砂～シルトに地山粒 10%含む
61 10YR6/3 にぶい黄橙色シルトに 10YR2/2 黒褐色極細粒砂～シルト 20%含む
62 10YR3/3 暗褐色極細粒砂～シルトに地山粒 10%含む
63 10YR4/4 褐色極細粒砂～シルト 【包含層 2】
64 10YR4/6 褐色シルト 【地山】

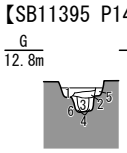
【SK11397・SB11394 P51】



〈土層注記〉

1 10YR3/1 黒褐色極細粒砂～シルト
2 1 層に地山ブロック 40%含む 【SK11397】
3 10YR3/2 黒褐色極細粒砂～シルト
4 10YR2/2 黒褐色極細粒砂～シルトに
地山粒 30%含む 【SB11394 P51】
5 10YR2/2 黒褐色極細粒砂～シルトに
地山粒 5%含む
6 10YR6/3 黄橙色シルト 【地山】

【SB11395 P14】

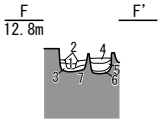


〈土層注記〉

1 10YR3/1 黒褐色シルトに地山ブロック 20%含む
2 10YR3/1 黒褐色シルトに地山粒 40%含む
3 10YR3/2 黒褐色シルト
4 10YR3/1 黒褐色シルトに地山粒 20%含む 【SB11395 P14】
5 地山ブロックに 10YR3/1 黒褐色シルト 5%含む
6 10YR6/3 にぶい黄橙色シルト 【地山】

0 S=1/100 5m

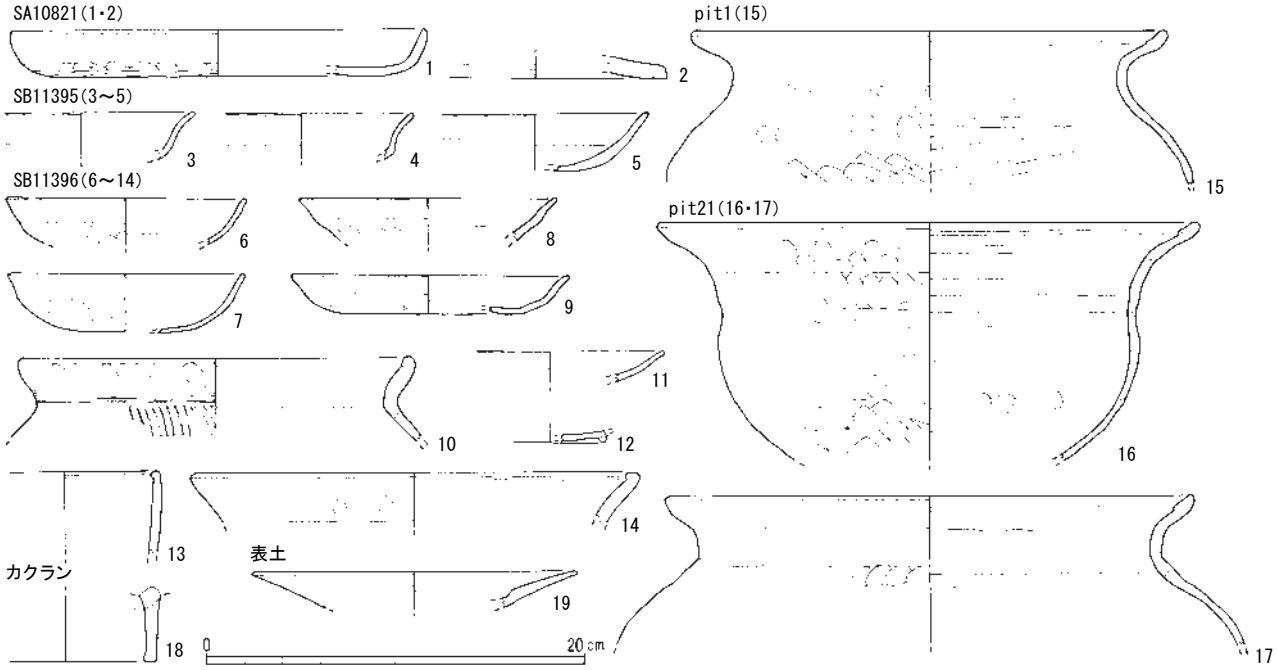
【SB11394 P57・P73】



〈土層注記〉

1 10YR2/1 黒褐色極細粒砂～シルトに地山粒 5%含む
2 10YR2/2 黒褐色極細粒砂～シルトに地山ブロック 5%含む
3 10YR6/3 にぶい黄橙色シルトに 10YR2/2 黒褐色極細粒砂～シルト 30%含む 【SB11394 P57】
4 10YR2/3 黒褐色極細粒砂～シルトに地山ブロック 3%含む
5 10YR2/3 黒褐色極細粒砂～シルトに地山ブロック 10%含む
6 10YR2/3 黒褐色極細粒砂～シルトに地山ブロック・地山粒 30%含む 【P73】
7 10YR6/3 にぶい黄橙色シルト 【地山】

第19図　第198－7次調査　遺構平面図（1:200）・土層図（1:100）



第20図　第198－7次調査　遺物実測図（1:4）

柱で0.12mほどと他の建物よりも若干細い。建物方位はＮ７°Ｅである。他の遺構との重複関係はないが、北妻柱P22から土師器杯（６～９）・甕（10）、北西隅柱P48から灰釉陶器皿（11）、西側柱Ｐ47からは黒色土器椀底部（12）・土師器鉢（13）・甕（14）が出土し、それらの年代から斎宮Ⅲ-１～２期、10世紀後半～11世紀代の所産と考えられることから、この土器が掘方あるいは柱痕跡からの出土かは確認していないが、およそ11世紀代に機能した建物と考えられる。

SA10821は平成27年度第185-11次調査で検出した柱間寸法約3.0mの柱列で、今回、建物にまとまる南北柱列の検出を期待したが、調査区の制約はあるものの、延長の東端部柱P32を確認するに止まった。P32は調査区西壁際、大半が調査区外へと広がる隅丸方形の柱掘方で、調査区内で確認する掘方規模は南北1.05m、遺物包含層上面からの深さは１m程である。柱掘方からの出土遺物として土師器皿（１）があり斎宮Ｉ-３期の所産と考えられ、その他高杯脚部（２）も同時期と考えられることから、SA10821は奈良時代後期、８世紀後半と言える。２トレンチで検出したSD11398は東西方向の溝で幅0.6m以上、遺構包含層上面からの深さは約0.2mである。出土遺物には土師器甕口縁部片や頸部～体部片などがあり、細片ながら奈良～平安時代初め頃の所産と考えられることから、SD11398もSA10821と同時期のものの可能性が高い。

出土遺物には、柱穴のＰ１からは南伊勢系土師器鍋（15・16・17）は南伊勢系第一段階、13世紀のものが出土するなど、鎌倉時代の建物も存在すると考えられる。

８　第198－8次調査（6AR13）

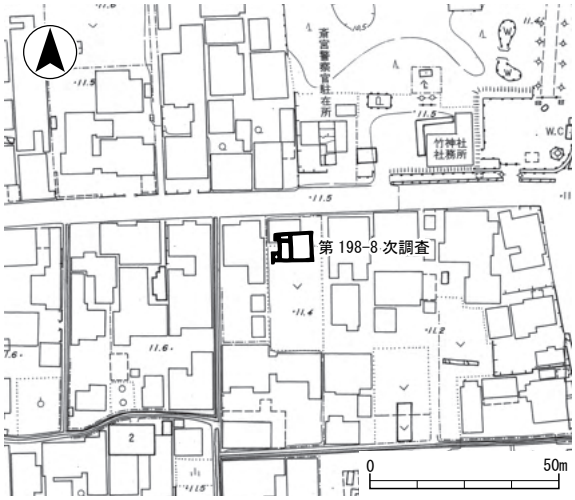
調査場所　多気郡明和町大字斎宮字牛葉572-1、572-6

原　　因　住宅建築

調査期間　令和２年11月26日～12月３日

調査面積　22㎡

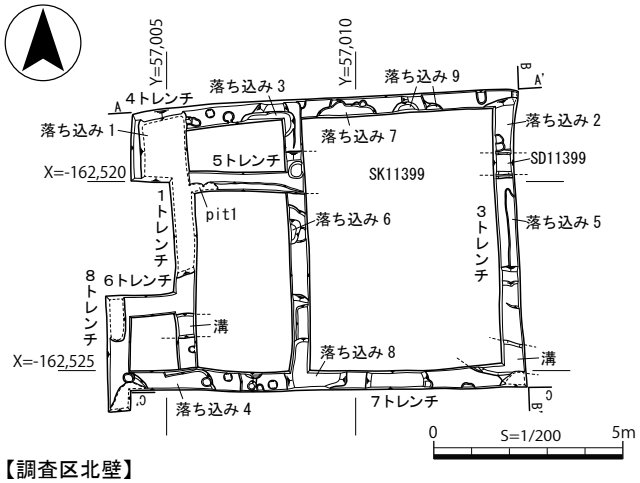
調査概要　調査地は史跡南東部、竹神社の南約20mの宅地である。住宅建築に伴う発掘調査で、地下遺構への影響が免れない鋼管杭の打設地点及び浄化槽設置地点に合わせて調査区を設定した。調査区北部では調査時の地表面から0.4mで地山としたにぶい黄橙色～橙色シルトが、南部では0.65mで地山面を確認したが、その上面まで近世の攪乱（落ち込み）が及ぶことから、遺物包含層及び本来の地山面は更に上面にあると考えられ



第21図　第198－8次調査区位置図（1:2,000）

る。遺構は２条の溝を確認した。

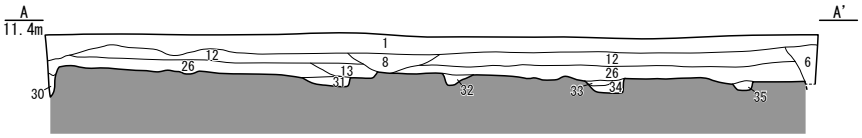
SD11399は幅0.65mで調査区がトレンチ状であるが、３・５トレンチで確認した溝が同一と考えられ、延長8.5m以上、溝方向はＥ２°Ｎである。底面の標高は東端で約10.2m、中央付近で約10.3m、西端で約10.2mである。断面形状は調査区東壁土層で確認すると箱形状である。出土遺物に渥美産の陶器椀（１・２）があり４型式の所産と考えられることか



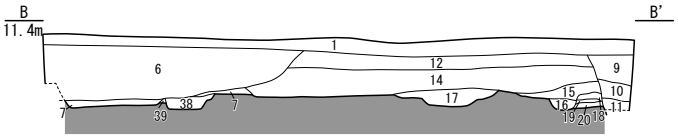
〈土層注記〉

1 10YR6/2 灰黄褐色極細粒砂に径 20 cm以下の礫を多く含む 【表土】
2 7.5YR7/6 橙色粗粒砂～細粒砂に 3 層 10%含む
3 7.5YR3/1 黒褐色シルトに 2 層 5%含む 【造成土】
4 10YR3/2 黒褐色シルトに 10YR2/1 黒色シルトブロック 5%含む
5 10YR4/3 にぶい黄褐色シルトに地山ブロック 30%含む 【落込 4】
6 7.5YR4/6 褐色粗粒砂～シルトに径 20 cm以下の礫を非常に多く含む
7 10YR3/1 黒褐色シルトに 23 層粒 30%含む 【落込 2】
8 10YR4/3 にぶい黄褐色シルトに
10YR2/1 黒色シルトを層状に含む、陶器甕片を多く含む 【撹乱？】
9 10YR4/2 灰黄褐色シルトに 23 層粒 5%含む
10 10YR4/1 褐灰色シルトに炭化物粒 5%含む
11 10YR3/2 黒褐色シルトに地山ブロック 20%含む 【撹乱？】
12 10YR4/2 灰黄褐色シルトに
7.5YR7/6 橙色粗粒砂～細粒砂を層状に含む、しまり強い 【整地層】
13 10YR3/3 暗褐色シルトに地山粒 20%含む
14 10YR4/2 灰黄褐色シルトに径 10 cm以下の礫を多く含む 【撹乱？】
15 10YR4/2 灰黄褐色シルトに地山ブロック 10%含む
16 10YR2/2 黒褐色シルトに地山ブロック 20%含む 【溝？】
17 10YR4/2 灰黄褐色シルトに径 20 以下の礫を少し含む 【撹乱？】
18 10YR6/6 明黄褐色シルトに 10YR3/1 黒褐色シルトを 30%含む
19 10YR2/1 黒色シルトに 21 層を 20%含む 【溝？】
20 10YR4/2 灰黄褐色シルトに地山ブロック 3%含む
21 10YR3/2 黒褐色シルトに地山粒 5%含む
22 10YR4/4 褐色シルトに 21 層を 30%含む
23 7.5YR6/6 橙色シルト
24 10YR3/2 黒褐色シルト 【落込 8】
25 24 層に 2.5Y6/3 にぶい黄色シルト 20%含む
26 10YR4/2 灰黄褐色シルトに地山粒 10%含む
27 10YR4/3 にぶい黄褐色シルトに
径 20cm 以下の礫を含む
28 10YR2/1 黒色シルト
29 10YR4/3 にぶい黄褐色シルトに
地山粒 20%含む
30 10YR2/2 黒褐色シルトに
地山地山ブロック 30%含む
31 10YR3/2 黒褐色シルトに
10YR3/1 黒褐色シルト粒 10%含む
32 10YR3/2 黒褐色シルトに
径 10 cm以下の礫を含む
33 10YR4/2 灰黄褐色シルトに地山粒 20%含む
34 10YR4/2 灰黄褐色シルトに
地山ブロック・地山粒 20%含む
35 10YR5/4 にぶい黄褐色シルトに
26 層粒 10%含む
36 10YR3/3 暗褐色シルトに
地山ブロック 10%含む
37 10YR2/2 黒褐色シルトに
地山ブロック 20%含む
38 10YR3/2 黒褐色シルト 【SK11399】
39 10YR4/2 灰黄褐色シルト
40 10YR6/4 にぶい黄橙色シルト～ 7.5YR6/6 橙色シルト 【地山】

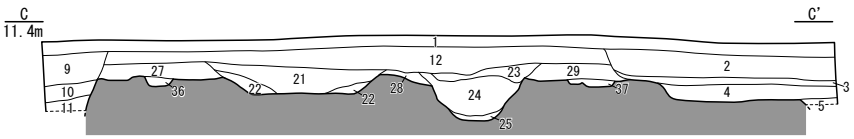
【調査区北壁】



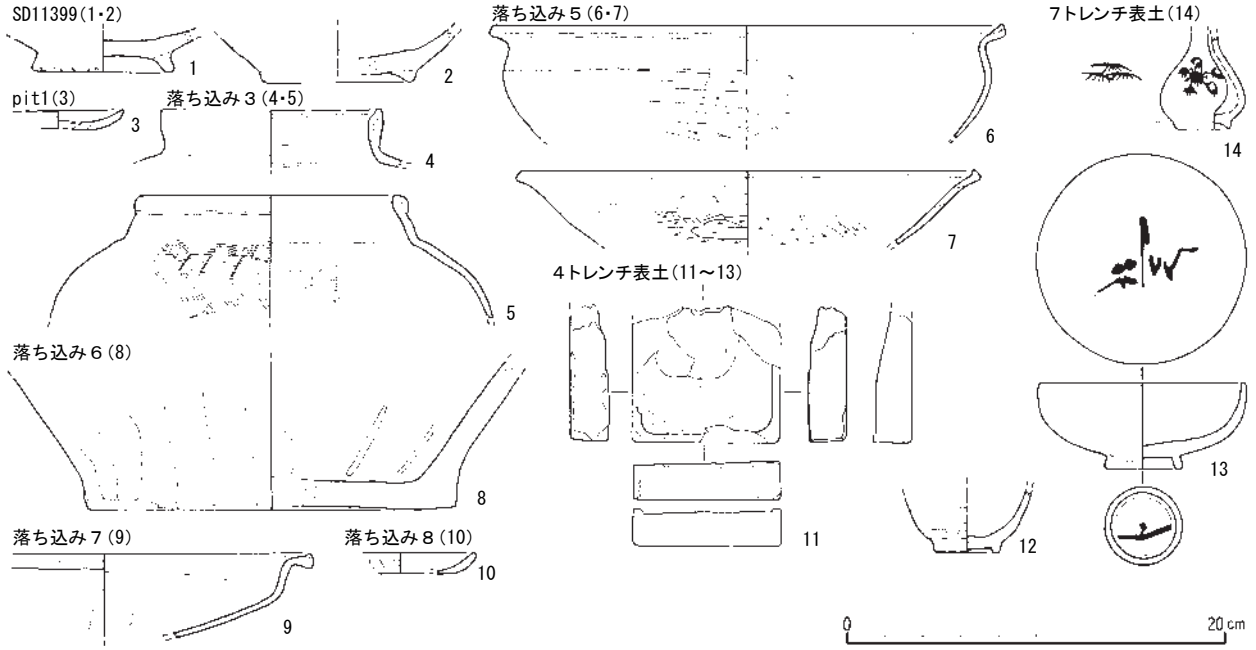
【調査区東壁】



【調査区南壁】



0 S=1/100 5m



第22図　第198－8次調査　遺構平面図（1:200）**・土層図**（1:100）**・遺物実測図**（1:4）

ら、溝の埋没時期は平安時代末～鎌倉時代前期と考えられる。３・７トレンチで確認した溝は幅0.9m・延長1.2m以上で、底面の標高は10.24m、断面形状は箱状である。延長となる２トレンチでは確認できないが、１トレンチにおいて延長と考えられる溝が検出されることから、２トレンチでは削平されているものと考えられる。１トレンチで確認した標高は10.3mである。その西の８トレンチは確認した地山面が深く、１・３・７トレンチで確認した溝底面標高よりも調査標高が低いため溝延長は確認できていない。溝方向はＥ５°Ｓ、出土遺物はなく、溝の機能時期等は不明である。

調査区全体にわたり確認した落ち込みは出土遺物から18世紀後半～19世紀前期のもので、ごく一部を図化したのみであるが江戸時代の伊勢街道の賑わいを偲ばせる遺物が多く出土している。

９　第198－9次調査（6AK7）

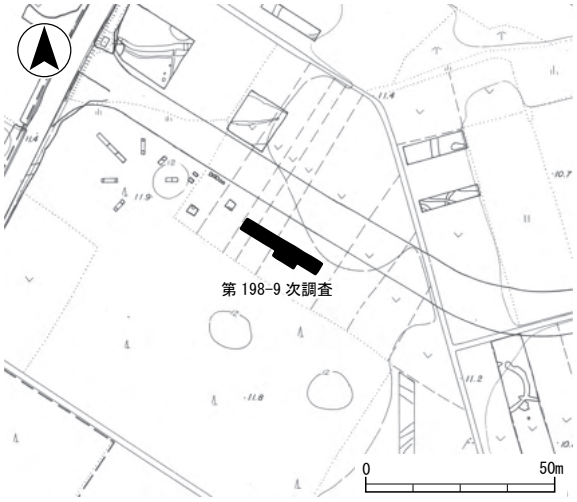
調査場所　多気郡明和町大字斎宮字塚山3276-23、3276-25、3276-27

原　　因　「歴まち整備事業」にかかる公園整備事業に伴う事前発掘調査

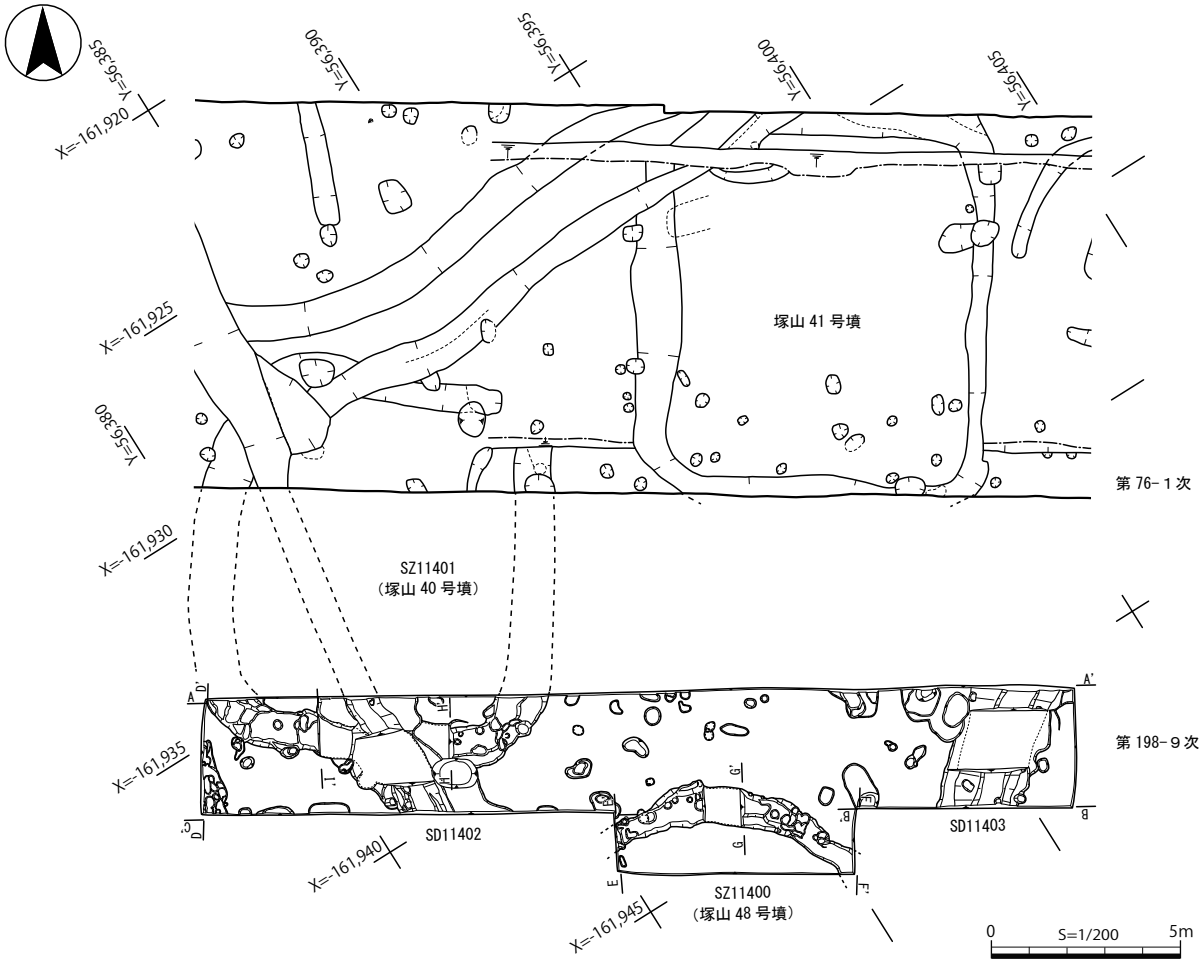
調査期間　令和３年１月14日～２月12日

調査面積　80㎡

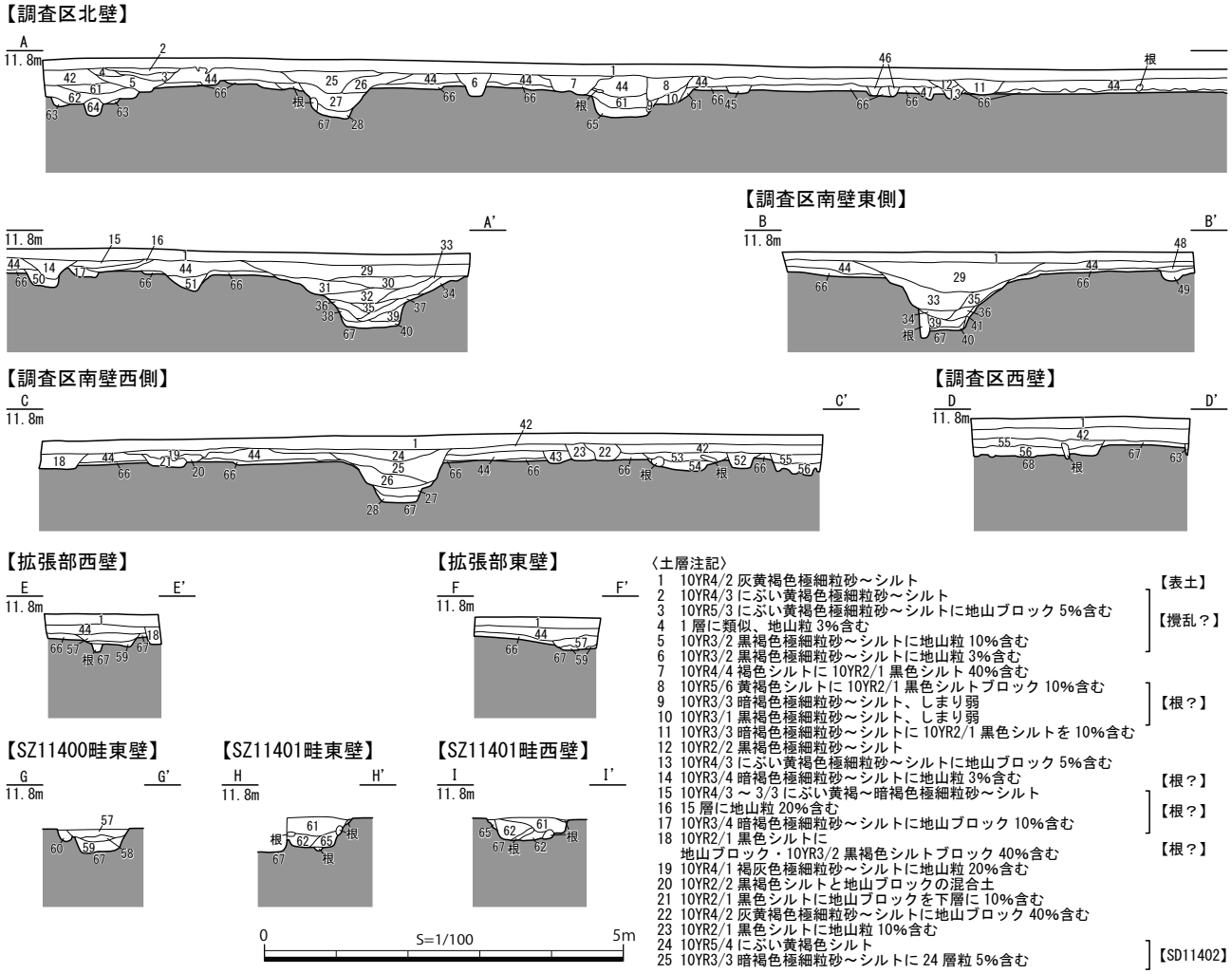
調査概要　公園整備予定地の地下遺構を確認するために実施した。調査地は史跡西部の斎宮歴史博物館東側、塚山古墳群分布域の畑地である。東西約24m、南北約３ｍの調査区を設定し、一部南側を拡張した。現況の地表面から0.15mで遺物包含層上面に達し、遺構はその上面から掘削されているが、遺構の誤認



第23図　第198－9次調査区位置図（1:2,000）



第24図　第198－9次調査　遺構平面図（1:200）



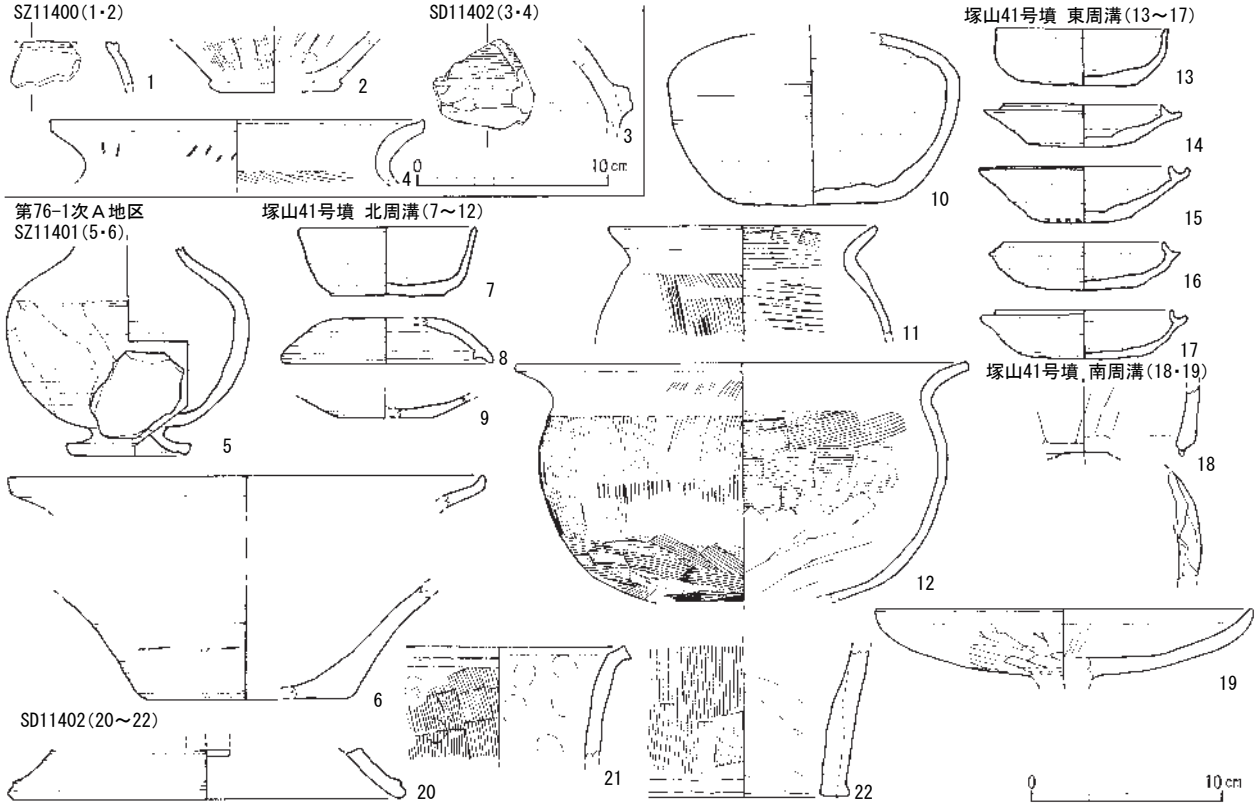
〈土層注記〉

1 10YR4/2 灰黄褐色極細粒砂～シルト 【表土】
2 10YR4/3 にぶい黄褐色極細粒砂～シルト
3 10YR5/3 にぶい黄褐色極細粒砂～シルトに地山ブロック 5%含む
4 1 層に類似、地山粒 3%含む
5 10YR3/2 黒褐色極細粒砂～シルトに地山粒 10%含む
6 10YR3/2 黒褐色極細粒砂～シルトに地山粒 3%含む
7 10YR4/4 褐色シルトに 10YR2/1 黒色シルト 40%含む
【攪乱？】
8 10YR5/6 黄褐色シルトに 10YR2/1 黒色シルトブロック 10%含む
9 10YR3/3 暗褐色極細粒砂～シルト、しまり弱
10 10YR3/1 黒褐色極細粒砂～シルト、しまり弱
11 10YR3/3 暗褐色極細粒砂～シルトに 10YR2/1 黒色シルトを 10%含む
【根？】
12 10YR2/2 黒褐色極細粒砂～シルト
13 10YR4/3 にぶい黄褐色極細粒砂～シルトに地山ブロック 5%含む
14 10YR3/4 暗褐色極細粒砂～シルトに地山粒 3%含む 【根？】
15 10YR4/3 ～ 3/3 にぶい黄褐～暗褐色極細粒砂～シルト
16 15 層に地山粒 20%含む
17 10YR3/4 暗褐色極細粒砂～シルトに地山ブロック 10%含む
【根？】
18 10YR2/1 黒色シルトに
地山ブロック・10YR3/2 黒褐色シルトブロック 40%含む 【根？】
19 10YR4/1 褐灰色極細粒砂～シルトに地山粒 20%含む
20 10YR2/2 黒褐色シルトと地山ブロックの混合土
21 10YR2/1 黒色シルトに地山ブロックを下層に 10%含む
22 10YR4/2 灰黄褐色極細粒砂～シルトに地山ブロック 40%含む
23 10YR2/1 黒色シルトに地山粒 10%含む
24 10YR5/4 にぶい黄褐色シルト
25 10YR3/3 暗褐色極細粒砂～シルトに 24 層粒 5%含む
【SD11402】
26 10YR3/1 ～ 2/1 黒褐～黒色極細粒砂～シルト
27 10YR3/2 黒褐色極細粒砂～シルトに地山粒 30%含む
28 10YR3/1 黒褐色シルトに地山ブロック 20%含む、しまり強
【SD11402】
29 10YR3/2 黒褐色極細粒砂～シルトに地山粒 1%含む
30 10YR3/1 黒褐色極細粒砂～シルト
31 10YR3/3 暗褐色極細粒砂～シルトに地山粒 25%含む
32 31 層に 10YR2/1 黒色シルトブロック 10%含む
33 10YR3/2 黒褐色極細粒砂～シルトに
地山粒・10YR2/1 黒色シルトブロック 10%含む
34 10YR3/2 黒褐色極細粒砂～シルトに地山粒 5%含む
35 10YR2/2 黒褐色シルト
36 10YR3/2 黒褐色シルトに地山粒 10%含む
37 10YR3/2 黒褐色シルトに地山ブロック・粒 20%含む
38 10YR3/3 暗褐色シルトに地山ブロック 10%含む
39 10YR4/6 褐色シルトに 10YR2/1 黒色シルト 5%含む、しまり強
40 10YR2/1 黒シルトに地山ブロック 20%含む、しまり強
41 10YR5/4 にぶい黄褐色シルトに
10YR3/2 黒褐色シルトブロック 30%含む
【SD11403】
42 10YR3/1 黒褐色極細粒砂～シルト 【包含層 1】
43 10YR2/2 黒褐色極細粒砂～シルトに地山粒 1%含む
44 10YR2/2 黒褐色極細粒砂～シルトに地山粒含む 【包含層 2】
45 10YR3/3 暗褐色極細粒砂～シルトに地山粒 3%含む
46 10YR3/2 黒褐色極細粒砂～シルトに地山粒 5%含む 【根？】
47 10YR4/3 にぶい黄褐色極細粒砂～シルトに地山粒 10%含む
48 10YR3/3 暗褐色極細粒砂～シルトに地山粒 10%含む
49 10YR4/3 にぶい黄褐色極細粒砂～シルトに地山粒 5%含む
50 10YR3/4 暗褐色極細粒砂～シルトに地山ブロック 15%含む
51 10YR4/3 にぶい黄褐色極細粒砂～シルトに地山粒 5%含む
52 10YR3/1 黒褐色細粒砂～極細粒砂に地山粒 30%含む、しまり弱
53 10YR2/2 黒褐色極細粒砂～シルト
54 53 層に地山ブロック 30%含む
55 10YR3/1 黒褐色極細粒砂～シルトに地山ブロック 1%含む
56 10YR3/1 黒褐色極細粒砂～シルトに地山ブロック 20%含む
【土坑 1】
57 10YR3/1 黒褐色極細粒砂～シルト
58 10YR2/1 黒色極細粒砂～シルト
59 58 層に地山ブロック・粒 30%含む
60 10YR3/2 黒褐色極細粒砂～シルトに
地山ブロック・10YR2/1 黒色シルト 20%含む
【SZ11400】
61 10YR3/1 黒褐色極細粒砂～シルトに地山粒 5%含む
62 10YR2/2 黒褐色極細粒砂～シルトに地山粒 3%含む
63 10YR2/1 黒色シルトに地山ブロックを表層に 40%含む、しまり強
64 10YR4/3 にぶい黄褐色極細粒砂～シルトに
10YR2/1 黒色シルト・地山ブロック 30%含む
65 10YR3/2 黒褐色シルトに地山ブロック・粒 20%含む
【SD11401】
66 10YR3/2 黒褐色極細粒砂～シルトに地山粒含む 【包含層 3】
67 10YR5/8 黄褐色シルト 【地山】

第25図　第198－9次調査　土層図（1:100）

を避けるため、遺構検出は地山面上で行った。地山面は現地表面から0.3～0.4mで確認できる。調査区は現在、「歴史の道」として整備された博物館への道路の南に位置しているが、この歴史の道を整備する際に実施したのが昭和63年度第76-1次調査である。今回の調査で検出した遺構は、古墳の周溝２条、平安時代末～鎌倉時代の溝２条である。

SZ11401は調査区北西部で確認した溝で、第76-１次調査で確認した方墳・塚山40号墳の南周溝にあたる。検出面からの深さは、約0.3mである。第76-１次調査の成果と合わせ、南北10.5m・東西9.5mの規模に復元できる。出土遺物は今回の調査区では古墳時代後期～古代の所産と考えられる土師器甕の頸部片が出土したのみであるが、第76-１次調査区では須恵器長頸壺（１）・大型の壺（２）が出土している。SZ11400は調査区南端で確認した溝で、拡張してその広がりを確認した。調査区内で検出した規模は幅１m・延長６m以上・検出面からの深さは約0.3mである。大半が調査区外へと広がるため全体形状は不明であるが、円墳と思われる。今回、塚山48号墳とした。出土遺物は古式土師器甕の底部（２）や土師器鉢（１）口縁部片など古墳時代の所産と考えられる土師器片がわずかに出土した。



第26図　第198－9次調査・第76－1次調査Ａ地区　遺物実測図（1:4）

SD11402は調査区の西部、SZ11401に重複する溝である。調査区内では幅0.5m・延長3.5m・深さ約0.6mで、第76-１次調査でその延長が確認されており、総延長は約21mである。出土遺物には斎宮Ⅵ-１頃の陶器椀、斎宮Ⅲ-１頃の灰釉陶器椀、斎宮Ⅵ期以降の土師器小皿などが出土し、SD11402の存続・埋没時期を示すものと考えられるが、朝顔形円筒埴輪片（３）、土師器甕口縁部片（４）なども出土しており、周辺に位置する古墳からの混入と考えられる。SDD11403は調査区東端で確認した南北方向の溝である。幅2.2m・延長3.3m・地山面からの深さは約0.7mである。第76-１次調査地ではその延長が確認できない。古墳時代の所産と考えられる土師器片が数点出土したのみだが、古墳周溝である可能性は捨てきれない。SZ11401の北東に位置する塚山41号墳は、南北10.2m以上、東西9.5mと40号墳と同様南北にやや長い形状を呈し、SZ11401とほぼ同規模の古墳である。周溝内からは須恵器杯Ｇ（７・14)・杯Ｈ（8・9・15～18）などが出土し、飛鳥Ⅳ～平城Ⅰ期の時期と考えられる。

10　第198－10次調査（6AD9・E9）

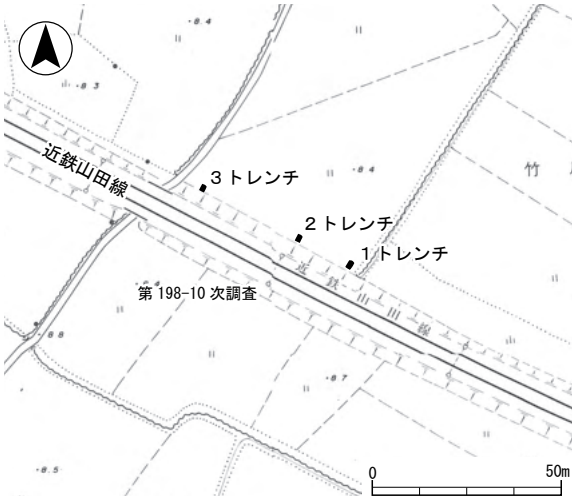
調査場所　多気郡明和町大字竹川字祓戸709番4、710番5

原　　因　「歴まち整備事業」にかかる散策路整備

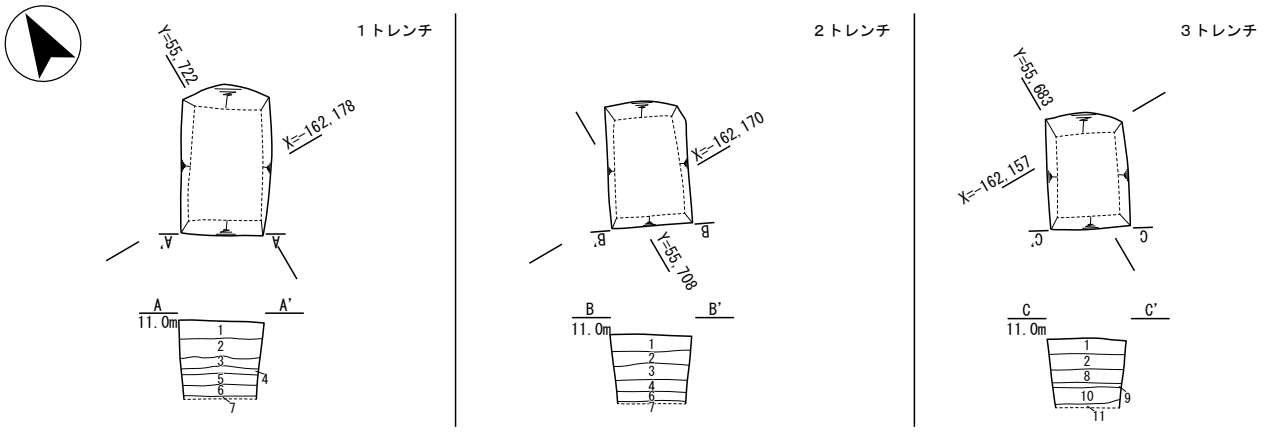
調査期間　令和３年１月15日

調査面積　3.8㎡

調査概要　史跡西部、祓川が形成する沖積低地における散策路整備に伴い実施した発掘調査である。調査地点は、近鉄山田線北、線路盛土裾に幅1.2m×長さ1.6～2.0mのトレンチを３カ所設定した。１・２トレンチでは古代から近代の遺物を含む包含層が確認され、その直下は近世以降の耕作に由来する土層が堆積する。３トレンチでは耕作層直下で洪水堆積層状の砂層となり、１・２トレンチの３層に類する土層は確認できなかっ



第27図　第198－10次調査区位置図（1:2,000）



〈土層注記〉
1　7.5YR5/1 褐灰色シルトに径 5cm 以下の礫をわずかに含む
2　7.5YR5/2 灰褐色シルト　】【近現代の耕作層】
3　5YR4/3 にぶい赤褐色細粒砂に
　径 5cm の礫・古代～近代の遺物をわずかに含む　【包含層？】
4　7.5YR5/2 灰黄褐色シルトに酸化褐色シルト粒 5%含む
5　7.5YR5/2 灰褐色シルトに酸化褐色シルト粒 20%含む
6　7.5YR5/2 灰褐色シルトに酸化褐色シルト粒 30%含む
7　7.5YR5/3 にぶい黄褐色シルトに酸化褐色シルト粒 30%含む　【近世以前の耕作面】
8　7.5YR5/2 灰褐色シルトに酸化褐色シルト粒 10%含む、5 層に類似
9　7.5YR5/3 にぶい黄褐色シルトに酸化褐色シルト粒 20%含む、7 層に類似
10 7.5YR5/2 灰褐色シルトに酸化褐色細粒砂粒 20%含む
11 7.5YR5/2 灰褐色シルトに酸化褐色砂粒 10%含む、しまり弱い　【砂層】

第28図　第198－10次調査　遺構平面図・土層図（1:100）

た。遺物は２トレンチ第３層から斎宮Ⅰ-３期のミガキを施す土師器皿口縁部片が、３トレンチ第９・10層からは古代に所属すると思われる土師器甕体部片・小皿片などの細片のみが出土した。

11　第198－11次調査（6AP13）

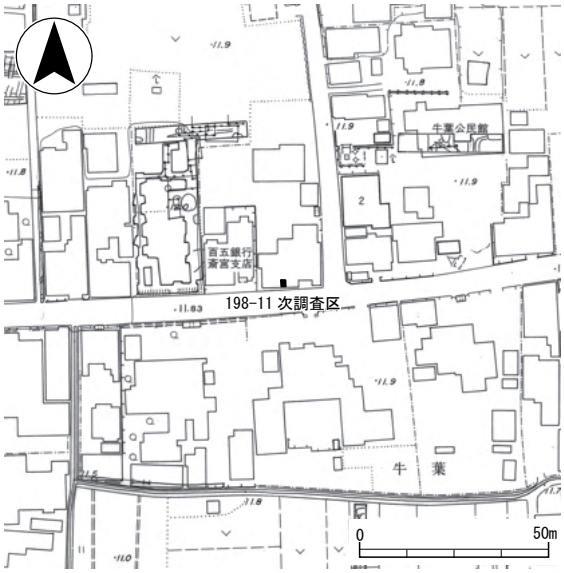
調査場所　多気郡明和町大字斎宮字牛葉3016番1

原　　因　浄化槽埋設

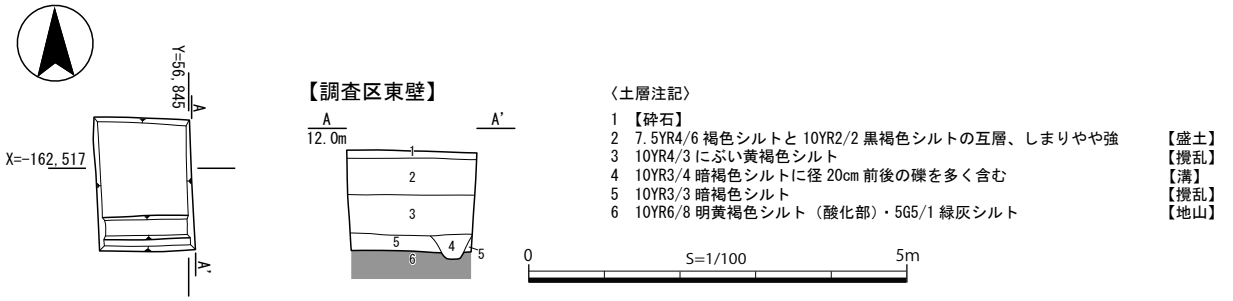
調査期間　令和３年３月１日

調査面積　1.7㎡

調査概要　浄化槽の設置に伴い実施した発掘調査で、調査地は史跡中央南部の宅地である。調査区は南北約1.5m、東西約1.1mである。地表面から1.3mの深さまで近現代の攪乱土が確認され、地山面に至る。近現代の所産と考えられる東西方向の溝が確認された。周辺の調査では地表面から0.7mで地山面を確認しており、本調査区では近現代の攪乱により削平されたものと考えられる。遺物は確認されなかった。



第29図　第198－11次調査区位置図（1:2,000）



〈土層注記〉
1　【砕石】
2　7.5YR4/6 褐色シルトと 10YR2/2 黒褐色シルトの互層、しまりやや強　【盛土】
3　10YR4/3 にぶい黄褐色シルト　【攪乱】
4　10YR3/4 暗褐色シルトに径 20cm 前後の礫を多く含む　【溝】
5　10YR3/3 暗褐色シルト　【攪乱】
6　10YR6/8 明黄褐色シルト（酸化部）・5G5/1 緑灰シルト　【地山】

第30図　第198－11次調査　遺構平面図・土層図（1:100）

12　第198－12次調査（6AK4）

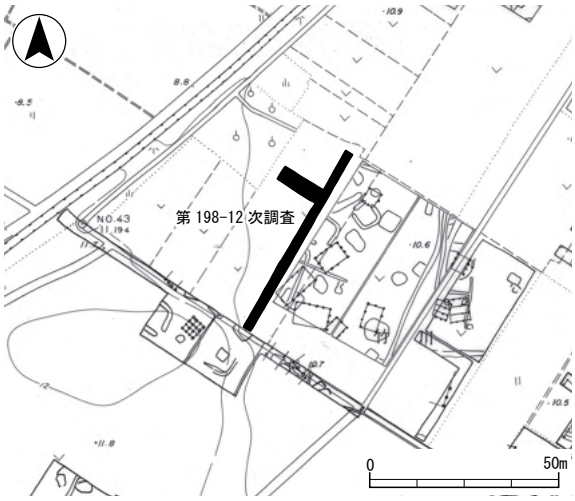
調査場所　多気郡明和町大字竹川字古里582-1582-2地先

原　　因　宅地造営等

調査期間　令和３年３月１日～３月22日

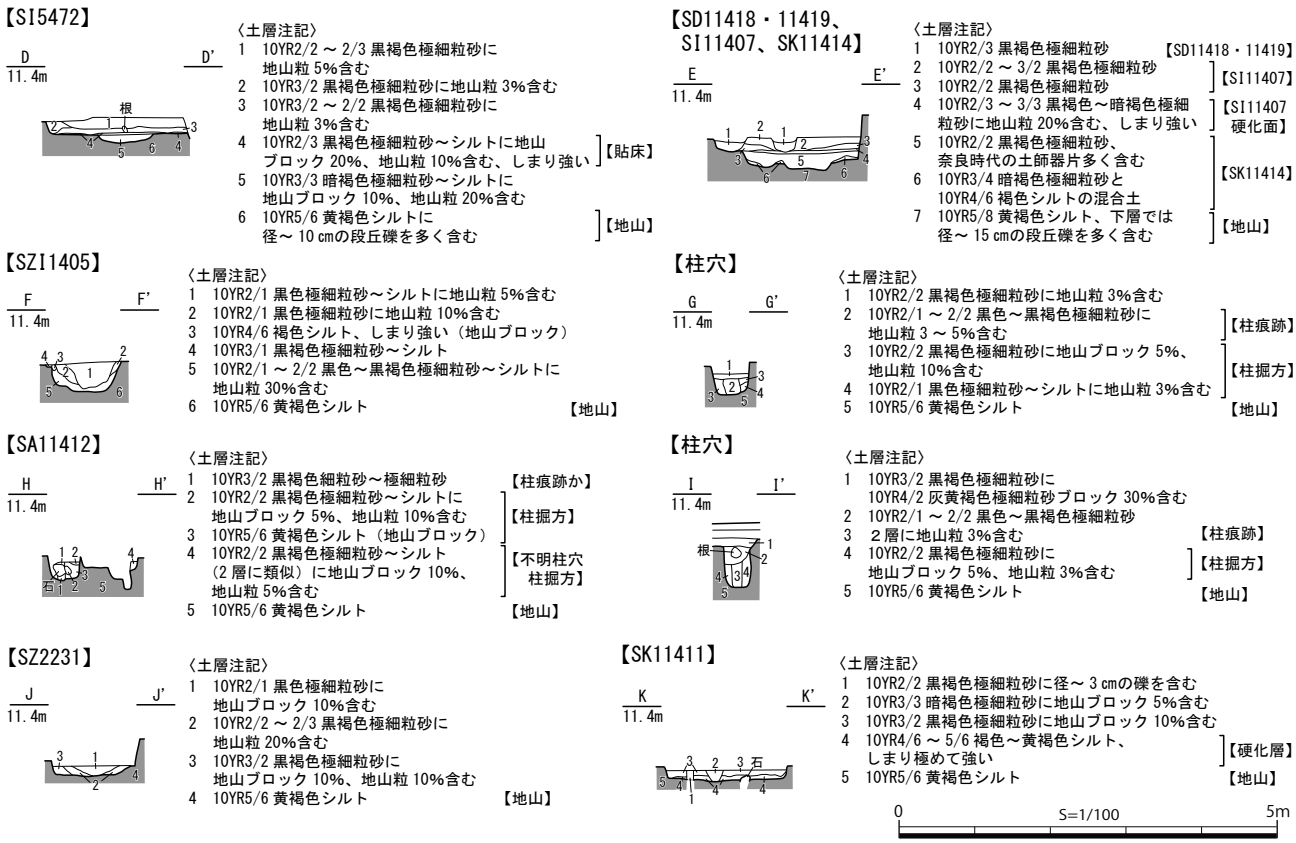
調査面積　156㎡

調査概要　宅地造成に伴い実施した発掘調査で、調査地は史跡北西部の畑地である。調査区のすぐ東側で第39次調査を、南側で第76-３次調査を実施している。南北約54m・幅約２ｍの細長い調査区に、一部を幅約４ｍ・長さ約12m分西側に拡張した。現況の地表面から約0.2mで遺物包含層上面に達する。検出した遺構はこの上面から掘削されているが、誤認を避けるために地山面上で調査を実施した。地山面は現況地表面から南側では約0.25m、北側では約0.35mで確認され、北へ向かって地山面は傾斜する。

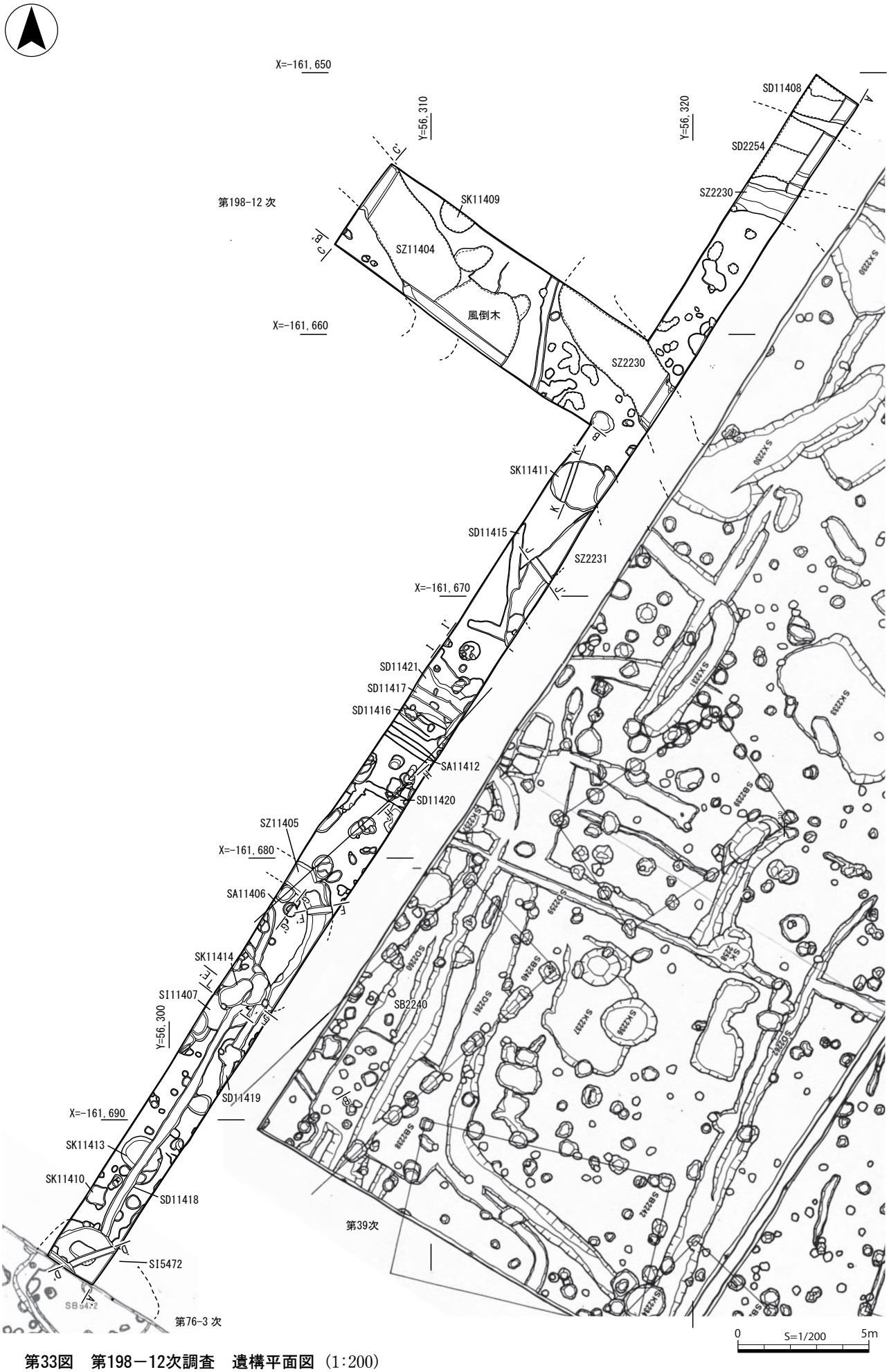


第31図　第198－12次調査区位置図（1:2,000）

遺構は、弥生時代中後期の方形周溝墓４基、飛鳥～奈良時代の柱列２条、奈良時代の竪穴建物２棟のほか、飛鳥～奈良時代の土坑や柱穴、平安時代後期以降の溝や土坑を確認した。調査区北部で確認したSZ2230は第39次調査で南東辺を確認しており、今回の調査で南辺周溝、周溝北西コーナー付近を確認した。規模は北東－南西方向11.5m×北西－南東方向10.5m以上の規模である。周溝幅は1.5～2.0m、検出面からの深さは約0.45mで、出土遺物には弥生土器広口壺（４）、古代の所産と思われる土師器鉢（５）がある。西側拡張部で検出したSZ11404は北辺の周溝のみ確認している。規模は一辺７ｍ以上で、周溝幅2.2m、検出面からの深さは0.45mである。出土遺物は図化できるものはないが、弥生土器壺体部片、土師器甕体部片、須恵器甕体部片などがある。前述の２基が周溝幅の広い比較的大型の周溝墓であるのに対し、SZ2231・SZ11405は小型周溝墓となる。SZ2231は大半が第39次調査で確認されており、今回の調査で西周溝が確認され、規模が北西－南東が8.0m・北東－南西が6.7mと確定できた。周溝幅は今回の調査区で1.0m、検出面からの深さは約0.25mである。出土遺物は弥生土器壺（６）・甕（７）・高杯（８・９）などがある。

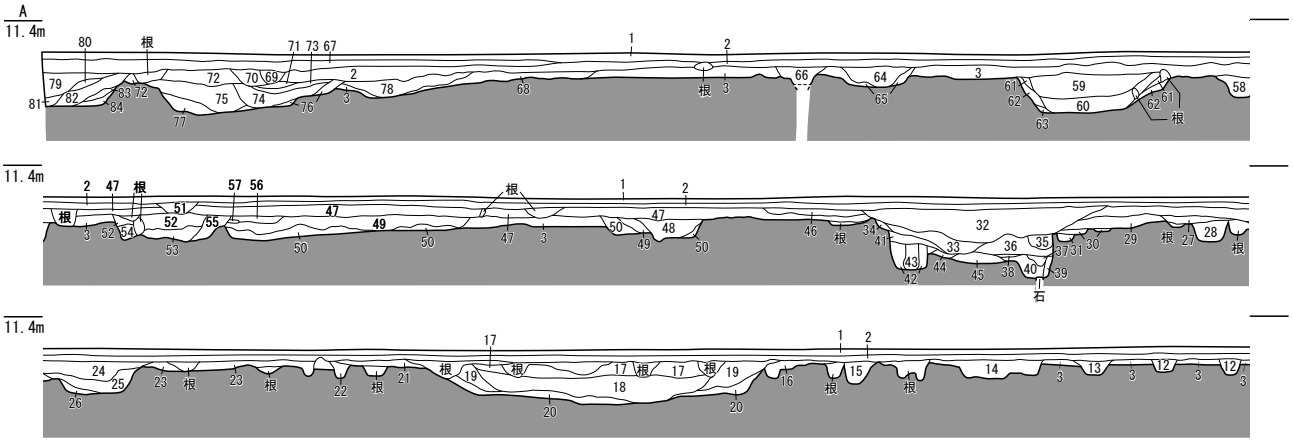


第32図　第198－12次調査　土層図（1）（1:100）

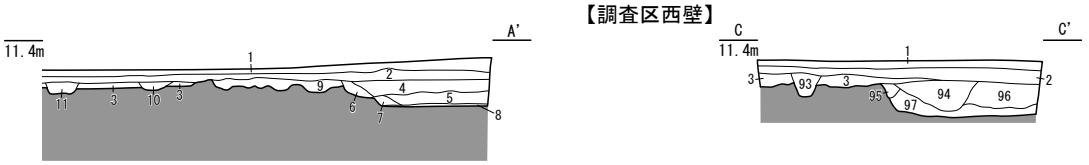


第33図　第198－12次調査　遺構平面図（1:200）

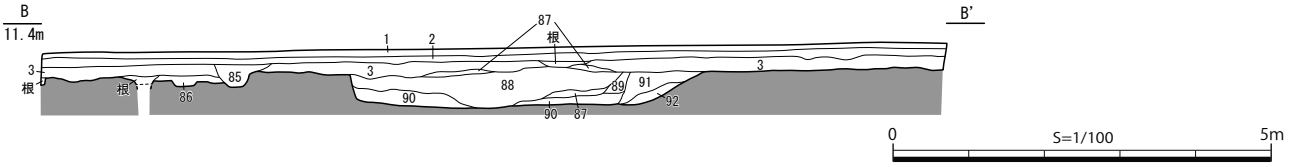
【調査区東壁】



【調査区西壁】



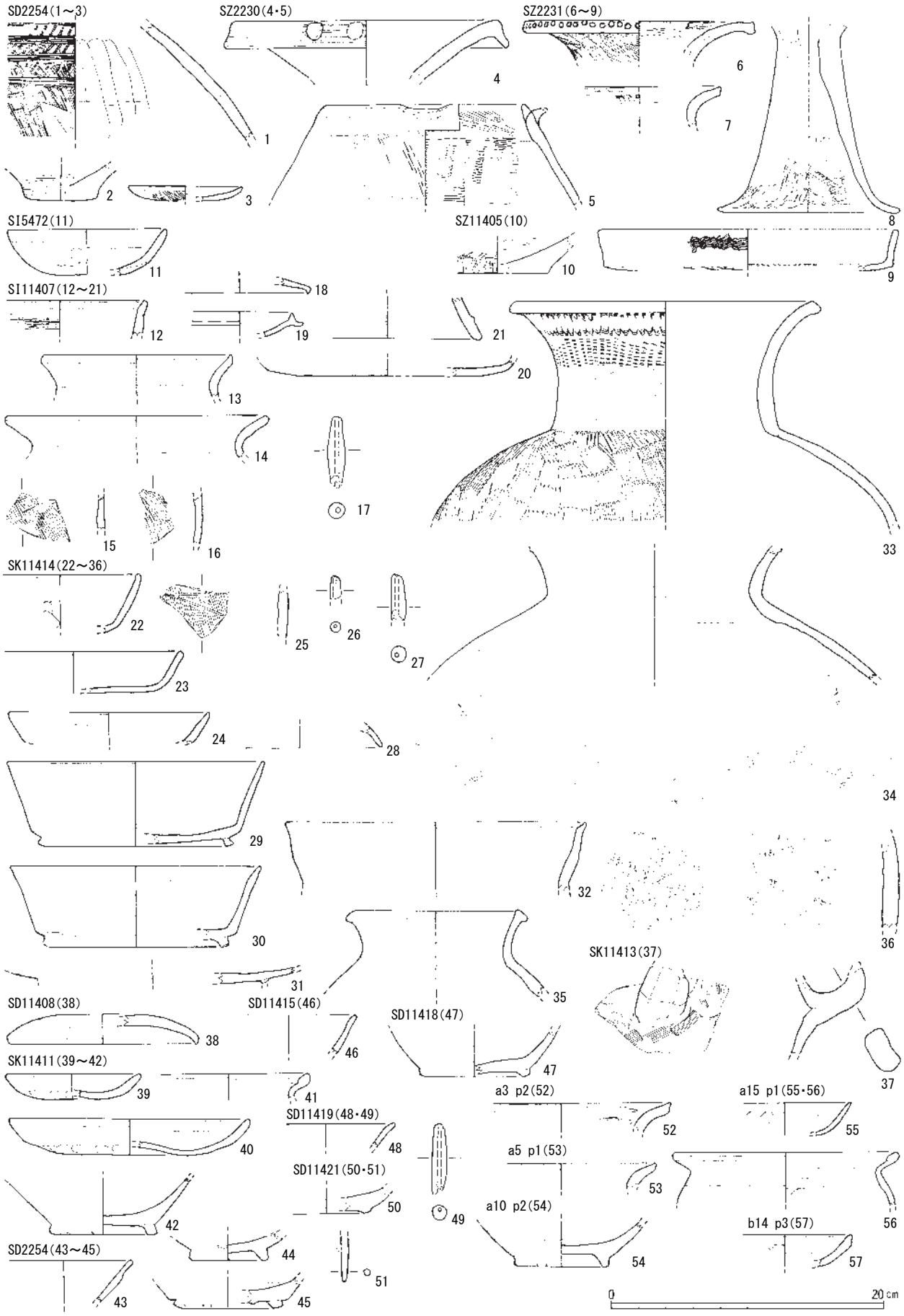
【調査区北壁】



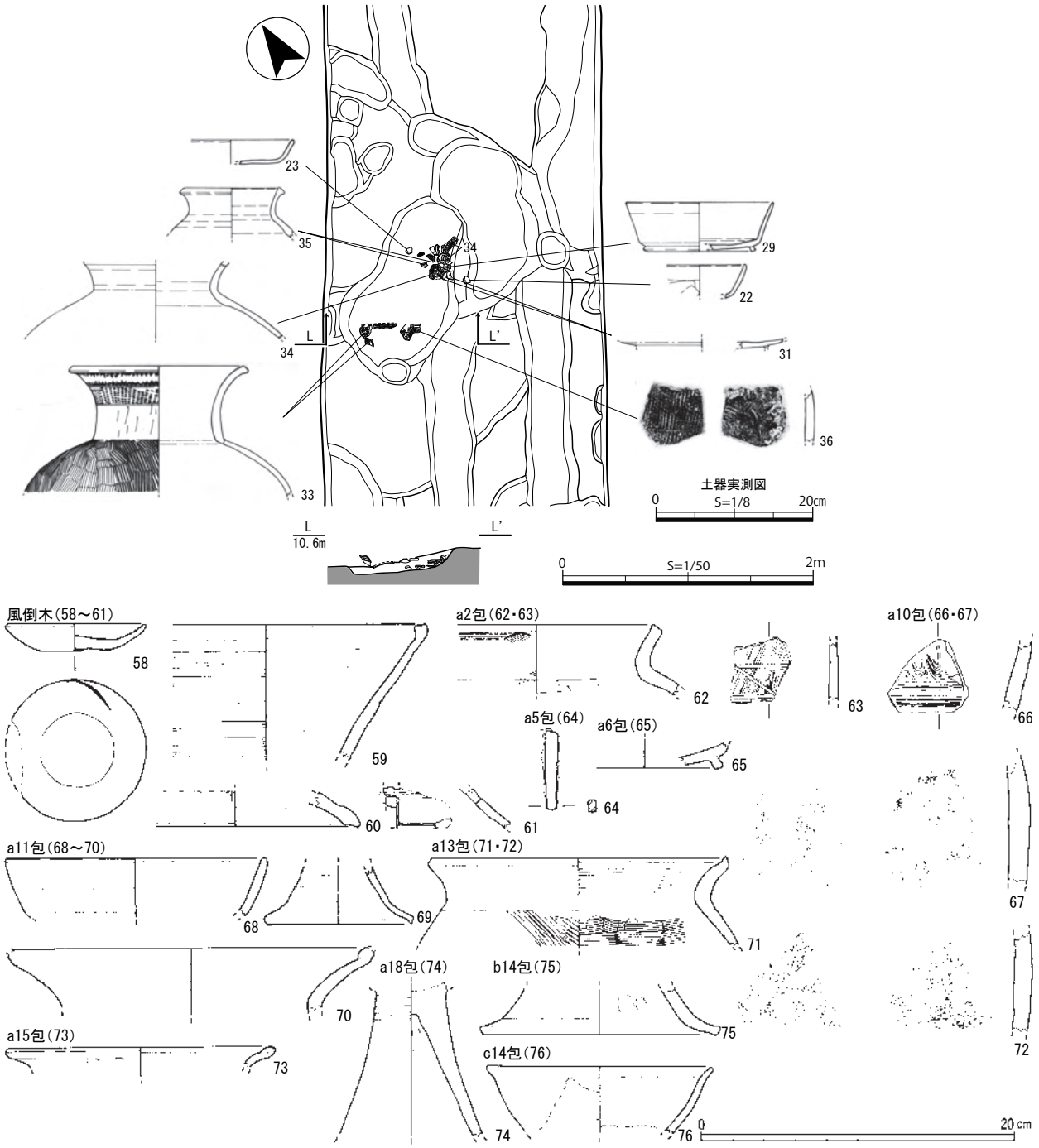
＜調査区壁土層注記＞

1　10YR4/3 にぶい黄褐色極細粒砂に径～ 5cm の礫を少量含む、しまりやや強い
2　10YR4/2 灰黄褐色極細粒砂に径～ 2 mmの白色粒をごく少量含む
3　10YR2/2 黒褐色極細粒砂～シルトに地山粒 3%含む
4　10YR3/2 黒褐色極細粒砂に 10YR2/2 黒褐色極細粒砂 20%含む
5　10YR2/2 ～ 2/3 黒褐色極細粒砂に地山粒 5%含む
6　10YR3/2 黒褐色極細粒砂に地山ブロック 10%含む
7　10YR3/2 黒褐色極細粒砂に地山粒 3%含む
8　10YR2/3 黒褐色極細粒砂～シルトに地山ブロック 20%、地山粒 10%含む、しまり強い
【SI5472】
9　10YR4/3 にぶい黄褐色極細粒砂に地山ブロック 5%、地山粒 10%含む
10　10YR4/3 にぶい黄褐色極細粒砂に地山ブロック 20%含む
11　10YR2/3 黒褐色極細粒砂に 10YR4/2 灰黄褐色シルトを 10%含む
12　10YR3/3 暗褐色極細粒砂に地山ブロック 20%、地山粒 10%含む
13　10YR2/2 黒褐色極細粒砂に地山ブロック 10%含む
14　10YR2/3 黒褐色極細粒砂に地山粒 15%含む　【SD11419】
15　10YR2/3 黒褐色極細粒砂に 10YR3/3 暗褐色極細粒砂～シルトブロック 10%含む
16　10YR2/3 黒褐極細粒砂に地山粒 5%含む
17　10YR2/1 黒色極細粒砂～シルト
18　10YR2/1 黒色極細粒砂～シルトに地山粒 5%含む
19　10YR2/1 黒色極細粒砂に地山粒 10%含む
20　10YR2/1 ～ 2/2 黒色～黒褐色極細粒砂～シルトに地山粒 30%含む
【SZ11405】
21　10YR3/3 暗褐色極細粒砂と 10YR2/3 黒褐色極細粒砂の混合土
22　10YR3/2 黒褐色極細粒さに地山粒 15%含む
23　10YR3/3 暗褐色極細粒砂に 10YR2/3 黒褐色極細粒砂粒 10%含む
24　10YR4/2 灰黄褐色極細粒砂に地山ブロック 20%含む
25　10YR2/3 黒褐色シルト、しまり弱い
26　25 層と地山の混合土
27　10YR3/2 黒褐色極細粒砂に地山粒 3%含む
28　10YR3/3 暗褐色極細粒砂に地山ブロック 20%含む
29　10YR2/2 黒褐色極細粒差に地山粒 3%含む
30　10YR4/2 灰黄褐色極細粒砂に地山粒 15%含む
31　10YR2/3 黒褐色極細粒砂に地山ブロック 5%、地山粒 10%含む、しまり強い
32　10YR4/2 灰黄褐色極細粒砂～シルトに 33 層をブロック状に 10%含む
33　10YR3/2 ～ 2/2 黒褐色極細粒砂～シルトに径～ 10 cmの礫を少量含む
34　33 層に地山ブロック 30%含む
【SD11417】
35　10YR3/1 黒褐色極細粒砂に地山粒 5%含む
36　10YR2/1 黒色極細粒砂に地山粒 5%含む、しまり強い
37　10YR2/1 黒色極細粒砂に地山ブロック 3%、地山粒 20%含む
38　10YR5/6 黄褐色シルト、しまり強い
39　10YR2/1 黒褐色細粒砂～極細粒砂に地山ブロック 20%含む【柱掘方】
40　10YR2/3 黒褐色細粒砂～極細粒砂に地山ブロック 20%含む【柱抜取穴】
【SA11412】
41　10YR2/3 黒褐色極細粒砂に地山粒 20%含む
42　10YR3/2 黒褐色極細粒砂に地山粒 20%含む、しまり強い【柱掘方】
43　10YR2/1 黒色極細粒砂に 10YR3/2 黒褐色極細粒砂ブロック 20%含む【柱痕跡】
【SA11412】
44　10YR2/1 黒色極細粒砂に地山ブロック 20%、地山粒 10%含む、しまり強い
45　10YR5/6 黒色極細粒砂に地山粒 3%含む、しまり強い
【SA11412 の布掘りか】
46　10YR4/2 灰黄褐色極細粒砂に地山粒 20%含む
47　10YR3/2 黒褐色極細粒砂に地山粒 3%含む
48【溝６埋土】
49　10YR2/1 黒色極細粒砂に地山ブロック 10%含む
50　10YR2/2 ～ 2/3 黒褐色極細粒砂に地山粒 20%含む
【SZ2331】
51　10YR4/3 にぶい黄褐色極細粒砂
52　10YR2/2 黒褐色極細粒砂に径～ 5 cmの礫を含む
53　10YR2/2 黒褐色極細粒砂に地山ブロック 5%含む
54　10YR4/6 褐色シルトに 10YR2/2 黒褐色極細粒砂ブロック 30%含む
55　10YR2/2 黒褐色極細粒砂に地山ブロック 10%含む
56　10YR4/2 灰黄褐色極細粒砂と 10YR2/3 黒褐色極細粒砂の混合土
57　10YR4/6 褐色シルト（地山ブロック）
58　10YR2/2 黒褐色極細粒砂に地山ブロック 10%、地山粒 5%含む
59　10YR2/1 黒色極細粒砂に地山ブロック 1%含む
60　10YR2/1 ～ 2/2 黒色～黒褐色極細粒砂に地山ブロック 3%含む
61　10YR4/6 褐色シルトに 10YR2/1 黒色極細粒砂を 20%含む
62　10YR5/6 黄褐色シルトに 10YR2/1 黒色極細粒砂を 10%含む
63　10YR4/4 褐色シルト
【SZ2330】
64　10YR3/1 ～ 3/2 黒褐色極細粒砂
65　10YR3/2 黒褐色極細粒砂に地山ブロック 30%含む
66　10YR3/3 ～ 3/4 暗褐色極細粒砂に 10YR4/2 灰黄褐色極細粒砂ブロック 20%含む
67　10YR4/2 ～ 3/2 灰黄褐色～黒褐色極細粒砂、しまり強い
68　10YR3/3 暗褐色極細粒砂に地山粒 5%含む
69　10YR4/2 灰黄褐色極細粒砂に 10YR3/3 暗褐色極細粒砂ブロック 20%含む
70　10YR3/3 ～ 3/4 暗褐色極細粒砂
71　10YR3/3 暗褐色極細粒砂～シルトに 10YR2/3 黒褐色シルトブロック 20%含む
72　10YR2/1 ～ 2/2 黒色～黒褐色極細粒砂に地山粒 3%含む
73　10YR2/3 黒褐色極細粒砂～シルトに 10YR3/3 暗褐色シルトブロック 10%含む
74　10YR2/2 ～ 2/3 黒褐色極細粒砂～シルトに 10YR3/3 暗褐色シルトブロック 20%含む
75　10YR2/1 黒色極細粒砂に地山ブロック 3%含む
76　10YR3/3 暗褐色シルト、しまり強い
77　10YR2/1 ～ 2/2 黒色～黒褐色極細粒砂に地山ブロック 5%含む
【SD2254】
78　10YR3/3 ～ 3/4 暗褐色極細粒砂～シルト　【SZ2230】
79　10YR4/2 ～ 3/2 灰黄褐色～黒褐色極細粒砂に径～ 10 cmの礫を少量含む
80　10YR3/1 ～ 3/2 黒褐色極細粒砂
81　10YR3/1 ～ 3/2 黒褐色極細粒砂に径～ 10 cmの礫を含む
82　10YR3/3 ～ 3/2 暗褐色～黒褐色極細粒砂に地山ブロック 5%含む
83　10YR3/2 黒褐色極細粒砂に地山ブロック 5%含む
84　10YR3/2 ～ 2/2 黒褐色極細粒砂、しまり強い
【SD11408】
85　10YR3/2 ～ 3/3 黒褐色～暗褐色極細粒砂に地山ブロック 3%含む　【SD11415】
86　10YR2/2 ～ 2/3 黒褐色極細粒砂に地山粒 15%含む
87　10YR5/6 黄褐色シルトに 10YR2/1 黒褐色極細粒砂を 20%、径～ 10 cmの礫を多く含む
88　10YR2/1 ～ 2/2 黒色～黒褐色極細粒砂に径～ 10 cmの礫を少量含む
89　10YR4/6 褐色シルトに 10YR2/1 黒色極細粒砂ブロックを 20%、径～ 10 cmの礫を多く含む
90　10YR4/6 褐色シルトと 10YR 黒色極細粒砂の混合土に径～ 20 cmの礫を非常に多く含む
【風倒木】
91　10YR2/1 ～ 2/2 黒色～黒褐色極細粒砂に地山ブロック 10%、地山粒 10%含む
92　10YR4/6 褐色シルトと 10YR2/1 黒色極細粒砂の混合土、しまりやや強い
【SZ11404】
93　10YR2/1 ～ 2/2 黒色～黒褐色極細粒砂に 10YR4/2 灰黄褐色極細粒砂ブロック 10%含む
94　10YR2/1 ～ 2/2 黒色～黒褐色極細粒砂に地山粒 1%含む
95　10YR2/1 黒色シルト
96　10YR2/1 黒色極細粒砂に地山ブロック 3%、地山粒 1%含む
97　10YR2/1 黒色極細粒砂に地山粒 30%含む
【SZ11404】
98　10YR4/6 ～ 5/6 褐色～黄褐色シルト　【地山】

第34図　第198－12次調査　土層図（2）（1:100）



第35図　第198－12次調査　遺物実測図（1）（1:4）



第36図　第198－12次調査　SK11414土器出土状況図（1:50）**・遺物実測図（2）**（1:4）

調査区南部で確認したSZ11405は北東－南西5.5m以上・北西－南東2.2m以上の方形周溝墓で、周溝幅1.0m・検出面からの深さ0.5mである。出土遺物で図化したものには弥生土器壺底部（10）があるが、これ以外はほとんど見られなかった。飛鳥～奈良時代の遺構として、SA11406、SA11412がある。SA11406は４間分の柱を確認しているが、調査区が狭小なため、西側に広がる掘立柱建物の可能性がある。SA11412はSA11406のすぐ北側に位置し、南から２番目の柱穴と３番目の柱穴の間には溝が見られることから、布掘りを伴なう可能性がある。これについても西側の未調査部分に広がる掘立柱建物の可能性がある。この他にも柱痕跡を持つピットを複数確認しており、更に建物が存在した可能性がある。奈良時代の遺構として調査区南端で確認したSI5472、その北約９ｍの地点で確認したSI11407がある。SI5472は第76-３次調査で大半を確認している竪穴建物で、北西－南東5.0m×北東－南西4.0mの規模を持つ。検出面からの深さは約0.2mである。調査区内では主柱穴を確認できなかった。床面全体に張床を施し、貼床下土坑が確認できた。出土遺物には図化した土師器椀（11）のほか、土師器甕体部片が多数ある。SI11407は北東－南西4.0m×北西－南東3.8m以上、検出面からの深さ約0.2mである。貼床が施され、楕円形を呈する1.4m×0.6mの貼床下土坑

SK11414が確認された。SK11414からは土師器杯（22）・皿（23）、須恵器杯（29）・盤（31）・甕（33・34）・壺（35）、韓式系軟質土器甕（36）等がまとまって出土した。

調査区の中央を横断するSD11416・11417・11421は鎌倉時代～近世の溝で、第39次調査で確認した溝の延長であると思われるが、対応関係が不明であり新たな番号を付与した。第39次調査で確認した南北方向の溝と関連して、屋敷地を形成する区画溝の可能性がある。

その他の出土遺物には、ヘラ記号を持つ土師器甕体部片（15・16・25）、韓式系軟質土器片（66・67・72）、須恵器円面硯（61）などがある。

13　第198－13次調査（6AS8・S9）

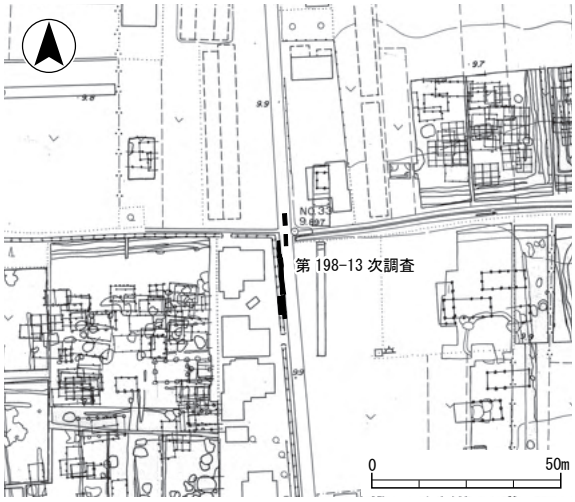
調査場所　多気郡明和町大字斎宮字西加座地内

原　　因　「歴まち整備事業」にかかる排水路改修

調査期間　令和２年10月26日～令和３年３月30日

調査面積　30.5㎡

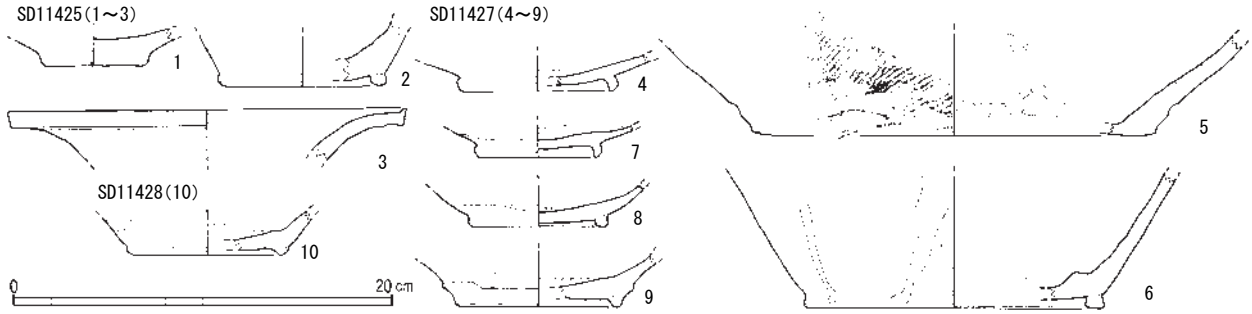
調査概要　史跡東部において、排水路の改修及び既設水道管の移設にかかる現状変更に伴い実施した発掘調査である。既設道路を機能させながらの調査であったたため、道路下の既設水道管移設に伴い２カ所（１・２トレンチ）、排水溝の改修に伴い４カ所（３・４・５・６トレンチ）に分けて調査を行った。調査地点は方格街区の西加座北区画にあたる。近世以降の改変が深くまで及んでおり、遺物包含層は確認できず、地山面で遺構検出を行った。最も北に位置する２トレンチでは現況地表面である道路面上から0.9m、南の５トレンチでは0.6mで地山面が確認できる。



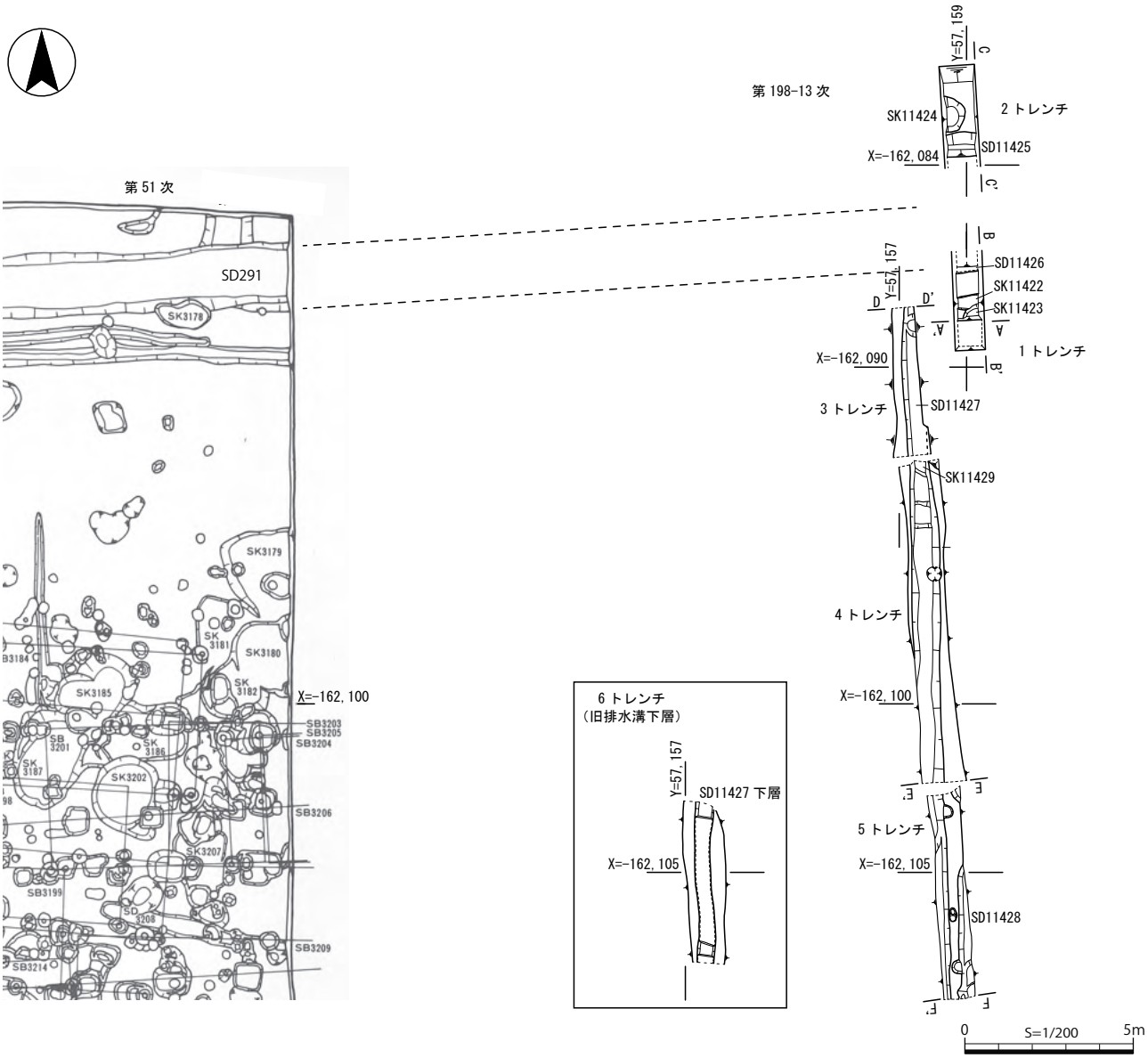
第37図　第198－13次調査区位置図（1:2,000）

遺構は、東西方向の溝２条、南北方向の溝２条の他、土坑、ピットがある。１トレンチで検出した東西方向のSD11426は、位置関係から第51次調査で確認した北辺道路南側溝（SD291）と同一の溝の可能性が高い。既設排水管による掘削のため規模や断面形状等全体形状が不明であり、出土遺物はない。２トレンチで確認したSD11425はSD11426に並行する。検出面出土遺物には渥美産の陶器椀（１）・壺（２）のほか、図化はしていないが土師器甑体部片が第４層から出土している。３～５トレンチで検出した南北方向のSD11427は旧排水溝の下層においても残存し、６トレンチでもその下層部を確認した。断面形状は箱型を呈し、地山面からの深さは４トレンチに置いては0.8m、底部標高は約8.7mであるが３トレンチ北端では底部標高9.0m、５トレンチ南端では底部標高9.4mである。出土遺物には灰釉陶器皿（４）、陶器鉢（５・６）、特に下層からの遺物として９世紀代の灰釉陶器椀（７・８）、それよりもやや時期の下がる陶器椀（９）等があるが、近世の瓦や陶磁器類も下層などから出土していることからこの溝の機能・埋没時期は近世にまで下がると考えられる。

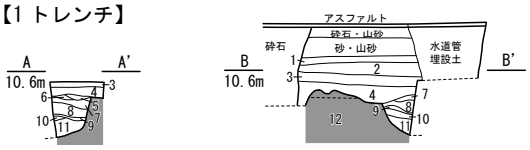
５トレンチ中央付近から確認されたSD11428は土層断面からSD11427よりも古い時期の溝で、地山面からの深さは0.4m、底部標高は約9.1m、断面形状は箱型を呈する。出土遺物には陶器椀（10）がある。SD11428は形状やその位置から、西加座北区画を東西に分割する区画間道路の東側溝の可能性がある。



第38図　第198－13次調査　遺物実測図（1:4）



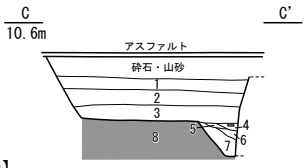
【1 トレンチ】



〈1 トレンチ土層注記〉

1　10YR2/1 黒色シルト　【道路最下面】
2　10YR3/3 暗褐色シルトに地山ブロック 1%含む
3　10YR4/4 褐色シルト　【近世？包含層】
4　10YR3/4 暗褐色シルト　【SK11422】
5　10YR3/3 暗褐色シルトに
　10YR4/6 褐色シルトブロック 20%含む、しまり強い
6　10YR2/2 黒褐色シルトに
　10YR3/3 暗褐色シルトブロック 20%含む、しまり強い
7　10YR4/6 褐色シルトに
　10YR2/2 黒褐色シルトブロック 10%含む、しまり強い　【SK11423】
8　10YR2/2 黒褐色シルトに 10YR4/6 褐色シルトブロック 5%含む
9　10YR4/6 褐色シルト
10　10YR2/2 黒褐色シルトに 10YR4/6 褐色シルトブロック 10%含む
11　10YR3/3 暗褐色シルトに 10YR4/6 褐色シルトブロック 20%含む
12　10YR4/6 褐色シルト　【地山】

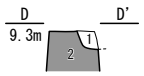
【2 トレンチ】



〈2 トレンチ土層注記〉

1　10YR2/1 黒色シルト　【道路最下面】
2　10YR3/3 暗褐色シルト
3　10YR4/4 褐色シルト
4　10YR3/4 暗褐色シルトに
　酸化褐色粒（鉄分）10%含む
5　10YR4/6 褐色シルトに５層が混じる
6　10YR4/2 灰黄褐色シルトに
　10YR2/2 黒褐色シルトブロック 5%含む、
　しまり強い　【SD11425】
7　10YR4/3 にぶい黄褐色シルトに 10YR2/2
　黒褐色シルトブロック 10%含む、しまり強い
8　10YR4/6 褐色シルト　【地山】

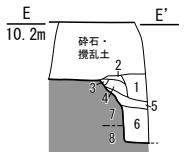
【3 トレンチ】



〈3 トレンチ土層注記〉

1　10YR4/3 にぶい黄褐色シルトに
　地山ブロック 5%、酸化粒 10%、
　礫・近世以降陶器を少量含む
　【SD11427】
2　7.5YR4/6 褐色シルト【地山】

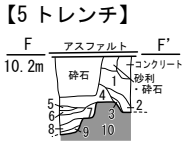
【4 トレンチ】



〈4 トレンチ土層注記〉

1　山砂　【撹乱】
2　10YR4/3 にぶい黄褐色極細粒砂～シルト
3　10YR5/6 黄褐色シルト
4　２層に地山ブロック含む
5　10YR3/3 暗褐色シルトに
　径～ 20cm の礫を含む　【SD11427】
6　5Y3/1 オリーブ黒色シルトに
　地山ブロック 5%含む
7　5YR5/8 明黄褐色シルト
8　5YR5/3 灰オリーブ色シルト　【地山】

【5 トレンチ】



〈5 トレンチ土層注記〉

1　山砂に 10YR3/3 暗褐色シルト　【撹乱】
2　10YR3/3 暗褐色シルトに地山ブロック 30%含む
3　10YR4/3 にぶい黄褐色シルトに
　地山ブロック 20%含む　【SD11427】
4　10YR3/4 暗褐色シルト
5　10YR4/6 褐色シルト
6　10YR3/3 暗褐色シルトに地山ブロック 5%含む
7　10YR3/4 暗褐色シルトに地山ブロック 5%含む
8　10YR3/3 ～ 3/4 暗褐色シルト　【SD11428】
9　10YR2/3 ～ 3/3 黒褐色～暗褐色シルトに
　地山ブロック 5%含む
10　5YR4/8 赤褐色シルト　【地山】

0　S=1/100　5m

第39図　第198－13次調査　遺構平面図（1:200）・土層図（1:100）

次数	遺構名	調査時遺構名	時期	出土遺物	備考
198-1	遺構なし				
198-2	SD 4355	溝	平安後期以降	陶器椀・土師器	方格街区北辺道路南側溝
198-3	SD 11369	溝1	平安時代後期～鎌倉時代	土師器・ロクロ土師器・灰釉陶器・石器	SD11370より新
	SD 11370	溝2	平安時代？	土師器	SD11369より古
	SK 11371	土坑1	平安時代末～室町時代	土師器・ロクロ土師器・陶器椀	
	SK 11372	土坑2	平安時代後期～鎌倉時代	土師器、ロクロ土師器	
198-4	SB 11380	建物1	平安末期以降	土師器	
		P3	平安初頭～前期	土師器	柱穴
	SD 11373	溝1	鎌倉時代	土師器・須恵器・陶器椀・土錘	
		溝2	平安時代以降	土師器	
		溝3	不明	土師器	
	SD 11060	溝4	鎌倉時代	土師器・須恵器・灰釉陶器・陶器椀	191-9次・194-1次で確認
	SD 11374	溝			立会調査トレンチ
	SK 11375	土坑1	平安後期	土師器	
	SK 11376	土坑2	平安末期	土師器	
	SK 11377	土坑3	不明	土師器	
		土坑4	不明	土師器	
		土坑5	不明	なし	谷状地形の落ち部
198-5	SD 11379	溝1	平安～鎌倉	土師器杯底部・皿・鍋	1トレンチ
	SD 11381	溝2	中近世	土師器鍋、陶器甕片	1トレンチ
	SD 11382	溝3	古代以降	土師器甕体部片	4・6トレンチ
	SD 5504	溝4	平安時代前期～	土師器杯・甕、ロクロ土師器杯底部、須恵器杯A・甕体部片、灰釉陶器椀	5・6トレンチ 第76-9次調査で土師器鍋(13世紀代)出土
	SK 11378	土坑1	平安時代前期	土師器杯A・甕、須恵器杯A・杯B・杯B蓋・壺、須恵器転用硯(黒・朱)、灰釉陶器杯・皿・鉢	5トレンチ
		土坑2	近世	土師器杯椀片、土師器鍋片	攪乱
	SK 11383	土坑3	古代？	土師器杯椀片、土師器甕体部片	5トレンチ
	SK 11384	土坑4	古代？	土師器杯椀片、土師器甕体部片	5トレンチ
198-6	SB 11385	建物1	斎宮Ⅰ-3以後	縄文土器深鉢、土師器杯・皿・甕体部片	
	SB 11386	建物2	斎宮Ⅰ-3前後	土師器杯A・皿・甕体部片	SB11387・11388、SI11390よりも古い
	SB 11387	建物3	斎宮Ⅰ-3前後	土師器皿A片・甕体部片	SB11386よりも新しい
	SB 11388	建物4	斎宮Ⅰ-3前後	土師器椀杯・甕体部・甑底部片	SB11386よりも新しい
	SA 11391	柱列1	古代か	なし	
	SA 11392	柱列2	古代	土師器杯・甕体部片	
	SI 11390	竪穴1	斎宮Ⅰ-2	土師器皿A・杯A・甕	SB11386よりも新しい
		溝1	平安時代以降		SI11390よりも新しい
		土坑1			風倒木か
	SI 11389	土坑2	斎宮Ⅰ-2	土師器皿・甑・	SK11393よりも古い
	SK 11393	土坑3	平安時代末～鎌倉時代	陶器椀・壺	SI11389よりも新しい
198-7	SA 10821	SA10821	斎宮Ⅰ-3	土師器	
	SB 11394	建物1	斎宮Ⅱ-3以降	土師器・須恵器	SB11395・SA10821より新 SK11397より古
	SB 11395	建物2	斎宮Ⅱ-3	土師器	SB11394より古
	SB 11396	建物3	斎宮Ⅱ-4以降	土師器・灰釉陶器・黒色土器	
	SK 11397	土坑1	斎宮Ⅱ-4	土師器細片多数・須恵器・灰釉陶器椀・緑釉陶器	SB11394より新
		土坑2	斎宮Ⅱ-2か	土師器杯・甕	
		土坑3	斎宮Ⅱ-3	土師器杯A・須恵器杯蓋片	
		土坑4	斎宮Ⅱ-4以降	土師器杯片・灰釉陶器片	
		土坑5	古代	土師器片	
	SD 11398	溝1	平安前期	土師器甕口縁部・頸部～体部片	8C後半か
198-8	SD 11399	土坑1	平安時代末～鎌倉時代前期	陶器椀(渥美産)	
		落ち込み1	19世紀以降	近世陶磁器・近世瓦	
		落ち込み2	19世紀以降	土師器	
		落ち込み3	18～19世紀以降	土師器	
		落ち込み4	19世紀以降	土師器	
		落ち込み5	19世紀以降	土師器	
		落ち込み6	19世紀以降	土師器・陶器	
		落ち込み7	19世紀以降	土師器	
		落ち込み8	18～19世紀以降	土師器・陶器山茶椀・近世陶磁器	
		落ち込み9	18～19世紀以降	土師器・近世陶器	
198-9	SZ 11400	溝1	古墳時代	縄文土器(晩期)・土師器	48号墳周壕
	SD 11402	溝2	平安末～鎌倉	縄文土器(晩期)・土師器・灰釉陶器・陶器椀・円筒埴輪	
	SZ 11401	溝3	古墳時代	土師器	40号墳周壕
	SD 11403	溝4	平安末～鎌倉	土師器	
		土坑1	不明	なし	
198-10	遺構なし				
198-11	遺構なし				
198-12	SZ 2230	溝3・溝4 方形周溝墓1	弥生後期	弥生土器・土師器	溝1より古
	SZ 2231	溝7 方形周溝墓2	弥生後期	弥生土器・土師器	
	SZ 11404	溝5 方形周溝墓3	弥生後期	弥生土器・土師器	
	SZ 11405	溝12 方形周溝墓4	弥生後期	なし	
	SA 11406	柱列1	飛鳥～奈良		SB2240と関連か？　N45°E
	SI 5472	土坑1(竪穴建物1)	奈良時代	土師器杯椀・甕	貼床
	SI 11407	土坑7(竪穴建物2)	奈良後期	土師器杯椀・高杯脚・甕・甑、須恵器杯G・杯蓋・甕(焼成不良)・円面硯	硬化面有
		土坑2	近世？	土師器鍋ほか、近世陶器	SD11408の最終埋土か
	SD 11408	土坑3	古代～鎌倉時代	土師器甕・須恵器	
	SK 11409	土坑4	不明	土師器鍋	
	SK 11410	土坑5	古墳～古代	土師器甕	
	SK 11411	土坑6	平安時代後期～鎌倉時代	土師器皿・甕・鍋、須恵器甕、陶器椀	底面硬化
	SA 11412	土坑8	飛鳥～奈良	土師器甕	柱穴　SD11417より古
	SK 11413	土坑9	古代	土師器甕・甑	
	SK 11414	土坑10	奈良後期	土師器杯椀・甑・甕、須恵器甕(焼成不良)	SI11407の下層　出土状況図有
		土坑11	攪乱	土師器甕(古代)	
	SD 2254	溝1	鎌倉時代	弥生土器壺・高杯、土師器甕、須恵器甕、陶器椀・白磁	
	SD 2254	溝2			SD2254埋土か
	SD 11415	溝6	鎌倉時代以降	土師器皿(油煙不着)・甕・鍋、須恵器壺、陶器椀	
	SD 11416	溝8	近世？	土師器杯・甕	
	SD 11417	溝9	近世	土師器甕・壺、須恵器甕、近世陶器、近世瓦	SA11412より新
	SD 11418	溝10	鎌倉時代	土師器杯・小型鉢・甕、須恵器甕、陶器椀	
	SD 11419	溝11	鎌倉時代	土師器甕、須恵器壺(焼成不良)、陶器椀、土錘	
	SD 11420	溝13	鎌倉時代以降	陶器椀	
	SD 11421	溝14	鎌倉時代以降	土師器甑、須恵器甕、陶器椀、鉄釘	
		風倒木		土師器・ロクロ土師器・須恵器円面硯	
198-13	SK 11422	土坑1	不明		T1
	SK 11423	土坑2	不明		T1、柱穴か？
	SK 11424	土坑3	近世		T2
	SD 11425	溝1	平安末期		T2
	SD 11426	溝2	不明	なし	T1、方格街区北辺道路南側溝か？
	SD 11427	溝1	近世	土師器・陶器・近世陶磁器・近世瓦	T3・4・5
	SD 11428	溝2	平安末期以降		T5
	SK 11429	土坑1	近世		T4、SD11427下層

第２表　第198次調査　遺構一覧表

第198-1次調査

番号	器種	器形	地区 出土遺構	調査時 遺構名	法量(cm) 重さ(g)		調整・技法の特徴	胎土	焼成	色調	残存度	備考	登録番号
1	土師器	鍋	2トレンチ 第12層	2トレンチ第12層	残存高	1.0	外面:ヨコナデ 内面:ヨコナデ	密	良	褐7.5YR4/4	口縁部1/12未満	外面に煤付着 南伊勢系　16世紀以降	001-01

第198-2次調査

番号	器種	器形	地区 出土遺構	調査時 遺構名	法量(cm) 重さ(g)		調整・技法の特徴	胎土	焼成	色調	残存度	備考	登録番号
1	緑釉陶器	椀	第7層	第7層	残存高	1.5	外面:ロクロナデ・施釉 内面:ロクロナデ・施釉	密	良	釉:オリーブ緑820 素地:灰5Y6/1	口縁部1/12未満	東濃産　10世紀代か	001-01
2	陶器	小皿	第9層	第9層	底径 残存高	4.8 1.6	外面:ロクロナデ・糸切・貼付高台　摩耗 内面:ロクロナデ　重ね焼痕　摩耗	密	良	灰白5Y7/1	底部9/12 (高台部ほぼ完存)	重ね焼の付着 (ほぼ同じ大きさの高台か) 渥美産　3～4型式(12世紀前半代)	001-02

第198-3次調査

番号	器種	器形	出土遺構	調査時 遺構名	法量(cm) 重さ(g)		調整・技法の特徴	胎土	焼成	色調	残存度	備考	登録番号
1	土師器	皿	SK11371	土坑1	残存高	2.1	外面:オサエ・ナデ・ヨコナデ 内面:ヨコナデ	密	良	にぶい黄橙10YR7/4	口縁部 1/12未満	南伊勢系 斎宮Ⅳ-1～	001-01
2	灰釉陶器	椀	SD11369	溝1	残存高	1.7	外面:ロクロナデ・貼付高台　貼付ヨコナデ 内面:ロクロナデ	密	良	にぶい黄橙10YR6/3	底部1/12	K14-2　9世紀前半か	001-02
3	鉄製品	釘	包含層	包含層	長さ 頭部厚 脚部厚	7.1 1.0 0.6					ほぼ完存	有機質の付着はサビのため不明	001-03

第198-4次調査

番号	器種	器形	出土遺構	調査時 遺構名	法量(cm) 重さ(g)		調整・技法の特徴	胎土	焼成	色調	残存度	備考	登録番号
1	土師器	甕	SD11373	溝1	残存高	2.9	外面:タテハケ・ヨコナデ 内面:板ナデ・ヨコナデ	密	良	にぶい橙10YR7/4	口縁部1/12	外面に煤付着 11世紀代	001-03
2	土製品	土錘	SD11373	溝1	長さ 幅 孔径 重さ	5.4 1.2 0.25～0.35 5.25	外面:ナデ・オサエ	密	良	にぶい黄橙10YR6/4	ほぼ完形		001-02
3	陶器	椀	SD11373	溝1	口径(推定) 残存高	15.4 4.1	外面:ロクロナデ 内面:ロクロナデ	密	良	灰黄2.5Y6/2	口縁部1/12	口縁部輪花状(数不明) 渥美産　3型式　12世紀代	001-04
4	陶器	椀	SD11373	溝1	口径(推定) 器高 底径	14.8 5.4 7.0	外面:ロクロナデ　・糸切・貼付高台(貼付ヨコナデ)　高台部摩耗 内面:ロクロナデ　摩耗　重ね焼痕	密	良	灰黄2.5Y7/2	口縁部1/12未満 底部3/12	内面に重ね焼痕 渥美産　3型式　12世紀代	001-01
5	土師器	杯C	SD11060	溝4	残存高	2.5	外面:オサエナデ・ヨコナデ　黒斑 内面:ヨコナデ	密	良	橙7.5YR7/6	口縁部1/12	斎宮Ⅲ-1	001-05
6	陶器	椀	SD11060	溝4	底径 残存高	8.0 3.5	外面:ロクロナデ・糸切・貼付高台(貼付ヨコナデ)　モミガラ痕 内面:ロクロナデ　重ね焼痕　摩耗	密	良	灰白2.5Y7/1	底部5/12	内面に自然釉付着 渥美産　4型式	001-07
7	須恵器	甕	SD11060	溝4	残存高	4.1	外面:ロクロナデ 内面:ロクロナデ	密	良	灰7.5Y5/1	口縁部1/12未満		001-06
8	土師器	椀C	SB11380	P4柱痕跡 (建物1)	残存高	2.5	外面:オサエ・ナデ・ヨコナデ 内面:ナデ・ヨコナデ	密	良	橙5YR6/6	口縁部1/12未満	斎宮Ⅲ-1新	002-07
9	土師器	甕	SB11380	P4	残存高	1.2	外面:ヨコナデ 内面:ヨコナデ	密	良	にぶい黄橙10YR6/3	口縁部1/12	口縁部に煤付着 ～12世紀代	002-06
10	土製品	土錘	pit2	P2	残存長 幅 孔径 重さ	3.7 1.1 0.3 3.75	外面:オサエ・ナデ	密	良	にぶい黄橙10YR7/4	1/2	全体摩滅著しい	002-02
11	土製品	土錘	pit2	P2	長さ 幅 孔径 重さ	5.2 1.1 0.4 4.43	外面:オサエ・ナデ	密	良	灰黄褐10YR5/2	ほぼ完形		002-03
12	土師器	甕	pit3	P3	残存高	2.0	外面:ハケ・ヨコナデ 内面:ヨコナデ	密	良	にぶい橙7.5YR6/4	口縁部1/12	12世紀代	002-05
13	土師器	椀A	pit3 No.1	P3 No.1	口径 器高	16.9 4.9	外面:オサエ・ナデ・ヨコナデ 内面:ナデ・ヨコナデ	密	良	橙5YR6/6	口縁部2/12	飛鳥Ⅴ(平城1) 斎宮Ⅰ-1新	002-04
14	土師器	椀C	SK11375	土坑1	残存高	2.4	外面:オサエ・ヨコナデ 内面:ヨコナデ	密	良	にぶい橙7.5YR7/4	口縁部1/12	口縁端部に煤、油煙付着 斎宮Ⅲ-1	002-01
15	土師器	鍋	表土	表土 (北側)	口径(推定) 残存高	25.6 3.5	外面:ナデ・オサエ・ヨコナデ 内面:ヨコハケ・ヨコナデ	密	良	にぶい黄橙10YR7/3	口縁部1/12	口縁部～外面全体・内面一部に煤付着 13世紀代	003-01
16	陶器	椀	表土	表土 (北側)	口径 器高 底径	16.7 5.0 8.3	外面:ロクロナデ・糸切後ナデ・貼付高台 内面:ロクロナデ・仕上げナデ(多方向)、降灰による自然釉	密	良	灰白2.5Y7/1	口縁部2/12 底部7/12	歪みあり 知多産　4型式後	002-08
17	緑釉陶器	椀	耕土	耕土 (西壁No.1)	底径 残存高	6.7 2.2	外面:ロクロナデ・ロクロケズリ・貼付高台・施釉 内面:ロクロナデ・施釉	密	良	釉:若芽色826 素地:灰黄褐10YR6/2	底部1/12	近江、平安京近郊か 10世紀以降	003-02

第198-5次調査

番号	器種	器形	出土遺構	調査時 遺構名	法量(cm) 重さ(g)		調整・技法の特徴	胎土	焼成	色調	残存度	備考	登録番号
1	土師器	椀A	SK11378	5T 土坑1	口径 残存高	14.2 3.6	外面:ヘラケズリ・ヨコナデ 内面:ヘラミガキ・ヨコナデ	密	良	橙5YR6/6	口縁部1/12	斎宮Ⅱ-2	001-09
2	土師器	杯A	SK11378	5T 土坑1	口径 器高	12.8 3.6	外面:オサエ・ナデ・ヨコナデ 内面:ナデ・ヨコナデ	密	良	橙7.5YR7/6	口縁部4/12	斎宮Ⅱ-2	002-04
3	土師器	杯A	SK11378	5T 土坑1	口径 器高	13.7 3.0	外面:オサエ・ナデ・ヨコナデ 内面:ナデ・ヨコナデ	密	良	にぶい黄橙10YR7/4	口縁部3/12	斎宮Ⅱ-2	002-02
4	土師器	杯A	SK11378	5T 土坑1	口径 器高	13.8 3.1	外面:オサエ・ナデ・ヨコナデ 内面:ナデ・ヨコナデ	密	やや良	橙5YR6/6	口縁部9/12	斎宮Ⅱ-2	002-05
5	土師器	杯A	SK11378	5T 土坑1	口径 器高	14.8 3.0	外面:オサエ・ナデ・ヨコナデ 内面:ナデ・ヨコナデ	密	良	にぶい黄橙10YR7/4	口縁部3/12	斎宮Ⅱ-1～2(平城Ⅵ)	001-06
6	土師器	杯A	SK11378	5T 土坑1	口径 器高	15.1 3.2	外面:オサエ・ナデ・ヨコナデ 内面:ナデ・ヨコナデ	密	良	橙5YR6/6	口縁部1/12	斎宮Ⅱ-2	002-01
7	土師器	杯A	SK11378	5T 土坑1	口径(推定) 器高	15.8 3.5	外面:オサエ・ナデ・ヨコナデ 内面:ナデ・ヨコナデ	密	良	橙5YR6/6	口縁部1/12	斎宮Ⅱ-1～2	001-10
8	土師器	杯A	SK11378	5T 土坑1	口径(推定) 残存高	17.4 2.2	外面:ヘラケズリ・ヨコナデ 内面:ナデ・ヨコナデ	密	良	にぶい赤褐5YR5/4	口縁部1/12	斎宮Ⅱ-1～2	001-04
9	土師器	皿A	SK11378	5T 土坑1	口径 残存高	14.7 2.2	外面:オサエ・ナデ・ヨコナデ 内面:ナデ・ヨコナデ	密	良	にぶい橙7.5YR6/4	口縁部2/12	斎宮Ⅱ-1(平城Ⅵ)	001-03
10	土師器	皿A	SK11378	5T 土坑1	口径 器高	14.8 2.5	外面:オサエ・ナデ・ヨコナデ 内面:ナデ・ヨコナデ	密	良	橙7.5YR7/6	口縁部3/12	斎宮Ⅱ-1(平城Ⅵ)	001-05
11	土師器	皿A	SK11378	5T 土坑1	口径 器高	15.3 2.3	外面:オサエ・ナデ・ヨコナデ 内面:ナデ・ヨコナデ	密	良	浅黄橙10YR8/4	口縁部10/12	斎宮Ⅱ-1古～中(平城Ⅵ)	001-01
12	土師器	皿A	SK11378	5T 土坑1	口径(推定) 器高	16.4 2.1	外面:オサエ・ナデ・ヨコナデ 内面:ナデ・ヨコナデ	密	良	橙5YR6/6	口縁部1/12	斎宮Ⅱ-1古～中(平城Ⅵ)	001-02
13	土師器	皿	SK11378	5T 土坑1	口径 器高	16.6 1.6	外面:オサエ・ナデ・ヨコナデ 内面:ナデ・ヨコナデ	密	良	橙7.5YR6/6	口縁部1/12未満		001-07
14	土師器	甕	SK11378	5T 土坑1	残存高	5.9	外面:ヨコナデ・ハケ 内面:ヨコナデ・ハケ・ヨコナデ	密	良	にぶい黄橙10YR7/4	口縁部1/12		004-04
15	土師器	長胴甕	SK11378	5T 土坑1	残存高	8.0	外面:ハケ・ヨコナデ 内面:オサエ・ハケ・ヨコナデ	密	良	にぶい黄橙10YR7/3	口縁部1/12		004-01
16	土製品	土錘	SK11378	5T 土坑1	長さ 幅 孔径 重さ	4.3 1.3 0.5 5.29	外面:ナデ	密	良	にぶい黄橙10YR6/3	完形		003-06
17	土師器	椀 (底部)	SK11378	5T 土坑1			外面:ナデ・ヘラ描 内面:オサエ・ナデ	密	良	灰黄褐10YR5/2	－		002-03
18	須恵器	有台盤	SK11378	5T 土坑1	口径(推定) 残存高	15.6 2.9	外面:ロクロケズリ・ロクロナデ・高台部ハガレ 内面:ロクロナデ　若干摩耗	密	良	黄灰2.5Y6/1	口縁部1/12	猿投産	002-08
19	緑釉陶器	椀	SK11378	5T 土坑1	残存高	2.1	外面:ロクロナデ 内面:ロクロナデ	密	良	釉:豌豆緑836 素地:にぶい黄橙10YR7/3	口縁部1/12	平安京近郊産	003-07
20	灰釉陶器	椀	SK11378	5T 土坑1	口径 残存高	15.0 3.1	外面:ロクロケズリ・ロクロナデ　施釉(ハケヌリ) 内面:ロクロナデ　施釉(ハケヌリ)	密	良	釉:裏葉色855 素地:灰白2.5Y7/1	口縁部1/12	K14-2(9世紀前半)	002-06
21	灰釉陶器	椀	SK11378	5T 土坑1	口径 残存高	18.2 3.3	外面:ロクロナデ 内面:ロクロナデ・施釉(ハケヌリ)	密	良	釉:威光茶990 素地:浅黄2.5Y7/3	口縁部1/12	K14-2(9世紀前半)	003-04
22	灰釉陶器	皿	SK11378	5T 土坑1	底径 残存高	7.8 1.9	外面:ロクロケズリ・高台貼付(貼付ヨコナデ)・ロクロナデ　施釉(ハケヌリ) 内面:ロクロナデ・沈線　施釉(ハケヌリ)	密	良	釉:青白橡989 素地:灰白2.5Y7/1	底部3/12	内面に厚く外面に薄くまだらに灰釉 K14-2(9世紀前半)	003-05
23	灰釉陶器	皿	SK11378	5T 土坑1	口径(推定) 残存高	14.4 1.4	外面:ロクロナデ　施釉(ハケヌリ) 内面:ロクロナデ　施釉(ハケヌリ)	密	良	釉:灰緑857 素地:灰黄2.5Y7/2	口縁部1/12	K14-2(9世紀前半)	002-07
24	灰釉陶器	椀A	SK11378	5T 土坑1	残存高	6.4	外面:ロクロケズリ・ロクロナデ 内面:ロクロナデ　施釉(ハケヌリ)	密	良	釉:抹茶色838 素地:灰白2.5Y7/1	口縁部1/12未満	K14-2(9世紀前半)	003-01
25	須恵器	杯 転用硯 (朱墨硯)	SK11378	5T 土坑1	底径 残存高	4.5 1.1	外面:・ロクロケズリ・糸切・ロクロナデ 内面:ロクロナデ・仕上げナデ	密	良	褐灰10YR6/1	底部完形	内面にべったりと外面はわずかに朱墨付着	003-03

第３表　第198次調査　出土遺物一覧表（1）

26	須恵器	甕 転用硯	SK11378	5T 土坑1	残存高	6.6	外面:タタキ 内面:ナデ　やや摩耗	密	良	にぶい黄橙10YR6/3	－	内面に墨痕 外面に自然釉	003-02
27	鉄製品	釘	SK11378	5T 土坑1	残存長 重さ	4.4 1.6							004-03
28	土師器	皿	SD11379	溝1	口径 残存高	14.0 2.1	外面:オサエ・ナデ・ヨコナデ 内面:ヨコナデ	密	良	にぶい橙7.5YR7/4	口縁部1/12	14世紀以前か	004-07
29	土師器	鍋	SD11379	溝1	口径(推定) 残存高	19.4 1.5	外面:ヨコナデ　煤付着 内面:ヨコナデ	密	良	にぶい黄橙10YR7/4	口縁部1/12	南伊勢系第一段階後～第二段階 13～14世紀代	004-06
30	土師器	鍋	SD11381	溝2	残存高	1.9	外面:ヨコナデ 内面:ヨコナデ	密	良	にぶい橙7.5YR6/4	口縁部1/12未満	南伊勢系 16世紀代以降	004-02
31	灰釉陶器	椀	SD5504	5T 溝4	残存高	2.1	外面:ロクロナデ 内面:ロクロナデ　施釉	密	良	釉:山葵色849 素地:灰黄2.5Y7/2	口縁部1/12未満	K14か	004-05
32	土師器	鍋	pit3	P3	口径(推定) 残存高	22.8 5.8	外面:ナデ・オサエ？・ケズリ・ヨコナデ　煤厚く調整不明瞭 内面:ヘラケズリ・ヨコナデ	密	良	浅黄橙7.5YR8/4	口縁部1/12	南伊勢系 15～16世紀代	004-08

第198-6次調査

番号	器種	器形	出土遺構	調査時 遺構名	法量(cm) 重さ(g)		調整・技法の特徴	胎土	焼成	色調	残存度	備考	登録番号
1	土師器	皿	SI11390	竪穴1	残存高	2.4	外面:ヘラケズリ・ヘラミガキ・ヨコナデ 内面:ナデ・ヨコナデ	密	良	橙2.5YR6/6	口縁部1/12	斎宮Ⅰ-2	001-03
2	土師器	杯	SI11390	竪穴1 カマド周辺	口径 器高	13.0 3.3	外面:ヘラケズリ・ヨコナデ 内面:螺旋状暗文・ヨコナデ	密	良	橙5YR6/6	口縁部2/12	斎宮Ⅰ-2 内面に煤付着	001-02
3	土師器	皿	SI11390	竪穴1 カマドNo.1	口径 器高	18.3 2.5	外面:ヘラケズリ・ヨコナデ 内面:ナデ・ヨコナデ　焼成後線刻	密	良	橙5YR6/6	口縁部9/12	斎宮Ⅰ-2 内面に煤付着	001-01
4	土師器	甕	SI11390	竪穴1 カマドNo.6	頸径(推定) 残存高	13.7 12.3	外面:タテハケ(粗)・ナナメハケ(細)・ヨコナデ 内面:オサエ・ナデ・ヨコハケ・ヘラケズリ・ヨコナデ	やや粗	良	にぶい黄橙10YR7/3	頸部2/12 体部3/12	内面に煤付着	001-05
5	土師器	甕	SI11390	竪穴1 カマドNo.2	頸径(推定) 残存高	14.1 11.1	外面:ハケ・ヨコナデ　ヘラ記号 内面:ヨコハケ・ケズリ・ヨコナデ	やや粗	良	浅黄橙10YR8/4	頸部2/12 体部5/12	内面に煤付着	001-04
6	土師器	甕	SI11390	竪穴1 カマドNo.5	残存高	7.8	外面:タテハケ・多方向ハケ　摩耗 内面:ヨコハケ・ヘラケズリ	やや密	良	にぶい黄橙10YR6/3	底部ほぼ完形	内面に煤付着 外面　黒変	002-01
7	縄文土器	甕	SB11385	P5 掘立1	残存高	4.5	外面:オサエ・ナデ・沈線 内面:オサエ・ナデ	粗	良	にぶい黄褐10YR5/3	口縁部1/12		002-02
8	土師器	杯A	SB11386	掘立2 P24掘方	残存高	3.6	外面:ナデ・ヨコナデ 内面:ヨコナデ	密	良	橙5YR6/6	口縁部1/12	斎宮Ⅰ-1新	002-05
9	土師器	皿A	SB11387	P23 掘立3	残存高	2.2	外面:ナデ・スガキ・ヨコナデ 内面:ヘラミガキ・ヨコナデ	密	良	にぶい橙7.5YR7/4	口縁部1/12未満	斎宮Ⅰ-2	002-04
10	須恵器	杯Bか	SB11388	P22 掘立4	残存高	2.2	外面:ロクロナデ 内面:ロクロナデ	密	良	灰黄2.5Y6/2	口縁部1/12未満	斎宮Ⅰ-1～2 (飛鳥Ⅴ～平城Ⅰ)	002-06
11	土師器	皿	SI11389	土坑2	残存高	2.4	外面:ナデ・オサエ・ヨコナデ 内面:ヨコナデ	密	良	にぶい橙7.5YR6/4	口縁部1/12未満	斎宮Ⅰ-2	002-07
12	土師器	甑	SI11389	土坑2	残存高	6.3	外面:タテハケ・ヨコナデ 内面:板ナデ・ヨコナデ	密	良	にぶい黄橙10YR6/3	口縁部1/12	外面に煤付着	003-01
13	陶器	椀	SK11393	土坑3	残存高	3.0	外面:ロクロナデ 内面:ロクロナデ	密	良	灰黄2.5Y7/2	口縁部1/12	内面に漆付着 渥美産　4～5型式　12世紀後半	003-05
14	陶器	椀	SK11393	土坑3	口径 残存高	15.2 2.8	外面:ロクロナデ 内面:ロクロナデ	密	良	灰黄2.5Y7/2	口縁部3/12	渥美産　4型式 12世紀後半	003-03
15	陶器	壺	SK11393	土坑3	残存高	6.4	外面:ロクロナデ 内面:ロクロナデ　鏈釉	密	良	にぶい赤褐5YR4/4	口縁部1/12未満		002-03
16	土師器	小皿	包含層	包	口径 器高	7.8 1.3	外面:オサエ・ナデ・ヨコナデ 内面:ナデ・ヨコナデ	密	良	橙7.5YR7/6	口縁部3/12	歪みあり 斎宮Ⅲ-3	003-02
17	陶器	椀	包含層	包	口径 残存高	16.4 4.0	外面:ロクロナデ 内面:ロクロナデ	密	良	にぶい黄橙10YR6/3	口縁部3/12	渥美産　4型式 12世紀後半	003-04

第198-7次調査

番号	器種	器形	出土遺構	調査時 遺構名	法量(cm) 重さ(g)		調整・技法の特徴	胎土	焼成	色調	残存度	備考	登録番号
1	土師器	皿	SA10821 pit32掘方 No.1	P32掘方埋土 (SA10821)　No.1	口径(推定) 器高	21.6 2.5	外面:ヘラケズリ・ヨコナデ 内面:ナデ・ヨコナデ	密	良	橙7.5YR7/6	口縁部1/12未満	斎宮Ⅰ-2 (平城Ⅲ)	003-01
2	土師器	高杯 脚部	SA10821	P32 (SA10821)	残存高	1.1	外面:ヨコナデ 内面:ヨコナデ	密	良	橙5YR6/6	底部1/12未満		001-07
3	土師器	杯A	SB11395 pit14	P14 (建物2)	残存高	2.5	外面:オサエ・ナデ・ロクロナデ 内面:ロクロナデ	密	良	橙7.5YR7/6	口縁部1/12	斎宮Ⅱ-3古～中	003-03
4	土師器	杯A	SB11395 pit14	P14 (建物2)	残存高	2.4	外面:オサエ・ナデ・ロクロナデ 内面:ロクロナデ	密	良	橙7.5YR7/6	口縁部1/12	斎宮Ⅱ-2新～Ⅱ-3古	003-02
5	土師器	杯G	SB11395 pit14掘方	P14 (建物2)掘方	器高	3.0	外面:オサエ・ナデ・ヨコナデ 内面:ナデ・ヨコナデ	密	やや軟	橙7.5YR6/6	口縁部1/12未満	摩耗大 斎宮Ⅱ-2古	003-04
6	土師器	杯	SB11396	P22	口径 残存高	12.4 2.5	外面:オサエ・ナデ・ヨコナデ 内面:ナデ・ヨコナデ	密	良	にぶい黄橙10YR7/4	口縁部2/12	斎宮Ⅲ-3～4 12世紀前-中頃	001-05
7	土師器	杯	SB11396	P22	口径 器高	12.3 3.1	外面:オサエ・ナデ・ヨコナデ 内面:ナデ・ヨコナデ	密	良	にぶい橙7.5YR7/4	口縁部3/12	斎宮Ⅲ-3～4 12世紀前-中頃	001-04
8	土師器	杯	SB11396	P22	口径(推定) 残存高	13.3 2.3	外面:オサエ・ナデ・ヨコナデ 内面:ナデ・ヨコナデ	密	良	浅黄橙10YR8/3	口縁部1/12	斎宮Ⅲ-3新 12世紀前半	001-06
9	土師器	杯	SB11396	P22	口径(推定) 器高	14.6 2.0	外面:オサエ・ナデ・ヨコナデ 内面:ナデ・ヨコナデ	密	良	にぶい橙10YR7/4	口縁部1/12	斎宮Ⅲ-3新 12世紀前半	001-03
10	土師器	甕	SB11396	P22	口径(推定) 残存高	20.3 4.5	外面:タテハケ・オサエ・ナデ・沈線・ヨコナデ 内面:ナデ・ヨコナデ	密	やや軟	にぶい橙7.5YR7/4	口縁部2/12	12世紀代	001-02
11	灰釉陶器	皿	SB11396 pit48	P48　N層 (柱列1)	残存高	1.6	外面:ロクロナデ　施釉(ツケガケ) 内面:ロクロナデ　施釉(ツケガケ)	密	良	釉:鶯茶815 素地:灰白2.5Y7/1	口縁部1/12	H72-1以降 10世紀後半	003-06
12	黒色土器	椀	SB11396 pit47	P47(柱列)	残存高	0.6	外面:ヘラケズリ・貼付高台 内面:ヘラミガキ(黒)	密	良	にぶい黄橙10YR6/4	底部1/12	内黒 9世紀後半	003-08
13	土師器	鉢Bか	SB11396 pit47	P47　J層	残存高	4.4	外面:ヨコナデ　摩滅 内面:ナデ・ヨコナデ	密	やや軟	橙5YR6/8	口縁部1/12	平城Ⅰ	003-09
14	土師器	甕	SB11396 pit47	P47 (柱列1)	口径(推定) 残存高	22.8 2.7	外面:オサエ・ヨコナデ 内面:ヨコナデ	密	良	にぶい橙7.5YR6/4	口縁部1/12	12世紀	003-05
15	土師器	鍋	pit1 No.1	P1 No.1	口径(推定) 残存高	24.7 8.1	外面:ナデ・オサエ・ケズリ・ヨコナデ 内面:ナデ・ヨコナデ	粗	良	にぶい黄橙10YR7/3	口縁部4/12	外面に煤付着 南伊勢系第一段階　13世紀	001-01
16	土師器	鍋	pit21	P21	口径 残存高	28.1 12.6	外面:オサエ・ナデ・ケズリ・ヨコナデ 内面:ナデ・ヘラケズリ・ヨコナデ	粗	良	にぶい橙7.5YR6/4	口縁部2/12	口縁部～外面に煤付着 南伊勢系第一段階　13世紀	002-01
17	土師器	鍋	pit21	P21	口径(推定) 残存高	27.6 7.9	外面:オサエ・ナデ・ヨコナデ 内面:ナデ・オサエ・ヨコナデ	密	良	にぶい黄橙10YR7/3	口縁部2/12	内外面に煤付着 南伊勢系第一段階　13世紀	002-02
18	土師器	脚部	カクラン	カクラン	残存高	3.4	外面:ヨコナデ 内面:ナデ・ヨコナデ	密	良	橙5YR6/6	底部1/12		003-10
19	灰釉陶器	段皿	表土	拡張部 表土	口径 残存高	16.9 1.9	外面:ロクロケズリ・ロクロナデ　施釉(ハケヌリ) 内面:ロクロナデ　施釉(ハケヌリ)	密	良	釉:抹茶色838 素地:灰白2.5Y7/1	口縁部2/12	K14-2 9世紀前半	003-07

第198-8次調査

番号	器種	器形	出土遺構	調査時 遺構名	法量(cm) 重さ(g)		調整・技法の特徴	胎土	焼成	色調	残存度	備考	登録番号
1	陶器	椀	SD11399	土坑1	底径 残存高	7.0 2.2	外面:糸切・ロクロナデ・貼付高台　モミガラ痕 内面:ロクロナデ・仕上げナデ　重ね焼痕　やや摩耗	密	良	灰白2.5Y7/1	底部完形	渥美産　4型式か	001-01
2	陶器	椀	SD11399	土坑1	底径 残存高	7.6 2.8	外面:ヘラ切り・ロクロナデ・貼付高台 内面:ロクロナデ　摩耗	密	良	灰白2.5Y7/1	底部4/12	渥美産　4型式か	001-02
3	土師器	小皿	pit1	P1	器高	1.0	外面:オサエ・ナデ・ヨコナデ 内面:ナデ・ヨコナデ	密	良	にぶい橙7.5YR7/4	口縁部1/12		002-04
4	土師器	茶釜	落ち込み3	落ち込み3	口径 残存高	11.3 3.0	外面:ナデ・ヨコナデ 内面:ヨコハケのちナデ・ヨコナデ	密	良	にぶい黄橙10YR7/4	口縁部5/12		001-06
5	土師器	茶釜	落ち込み3	落ち込み3	口径 残存高	13.5 6.5	外面:ハケ・ヘラケズリ・ヨコナデ 内面:ヨコハケのちナデ・ヨコナデ	密	良	にぶい褐7.5YR6/3	口縁部1/12	口縁部～外面に煤付着	001-05
6	土師器	鍋	落ち込み5	落ち込み5	口径(推定) 残存高	26.8 6.1	外面:ヘラケズリ・ヨコナデ 内面:横方向ナデ・ケズリ・ヨコナデ	密	良	にぶい橙7.5YR6/4	口縁部1/12	外面に煤付着	001-04
7	土師器	鍋 (焙烙)	落ち込み5	落ち込み5	口径(推定) 残存高	24.0 3.9	外面:オサエ・ナデ・ヘラケズリ・ヨコナデ 内面:ケズリ・ヨコナデ	密	良	にぶい橙7.5YR6/4	口縁部2/12	内外面に煤付着	001-03
8	陶器	鉢	落ち込み6	落ち込み6	底径 残存高	19.4 7.8	外面:オサエ・ナデ　底部無調整 内面・ナデ　工具当たり	粗	良	橙5YR6/6	底部7/12	常滑産	003-02
9	土師器	鍋(焙烙)	落ち込み7	落ち込み7	残存高	4.4	外面:ヘラケズリ・ヨコナデ 内面:横方向ナデ・ケズリ・ヨコナデ	密	良	にぶい橙5YR6/4	口縁部1/12未満	内外面に煤付着	002-01
10	土師器	小皿	落ち込み8	落ち込み8	器高	1.1	外面:オサエ・ナデ・ヨコナデ 内面:ヨコナデ	密	良	にぶい橙7.5YR7/4	口縁部1/12		001-07
11	石製品	硯	4トレンチ 表土	4トレンチ 表土	残存長 幅 厚	7.2 7.8 2.0	外面:やや研磨・研磨 内面:硯面　墨痕						002-03
12	陶器	小椀	4トレンチ 表土	4トレンチ 表土	底径 残存高	2.7 3.3	外面:ロクロケズリ・削り出し高台・ロクロナデ　施釉 内面:ロクロナデ・施釉	密	良	釉:青白橙989 素地:浅黄2.5Y7/3	底部完形	信楽産	002-02
13	陶器	皿	4トレンチ 表土	4トレンチ 表土	口径 器高 底径	10.7 4.5 3.7	外面:糸切・ロクロケズリ・貼付高台・ロクロナデ　施釉　染付 内面:ロクロナデ　施釉	密	良	釉:ねこやなぎ色825 素地:淡黄2.5Y8/3	口縁部3/12	貫入あり 瀬戸産 高台部墨書あり	003-01
14	磁器	瓶	7トレンチ 表土	7トレンチ 表土	底径 残存高	2.7 5.0	外面:削り出し高台　施釉　染付	密	良	釉:鏈青磁856 素地:灰白5Y8/1	体部ほぼ完形		002-05

第４表　第198次調査　出土遺物一覧表（2）

第198-9次調査

番号	器種	器形	出土遺構	調査時遺構名	法量(cm) 重さ(g)		調整・技法の特徴	胎土	焼成	色調	残存度	備考	登録番号
1	土師器	鉢	SZ11400	溝1	残存高	2.5	外面:ヨコナデ・貼付 内面:ヨコナデ	密	良	にぶい黄橙10YR7/4	-		001-02
2	土師器	甕	SZ11400	溝1	底径 残存高	6.0 2.9	外面:ナデ・ハケ　植物当たり痕 内面:オサエ・ナデ・ヘラケズリ	粗	良	橙7.5YR6/6	底部3/12		001-01
3	土製品	朝顔形埴輪	SD11402	溝2第1層	残存高	4.3	外面:ヨコハケ・貼付ヨコナデ 内面:ナデ・オサエ	密	良	にぶい黄橙10YR7/4	-		001-03
4	土師器	甕	SD11402	溝2第3層	口径(推定) 残存高	19.5 3.2	外面:ヨコナデ　工具当たり痕 内面:ハケ・ヨコナデ	密	良	浅黄橙10YR8/4	口縁部2/12		001-04

第76-1次調査

番号	器種	器形	出土遺構	調査時遺構名	法量(cm) 重さ(g)		調整・技法の特徴	胎土	焼成	色調	残存度	備考	登録番号
5	須恵器	長頸甕	SZ11401	F17 ミゾ21	胴径 残存高	12.8 11.1	外面:ロクロナデ・ロクロケズリ、自然釉(釉だまり) 内面:ロクロナデ・自然釉(釉だまり)	密	良	釉:威光茶990 胎土:黄灰2.5Y4/1	体部5/12 台部3/12	台部は歪み大 別個体破片が体部外面に融著	003-01
6	須恵器	壺	SZ11401	E17 ミゾ20 E17 ミゾ21 E17 SD1上層及び SD3が接合 F17 土坑10	口径(推定) 残存高(口縁部) 残存高(底部) 底径	24.8 1.7 6.0 10.5	外面:ロクロナデ・ヘラ切り後ナデ、自然釉、底部打ち欠きか 内面:ロクロナデ、自然釉著しい	密	良	灰黄2.5Y6/2	口縁部 1/12未満 底部5/12	底部中央を円形に打ち欠き	002-02
7	須恵器	杯G	塚山 41号墳	D21 ミゾ15	口径 器高	9.2 3.6	外面:ロクロナデ・ロクロケズリ・ヘラ切り後ナデ 内面:ロクロナデ・仕上げナデ(一方向)	密	良	灰黄2.5Y6/2	口縁部8/12	顕著な降灰が見られないことから蓋をして正位で窯詰めか	003-02
8	須恵器	杯H蓋	塚山 41号墳	D21 ミゾ15	口径 残存高	10.9 2.4	外面:ロクロケズリ・ロクロナデ 内面:ロクロナデ・ナデ	密	良	黄灰2.5Y6/1	口縁部1/12		001-02
9	須恵器	杯H	塚山 41号墳	D21 ミゾ15	底径 残存高	5.0 1.2	外面:ロクロケズリ・降灰 内面:ロクロナデ・ナデ	密	良	灰黄2.5Y6/2	底部4/12	外面に降灰	001-01
10	須恵器	壺	塚山 41号墳	D21 ミゾ15	胴径 残存高	15.3 9.0	外面:ロクロナデ・カキメ・ロクロケズリ・ヘラ切り後ナデオサエ 内面:ロクロナデ	密	良	灰5Y6/1	底部7/12	外面に降灰	003-05
11	土師器	甕	塚山 41号墳	D21 ミゾ15	口径 残存高	14.0 5.7	外面:タテハケ・ヨコナデ 内面:ヨコハケ・ヨコナデ	密	良	にぶい黄橙10YR7/3	口縁部4/12		003-06
12	土師器	鍋	塚山 41号墳	D21 ミゾ15	口径 残存高	23.6 12.5	外面:タテハケ・多方向ハケ・ヨコナデ 内面:ヨコハケ・ヘラケズリ・ヨコナデ	密	良	にぶい黄橙10YR7/3	口縁部4/12		004-01
13	須恵器	杯G	塚山 41号墳	E22 ミゾ15	口径 器高	8.9 3.0	外面:ロクロナデ・ヘラ切り後ナデ 内面:ロクロナデ・仕上げナデ(多方向)	密	良	灰5Y5/1	口縁部9/12	内外面に降灰	001-03
14	須恵器	杯H	塚山 41号墳	E22 ミゾ15 P2	口径 器高	8.3 2.3	外面:ロクロナデ・ヘラ切り後ナデ 内面:ロクロナデ・仕上げナデ(一方向)	密	良	黄灰2.5Y6/1	ほぼ完形	外面体部～底部に降灰	001-05
15	須恵器	杯H	塚山 41号墳	E22 ミゾ15 P3	口径 器高	9.1 3.1	外面:ロクロケズリ・ロクロナデ・ヘラ切り後ナデ 内面:ロクロナデ・仕上げナデ(一方向)	密	良	灰白2.5Y7/1	口縁部10/12		003-03
16	須恵器	杯H	塚山 41号墳	E22 ミゾ15 P4	口径 器高	8.5 2.5	外面:ロクロナデ・ヘラ切り後ナデ 内面:ロクロナデ・仕上げナデ(一方向)	密	良	灰5Y6/1	ほぼ完形	口縁～体部外面上半に降灰、歪み大 底部外面に板状の当たり痕	001-06
17	須恵器	杯H	塚山 41号墳	E22 ミゾ15 P1	口径 器高	9.3 2.6	外面:ヘラ切り後ロクロナデ 内面:ロクロナデ・仕上げナデ(一方向)	密	良	灰10Y6/1	口縁部5/12		003-04
18	土師器	不明品	塚山 41号墳	F21 ミゾ15	残存高	3.7	外面:ケズリ(面取り) 内面:ナデ	密	良	橙5YR6/6	-	ミニチュア土製品(甑)か	001-04
19	土師器	高杯	塚山 41号墳	F21 ミゾ15 F20　包	口径(推定) 残存高	19.7 3.8	外面:ナデ・オサエ・ヘラケズリ・ヨコナデ 内面:ナデ・ヘラミガキ・ヨコナデ	密	良	明赤褐5YR5/6	口縁部1/12		001-07
20	須恵器	円面硯	SD11402	F17 ミゾ19	底径 残存高	20.3 2.6	外面:ロクロナデ・長方形透かし、降灰・自然釉 内面:ロクロナデ	密	良	灰黄2.5Y6/2	底部2/12		002-03
21	土製品	円筒埴輪	SD11402	F17 ミゾ19	残存高	6.0	外面:タテハケ・ヨコナデ 内面:オサエ・ナデ・ヨコナデ	やや粗	良	にぶい黄橙10YR7/4	-		001-08
22	土製品	円筒埴輪	SD11402	F17 ミゾ19	残存高	7.7	外面:タテハケ・ヨコナデ 内面:ユビナデ・ヨコナデ	やや粗	良	にぶい黄橙10YR7/3	-	底部に植物圧痕	002-01

第198-12次調査

番号	器種	器形	出土遺構	調査時遺構名	法量(cm) 重さ(g)		調整・技法の特徴	胎土	焼成	色調	残存度	備考	登録番号
1	弥生土器	壺	a18 SD2254	a18 溝2	残存高	8.7	外面:ナデ・ハケメ　櫛描直線文　櫛描列点文 内面:ユビナデ	やや粗	良	淡黄2.5Y8/4	-		001-06
2	弥生土器	甕	a17・18 SD2254	a17・18 溝1・2上層	底径 残存高	5.4 2.8	外面:ナデ・ヘラミガキ(摩滅)　底部に植物痕有 内面:ナデ・オサエ	やや粗	良	にぶい黄橙10YR7/4	底部3/12		001-04
3	土師器	小皿	a18 SD2254	a18 溝2	口径 残存高	8.2 1.1	外面:ハケ・ヨコナデ 内面:ナデ・ヨコナデ	密	良	にぶい黄橙10YR7/4	口縁部5/12	歪みあり	001-05
4	弥生土器	壺	b14・15 SZ2230	b14・15 溝4	口径(推定) 残存高	19.1 4.2	外面:ナデ・櫛描直線文 内面:ナデ	粗	良	にぶい黄橙10YR7/4	口縁部4/12		001-08
5	土師器	鉢	a14 SZ2230	a14 溝4	口径(推定) 残存高	14.4 7.4	外面:タテハケ・ヨコナデ 内面:ヨコハケ・ヨコナデ	やや粗	良	にぶい黄橙10YR7/4	口縁部3/12		002-01
6	弥生土器	壺	a12 SZ2231	a12 溝7	口径	16.7	外面:ハケ・ヨコナデ・竹管文 内面:ハケ	密	良	にぶい黄橙10YR7/4	口縁部10/12		003-01
7	弥生土器	甕	a12 SZ2231	a12 溝7	残存高	2.9	外面:タテハケ・沈線・ヨコナデ 内面:ナデ・ヨコハケ・ヨコナデ	やや粗	良	にぶい黄橙10YR7/4	口縁部1/12未満		002-04
8	弥生土器	高杯	a11・12 SZ2231	a11・12 溝7	底径 残存高	12.4 13.7	外面:ヘラミガキ・ヨコナデ 内面:シボリ・ナデ・オサエ・ハケメ・ヨコナデ	密	良	にぶい黄橙10YR7/4	底部4/12		002-02
9	弥生土器	高杯	a12 SZ2231	a12 溝7	口径 残存高	21.4 3.0	外面:櫛描波状文・ミガキ・ヨコナデ 内面:ヘラミガキ・ヨコナデ	やや粗	良	にぶい黄橙10YR7/4	口縁部1/12未満		002-03
10	弥生土器	壺	a5 SZ11405	a5 溝12	残存高	2.7	外面:ハケ・ヘラミガキ 内面:ヘラミガキ	密	良	にぶい黄橙10YR6/3	底部1/12		003-05
11	土師器	椀	a1 SI5472	a1 土坑1	口径 器高	11.5 3.3	外面:オサエ・ナデ・ヨコナデ 内面:ナデ・ヨコナデ	密	良	にぶい黄橙10YR7/3	口縁部1/12		003-08
12	土師器	杯Cか	a4・5 SI11407	a4・5 土坑7	残存高	2.4	外面:ミガキ・ヨコナデ 内面:ヨコナデ	密	良	橙2.5YR6/6	口縁部1/12	大型椀か鉢の可能性もあり 飛鳥Ⅲ型式以前	005-03
13	土師器	甕	a5 SI11407	a5 土坑7	口径 残存高	13.8 3.1	外面:ナデ・ヨコナデ 内面:ナデ・ヨコナデ	密	やや軟	にぶい橙7.5YR7/4	口縁部2/12		005-02
14	土師器	甕	a5 SI11407	a5 土坑7	口径 残存高	19.0 2.9	外面:ヨコナデ 内面:ナデ・ヨコナデ	密	やや軟	浅黄橙10YR8/3	口縁部1/12		004-07
15	土師器	甕	a5 SI11407	a5 土坑7	残存高	2.6	外面:ハケ　ヘラ記号 内面:ケズリ	密	良	浅黄橙10YR8/4	-	16と同一個体	004-08
16	土師器	甕	a5 SI11407	a5 土坑7	残存高	3.8	外面:ハケ　ヘラ記号 内面:ナデ・オサエ・ケズリ	密	良	浅黄橙7.5YR8/4	-	15と同一個体	005-01
17	土製品	土錘	a5 SI11407	a5 土坑7	残存長 幅 重さ 孔径	5.3 1.3 5.95 0.3	外面:ナデ	密	良	にぶい黄橙10YR7/3	ほぼ完形		004-06
18	須恵器	杯B蓋	a5 SI11407	a5 土坑7	残存高	1.1	外面:ロクロナデ 内面:ロクロナデ	密	良	灰5Y5/1	口縁部1/12	飛鳥Ⅳ～Ⅴ型式	005-05
19	須恵器	杯H	a5 SI11407	a5 土坑7	残存高	1.8	外面:ロクロナデ 内面:ロクロナデ	密	良	灰黄2.5Y7/2	口縁部1/12	斎宮Ⅰ-1(飛鳥Ⅲ～Ⅳ併行期)以前	005-07
20	須恵器	杯A	a4 SI11407 a5 SI11407 a5 SI11407	a4 土坑7 a5 土坑7 a5 土坑7あぜ内	残存高	1.2	外面:ロクロナデ・ロクロケズリ 内面:ロクロナデ	密	良	灰黄2.5Y6/2	-	口径20cm前後となるか 斎宮Ⅰ-1(飛鳥Ⅳ)か	005-06
21	須恵器	円面硯	a4 SI11407	a4 土坑7	残存高	3.1	外面:ロクロナデ 内面:ロクロナデ	密	良	灰5Y6/1	底部1/12		005-04
22	土師器	杯A	a5 SK11414 No.2	a5 土坑10 No.2	残存高	4.2	外面:ヘラケズリ・ヨコナデ 内面:ヨコナデ　やや摩滅	密	良	橙5YR6/6	口縁部1/12	飛鳥Ⅳ型式	007-07
23	土師器	皿A	a5 SK11414 No.3	a5 土坑10	器高	3.1	外面:ヘラケズリ？・ヨコナデ　摩耗 内面:摩滅のため不明・ヨコナデ	密	軟	橙7.5YR6/6	口縁部1/12	飛鳥Ⅴ～平城Ⅰ型式	009-05
24	土師器	皿A	a5 SK11414	a5 土坑10	口径 残存高	14.5 2.2	外面:ヨコナデ 内面:ヨコナデ	密	やや軟	橙5YR6/6	口縁部3/12	飛鳥Ⅳ～Ⅴ型式	009-06
25	土師器	甕	a5 SK11414	a5 土坑10	残存高	3.5	外面:ハケ　ヘラ記号 内面:ナデ・オサエ	密	良	にぶい橙7.5YR7/4	-		009-04
26	土製品	土錘	a5 SK11414	a5 土坑10	残存長 幅 重さ 孔径	1.8 0.8 0.99 0.2	外面:ナデ	やや粗	良	にぶい黄橙10YR7/4	2/5程度		009-03
27	土製品	土錘	a5 SK11414	a5 土坑10	残存長 幅 重さ 孔径	3.4 1.1 3.91 0.25	外面:ナデ	密	良	にぶい黄橙10YR7/4	3/5程度		009-02
28	須恵器	杯B蓋	a5 SK11414	a5 土坑10	残存高	1.6	外面:ロクロナデ 内面:ロクロナデ	密	良	灰5Y6/1	口縁部1/12未満	飛鳥Ⅳ型式か	007-05
29	須恵器	杯B 転用硯か	a5 SK11414 No.8	a5 土坑10 No.8	口径 器高 底径	18.5 6.2 13.4	外面:ロクロナデ・ロクロケズリ・貼付高台　墨痕あり 内面:ロクロナデ　墨痕あり　摩耗	密	良	灰白2.5Y7/1	底部2/12 口縁部1/12	内面:底部残存範囲全体・体部一部、外面:高台部1/3、高台外側一部に墨痕、内面のみ摩耗有 飛鳥Ⅴ～平城Ⅰ型式	007-01
30	須恵器	杯B	SK11414	a5 土坑10 あぜ内	口径 残存高 底径	18.2 5.9 12.3	外面:ロクロナデ・ロクロケズリ・貼付高台　自然釉 内面:ロクロナデ	密	良	灰黄褐10YR5/2	口縁部1/12 底部1/12未満	飛鳥Ⅴ～平城Ⅰ型式	007-02

第５表　第198次調査　出土遺物一覧表（3）

31	須恵器	盤	a5 SK11414 No.1	a5 土坑10	残存高	1.3	外面:ロクロナデ・ロクロケズリ・貼付高台 内面:ロクロナデ　自然釉	密	良	灰白2.5Y7/1	底部6/12 (高台端部欠損)	斎宮Ⅰ-3か	007-06
32	須恵器	壺	a5 SK11414	a5 土坑10	口径 残存高	21.7 5.0	外面:ロクロナデ　沈線 内面:ロクロナデ	密	良	灰5Y5/1	口縁部1/12未満		007-04
33	須恵器	壺	a4 Sl11407 a5 SK11414 a5 SK11414 a5 SK11414 a4 SD11419	a4 土坑7 a5 土坑10 a5 土坑10No.10 a5 土坑10あぜ内 a4溝11	口径 残存高	21.9 16.7	外面:タタキ・ヨコナデ・工具当たり痕・波状文・沈線・列点文・ヨコナデ 内面:ヨコナデ　摩滅	密	やや不良	灰白10YR8/2	口縁部4/12	接点のない体部下半の破片あり	006-01
34	須恵器	甕	a5 SK11414 a5 Sl11407 No.6	a5 土坑7 a5土坑10No.6	頸径 残存高	15.8 9.3	外面:平行タタキ・カキメ・ロクロナデ 内面:同心円状当具痕・ロクロナデ	密	良	灰5Y5/1	頸部2/12		008-01
35	須恵器	壺	a5 SK11414 No.5	a5 土坑10 No.5	口径 残存高	11.9 6.4	外面:ロクロナデ 内面:ロクロナデ	密	良	黄灰2.5Y7/1	口縁部2/12	外面に自然釉	007-03
36	韓式系土器	甕	a5 SK11414 No.11	a5 土坑10 No.11	残存長	6.8	外面:タタキ 内面:同心円文+ハケ	やや粗	良	橙7.5YR7/6	-		009-01
37	土師器	把手	a2 SK11413	a2 土坑9	残存高	6.3	外面:ナデ・ハケ・オサエ 内面:ハケ・オサエ	密	良	にぶい橙7.5YR7/4	-		005-08
38	須恵器	蓋	a18・19 SD11408	a18・19 土坑2・3上層	口径 残存高	13.6 2.1	外面:ロクロケズリ・ロクロナデ　自然釉 内面:ロクロナデ	密	良	黄灰2.5Y6/1	口縁部1/12	斎宮Ⅰ-2か	004-01
39	土師器	皿	a13 SK11411	a13 土坑6	口径 器高	9.6 1.8	外面:オサエ・ナデ・ヨコナデ 内面:ナデ・ヨコナデ	密	良	灰黄褐10YR6/2	口縁部2/12	歪みあり 斎宮Ⅲ-3　12世紀前半	004-05
40	土師器	皿	a13 SK11411	a13 土坑6	口径 器高	17.3 2.7	外面:オサエ・ナデ・ヨコナデ 内面:ナデ・ヨコナデ	密	良	にぶい橙7.5YR7/4	口縁部3/12	斎宮Ⅲ-3か 12世紀中頃	004-04
41	土師器	鍋	a13 SK11411	a13 土坑6	残存高	1.9	外面:ヨコナデ 内面:ヨコナデ	密	良	にぶい褐7.5YR5/3	口縁部1/12	南伊勢系第一段階	004-02
42	陶器	椀	a13 SK11411	a13 土坑6	底径 残存高	6.9 4.2	外面:ロクロナデ・糸切　自然釉　モミガラ痕 内面:ロクロナデ　降灰　自然釉　煤付着	密	良	灰黄2.5Y7/2	底部ほぼ完形	渥美産　4～5型式 12世紀後半	004-03
43	陶器	椀	a17・18 SD2254	a17・18 溝1	残存高	3.1	外面:ロクロナデ 内面:ロクロナデ	密	良	釉:ねこやなぎ色825 素地:黄灰2.5Y6/1	口縁部1/12	渥美産　5型式後半 13世紀前半	001-01
44	白磁	椀	a17・18 SD2254	a17・18 溝1・2上層	底径 残存高	5.4 1.9	外面:仕上げナデ・削出高台・ロクロケズリ 内面:ロクロナデ　仕上げナデ　施釉	密	良	釉:砂色800 素地:灰白2.5Y8/2	底部2/12	椀Ⅱ1型式 11世紀後半-12世紀前半	001-03
45	陶器	椀	a17・18 SD2254	a17・18 溝1	底径 残存高	6.6 2.3	外面:ナデ・ロクロナデ・貼付高台　モミガラ痕 内面:ロクロナデ　自然釉	やや粗	良	灰黄2.5Y7/2	底部3/12	渥美産　5型式後半-6型式 13世紀前半	001-02
46	灰釉陶器	椀	b・c14 SD11415	b・c14 溝6	残存高	2.9	外面:ロクロナデ　施釉(ツケガケ) 内面:ロクロナデ　施釉(ツケガケ)	密	良	釉:ねこやなぎ色825 素地:にぶい黄褐10YR5/3	口縁部1/12	百代寺2型式か 11世紀前半	001-07
47	陶器	椀	a2 SD11418	a2 溝10	底径 残存高	7.2 3.3	外面:ロクロナデ・糸切後ナデ・貼付高台　高台端部摩耗 内面:ロクロナデ・仕上げナデ　摩耗	密	良	灰黄2.5Y7/2	底部3/12	渥美産　6型式 13世紀前半	003-02
48	灰釉陶器	椀	a4 SD11419	a4 溝11	残存高	1.8	外面:ロクロナデ　施釉(ツケガケ) 内面:ロクロナデ　施釉(ツケガケ)	密	良	釉:ねこやなぎ色825 素地:灰黄2.5Y6/2	口縁部1/12未満	H72 10世紀後半	003-04
49	土製品	土錘	a4 SD11419	a4 溝11	長さ 幅 重さ 孔径	5.2 1.1 4.67 0.25	外面:ナデ	密	良	灰黄2.5Y6/2	ほぼ完形		003-03
50	陶器	椀	a9・10 SD11421	a9・10 溝14	残存高	1.9	外面:ロクロナデ・切り離し後ナデ・ロクロケズリ・貼付高台 内面:ロクロナデ	密	良	にぶい黄橙10YR7/3	底部1/12	渥美産　5型式か 13世紀前半	003-06
51	鉄製品	釘	a9・10 SD11421	a9・10 溝14	残存長 幅 重さ	3.5 0.9 1.99	-	-	-	-	-		003-07
52	土師器	甕	a3 pit2	a3 P2	残存高	2.2	外面:ヨコナデ 内面:ハケ・ヨコナデ	密	良	にぶい黄橙10YR7/4	口縁部1/12	斎宮Ⅰ-1	010-01
53	土師器	甕	a5 pit1	a5 P1	残存高	2.0	外面:ヨコナデ 内面:ヨコナデ	密	やや軟	にぶい黄橙10YR7/4	口縁部1/12	全体摩滅 斎宮Ⅰ-1	010-02
54	陶器	椀	a10 pit2	a10 P2	底径 残存高	6.2 3.3	外面:ロクロナデ・糸切・貼付高台　モミガラ痕 内面:ロクロナデ　施釉(ツケガケ)	密	良	灰黄2.5Y7/2	底部3/12	渥美産　3～4型式 12世紀前半	010-03
55	土師器	皿	a15 pit1	a15 P1	残存高	2.4	外面:オサエ・ナデ・ヨコナデ 内面:ナデ・ヨコナデ	密	良	にぶい橙7.5YR6/4	口縁部1/12	斎Ⅲ-4か 歪みあり	010-04
56	土師器	鍋	a15 pit1	a15 P1	口径 残存高	16.2 3.9	外面:ナデ・オサエ・ヨコナデ 内面:ナデ・オサエ・ケズリ・ヨコナデ	やや粗	良	にぶい黄橙10YR7/3	口縁部1/12	南伊勢系第一段階 13世紀	010-05
57	土師器	杯	b14 pit3	b14 P3	残存高	2.4	外面:オサエ・ナデ・ヨコナデ 内面:ナデ・ヨコナデ	密	良	にぶい橙7.5YR7/4	口縁部1/12未満		010-06
58	ロクロ土師器	皿	c14 風倒木	c14 風倒木	口径 器高	8.7 1.7	外面:ロクロナデ・糸切 内面:ロクロナデ	やや粗	良	橙7.5YR7/6	口縁部10/12	外面に墨書	013-05
59	須恵器	壺	c・d13・14 風倒木	c・d13・14 風倒木トレンチ	残存高	8.7	外面:ロクロナデ・沈線・カキメ 内面:ロクロナデ	密	良	灰5Y5/1	口縁部1/12未満		013-02
60	須恵器	壺	c・d13・14 風倒木	c・d13・14 風倒木トレンチ	残存高	2.2	外面:ロクロナデ・沈線　透かし穿孔時の工具当たり痕　降灰 内面:ロクロケズリ・ロクロナデ	密	良	灰5Y5/1	底部1/12未満		013-03
61	須恵器	円面硯	c14 風倒木	c14 風倒木	残存高	2.5	外面:ロクロナデのちナデ・沈線 内面:ロクロナデ	密	良	黄灰2.5Y6/1	-	長方形透かし2段	013-04
62	土師器	甕	a2 包含層	a2 包	残存高	4.5	外面:タテハケ・ハケ・ヨコナデ 内面:ケズリ・ヨコナデ	密	良	浅黄橙10YR8/3	口縁部1/12	平城Ⅲか	010-07
63	土師器	甕	a2 包含層	a2 包	残存高	3.9	外面:ハケ　ヘラ記号 内面:ナデ	密	良	にぶい黄橙10YR7/4	-		010-08
64	鉄製品	釘	a5 包含層	a5 包	長さ 幅 重さ	5.2 1.1 8.24							011-01
65	須恵器	杯B	a6 包含層	a6 包	残存高	1.7	外面:ロクロナデ・ロクロケズリ・貼付高台 内面:ロクロナデ　摩耗	密	良	にぶい黄橙10YR7/2	底部1/12未満	転用硯か 飛鳥Ⅴ～平城Ⅱか	011-02
66	韓式系土器	甕？	a10 包含層	a10 包	残存高	4.6	外面:ナデ・ヨコハケ・波状文・沈線 内面:ナデ	密	やや軟	にぶい橙7.5YR7/4	-		011-04
67	韓式系土器	甕	a10 包含層	a10 包	残存高	8.2	外面:タタキ 内面:同心円文当具痕・ハケ	密	やや軟	橙7.5YR7/6	-		011-03
68	土師器	杯A	a11 包含層	a11 包	口径 残存高	16.2 3.7	外面:ヘラケズリ・ヨコナデ 内面4:ヘラミガキか	密	良	橙5YR6/6	口縁部1/12	斎Ⅰ-3(平城4)か	011-06
69	須恵器	高杯	a11 包含層	a11 包	底径 残存高	9.2 3.7	外面:ロクロナデ　降灰による自然釉 内面:ロクロナデ	密	良	灰7.5Y6/1	底部2/12	飛鳥Ⅳか	011-05
70	須恵器	甕	a11 包含層	a11 包	口径 残存高	22.8 4.2	外面:ロクロナデ 内面:ロクロナデ	密	良	灰黄2.5Y6/2	口縁部1/12未満		012-01
71	土師器	甕	a13 包含層	a13 包	口径 残存高	18.7 5.6	外面:ハケ・ヨコナデ 内面:ヨコハケ・ハケ・ヨコナデ	密	良	にぶい黄橙10YR6/4	口縁部2/12		012-03
72	韓式系土器	甕	a13 包含層	a13 包	残存高	6.5	外面:タタキ 内面:同心円文当具痕・ハケ	密	やや軟	橙7.5YR7/6	-		012-02
73	土師器	鍋	a15 包含層	a15 包	口径 残存高	16.5 1.3	外面:オサエ・ヨコナデ 内面:ヨコナデ	やや粗	良	にぶい黄橙10YR7/4	口縁部1/12	南伊勢系第一段階 13世紀	012-04
74	弥生土器	高杯	a18 包含層	a18 包	接合部径 残存高	4.4 9.7	外面:櫛描直線文 内面:シボリ	やや粗	やや軟	にぶい黄橙10YR7/4	頸部6/12	摩耗著しい	012-05
75	弥生土器	高杯	b14 包含層	b14 包	底径 残存高	14.8 3.0	外面:ヨコナデ 内面:オサエ・ナデ・ヨコナデ	密	良	浅黄2.5Y7/3	底部2/12		012-06
76	灰釉陶器	椀	c14 包含層	c14 包	口径 残存高	14.1 4.3	外面:ロクロケズリ・ロクロナデ　施釉(ツケガケ) 内面:ロクロナデ　施釉(ツケガケ)	密	良	釉:蒸栗色801 素地:灰黄2.5Y6/2	口縁部2/12	器表面荒れる 053型式か　10世紀前半	013-01

第198-13次調査

番号	器種	器形	出土遺構	調査時遺構名	法量(cm) 重さ(g)		調整・技法の特徴	胎土	焼成	色調	残存度	備考	登録番号
1	陶器	椀	SD11425	2トレンチ 溝1	底径 残存高	5.3 1.9	外面:ロクロナデ・糸切 内面:ロクロナデ	密	良	灰白2.5Y7/1	底部6/12	渥美産	001-01
2	陶器	壺	SD11425	2トレンチ 溝1	推定底径 残存高	8.1 3.4	外面:糸切・ロクロケズリ・貼付高台 内面:ロクロナデ　炭化物付着	密	良	灰白2.5Y7/1	底部1/12	渥美産	001-02
3	須恵器	壺	SD11425	2トレンチ 溝1	口径 残存高	20.8 2.7	外面:ロクロナデ 内面:ロクロナデ　降灰　自然釉	密	良	黄灰2.5Y5/1	口縁部1/12		001-03
4	灰釉陶器	皿	SD11427	3トレンチ 溝3北	底径 残存高	7.8 1.9	外面:ロクロケズリ・ロクロケズリ後ナデ・高台貼付 内面:ロクロナデ　施釉(ハケヌリ)	密	良	灰白2.5Y7/1	底部2/12	K90-2　9世紀後半 段皿の可能性あり	001-04
5	陶器	鉢	SD11427	3トレンチ 溝3北	底径(推定) 残存高	18.8 5.3	外面:タタキ・オサエ・ナデ 内面:ナデ・オサエ・ハケ	密	良	灰5Y6/1	底部1/12	内面使用による摩耗著しい	002-01
6	陶器	鉢	SD11427	4トレンチ 溝3	底径(推定) 残存高	15.4 6.9	外面:ロクロケズリ・貼付高台 内面:ロクロナデ　施釉	密	良	釉:威光茶990 素地:灰白2.5Y7/1	底部1/12		002-02
7	灰釉陶器	椀	SD11427	トレンチ6 溝3　下層	底径 残存高	6.2 1.7	外面:ロクロナデ・糸切・貼付高台　施釉(ハケヌリ) 内面:ロクロナデ　施釉(ハケヌリ)　重ね焼痕	密	良	釉:山鳩色822 素地:灰白2.5Y8/1	底部3/12	K90-2～3　9世紀後半	001-08
8	灰釉陶器	椀	SD11427	トレンチ6 溝3　下層	底径 残存高	7.1 2.1	外面:ロクロナデ・ロクロケズリ・貼付高台　施釉(ハケヌリ) 内面:ロクロナデ　トチン痕	密	良	釉:抹茶色838 素地:灰白2.5Y8/1	底部3/12	K14-2 9世紀前半か	001-06
9	陶器	椀	SD11427	トレンチ6 溝3　下層	底径 残存高	8.2 2.8	外面:ロクロナデ・ロクロケズリ・貼付高台 内面:ロクロナデ・ユビナデ　摩耗	密	良	灰白2.5Y7/1	底部3/12	内面に自然釉 渥美産	001-07
10	陶器	椀	SD11428	5トレンチ 溝4	底径(推定) 残存高	7.7 2.4	外面:ロクロナデ・糸切・貼付高台　高台端部摩耗 内面:ロクロナデ	密	良	灰白2.5Y7/1	底部1/12	渥美産　4～5型式 12世紀後半	001-05

第６表　第198次調査　出土遺物一覧表（4）

付編　史跡現状変更等許可申請

令和２年度に提出された史跡現状変更等許可申請は65件で、申請の内容は、一覧表（第７表）のとおりである。年度内に発掘調査を行ったのは、前年度以前の申請分も含め14件で、内訳は、史跡の実態解明のための計画発掘調査が１件、個人や公共事業の現状変更に伴うものが13件である。また、発掘調査を行わなかった51件は、小規模または工事が簡易で地下遺構に影響を及ぼさない場合や、すでに発掘調査を実施している箇所での申請である。なお、掘削工事等にあたっては斎宮歴史博物館調査研究課職員並びに明和町斎宮跡・文化観光課職員の工事立会のもとで実施している。これらの申請は、申請者ならびに申請内容で分類すると下記のとおりである。

（A）個人等による申請

33件の申請があった。うち住宅新築、浄化槽設置など発掘調査が必要とされた７件（第198－3、4、6、7、8、11、12次調査）について調査を行った。他の26件については、住宅解体や工作物の設置等で土地利用区分の第三、四種保存地区にあたり、すでに発掘調査が行われている場合や、工事立会い等の条件付許可により、史跡に影響を及ぼすことなく施工している。

（B）公共機関等による地域の生活環境整備に伴う申請

19件の申請があった。内容は、電気・通信関係や、排水路・道路の改修等である。本年度は電気・通信の送電信網の大規模な建替工事があったことから申請件数が例年と比べて増加した。施工にあたっては、工事立会いで着工している。

（C）史跡環境整備および維持管理等に伴う申請

11件の申請があった。明和町歴史的風致維持向上計画に基づく史跡内環境整備に伴うもが９件あり、その内で発掘調査が必要とされた３件（第198－5、9、10次調査）について調査を実施した。その他、三重県（斎宮歴史博物館）による史跡内の維持管理に伴うものも２件あった。

（D）発掘調査のための申請

２件の申請があった。これらは三重県が主体となって斎宮歴史博物館が実施している計画発掘調査（第199次調査）に伴うもので、計270.4㎡が調査された。調査内容は斎宮歴史博物館から別途調査概報が刊行される。

No.	申請地 大字	申請地 小字	申請地 地番等	種別	申請者	変更内容	申請日	許可日	変更面積	区分	備考
1	竹川	南裏	245－1、247	A	個人	建築物等除却、樹木伐採	R2.4.2	R2.4.13	2棟、35本	4	
2	竹川	南裏	245－1、245－4、245－5、245－6、246－1、247、247－3、247－5	C	明和町長（斎宮跡・文化観光課）	道路拡幅	R2.4.7	R2.5.22	L=136.9m	3	第198－5次調査
3	斎宮	牛葉	572－3、574－2	A	個人	住宅建築	R2.4.7	R2.5.22	16㎡	3	第198－3次調査
4	竹川	古里	575－1	A	個人	駐車場整備等	R2.5.7	R2.6.19	910.09㎡	4	
5	竹川	古里	576－1、576－3、577－3	A	個人	土蔵建築	R2.5.7	R2.6.19	24㎡	4	
6	斎宮	東前沖	2470－1、2470－2、2470－3	A	個人	建築物除却・樹木伐採	R2.5.12	R2.5.19	2棟、7本	4	
7	斎宮	御舘	2946－4、2946－5、2947－1、2947－3、2948－3	C	明和町長（斎宮跡・文化観光課）	発掘調査	R2.5.25	R2.7.17	80㎡	1	第201－4次調査
8	斎宮 竹川	牛葉 東裏	県道	B	三重県知事（松阪建設事務所）	道路舗装	R2.5.26	R2.6.9	127.2㎡	3	
9	斎宮	篠林	3146－1、3146－2	A	個人	ブロック塀等設置	R2.6.17	R2.6.25	80.9㎡	4	
10	竹川	中垣内	426、476、476－1	D	三重県知事（斎宮歴史博物館）	発掘調査	R2.6.8	R2.7.17	300㎡	2	第199次調査
11	斎宮	楽殿	2889－2	A	個人	住宅新築	R2.6.7	R2.7.17	92.74㎡	3	第198－4次調査
12	斎宮 竹川	古里 古里	県道	B	三重県知事（松阪建設事務所）	道路標識設置	R2.6.19	R2.7.2	2本	3	
13	斎宮	東加座	2385－4、2385－5	A	個人	カーポート等設置	R2.7.7	R2.7.27	2基	4	
14	斎宮	牛葉	572－1、572－6	A	個人	建築物等除却、樹木伐採	R2.7.6	R2.7.27	43.5㎡	3，4	
14	斎宮	牛葉	100－1	A	個人	建築物等除却	R2.7.16	R2.8.3	214㎡	4	
16	斎宮	牛葉	572－6	B	中部電力パワーグリッド（株）松阪営業所長	電柱支線撤去	R2.7.17	R2.8.3	1条	4	
17	竹川	祓戸	709番4、710番5	C	明和町長（斎宮跡・文化観光課）	散策路整備	R2.7.21	R2.9.18	155㎡	3	第198－10次調査
18	斎宮	塚山	3276－23、3276－25、3276－27	C	明和町長（斎宮跡・文化観光課）	発掘調査	R2.8.3	R2.9.18	50㎡	2	第198－9次調査
19	斎宮	東前沖	2505－2	B	中部電力パワーグリッド（株）松阪営業所長	電柱建替	R2.8.4	R2.819	2本	4	
20	斎宮	古里	3259番3	A	個人	住宅建築	R2.8.6	R2.9.18	140.8㎡	3	第198－6次調査
21	斎宮	東加座	町道	B	明和町長（建設課）	道路舗装	R2.8.21	R2.9.4	600㎡	2	
22	斎宮	内山	3037番地4、3037番地11、3937番地12	A	個人	ブロック塀設置	R2.8.21	R2.9.4	26㎡	4	
23	斎宮	牛葉	3013－1	B	中部電力パワーグリッド（株）松阪営業所長	支線打替	R2.8.25	R2.9.4	2条	4	
24	斎宮	西加座	2721－6	A	個人	建築物除却	R2.9.1	R2.9.16	16.9㎡	4	
25	竹川	中垣内	422－1	D	三重県知事	ユニットハウス等設置	R2.9.4	R2.9.4	1棟	2	
26	斎宮	西加座	2721－6	A	個人	住宅建築	R2.9.7	R2.10.16	119.3㎡	4	
27	斎宮	西前沖	2649－4	A	個人	建築物等除却及び樹木伐採	R2.9.5	R2.9.17	90㎡	4	
28	竹川	祓戸	700、702、703、704、710－2、720	C	明和町長（斎宮跡・文化観光課）	公園整備	R2.9.9	R2.10.16	3028㎡	3	
29	斎宮	西前沖	2649－4	A	個人	住宅建築	R2.9.5	R2.10.16	84.47㎡	4	
30	斎宮	牛葉	100－1、100－2、96－3	A	個人	住宅建築	R2.9.2	R2.10.16	66.3㎡	3	第198－7次調査
31	竹川	花園	地先	B	西日本電信通話（株）三重支店長	電柱建替	R2.9.8	R2.9.25	4本、5条	2，3	
32	竹川	古里 中垣内	592－3、592－10、575－1、575－2、575－3、576－2、576－3、576－5、574－1、574－5、574－7、533－2、533－3、514－3、515－1、515－2、559－61、559－11、559－46、559－42 369－4	B	中部電力パワーグリッド（株）松阪営業所長	電柱建替等	R2.9.8	R2.10.5	14本、4条	1，2，3，4	
33	竹川	古里	地先	B	西日本電信通話（株）三重支店長	支線新設	R2.9.18	R2.10.7	1条	3	
34	斎宮	牛葉	100－1、100－2、96－3	A	個人	ブロック塀設置	R2.9.25	R2.10.7	16.7㎡	4	
35	斎宮	塚山	3276番2	A	個人	ブロック塀新設	R2.9.23	R2.10.12	31．4㎡	3	
36	竹川	古里	589	B	中部電力パワーグリッド（株）松阪営業所長	支線打替	R9.29	R2.11.13	2条	4	
37	斎宮	牛葉	2999－3	A	個人	樹木伐採	R2.9.30	R2.10.26	1本	3	
38	竹川	中垣内	452－1	B	中部電力パワーグリッド（株）松阪営業所長	電柱新設	R2.10.7	R2.10.10	1本	3	
39	斎宮	牛葉	572－1、572－6	A	個人	住宅建築	R2.10.8	R2.11.20	75.06㎡	3、4	第198－8次調査
40	竹川	南裏	245－1、245－2、247	C	明和町長（斎宮跡・文化観光課）	公園整備	R2.10.8	R2.11.20	4基	3	
41	竹川	南裏	248、249	A	個人	ブロック塀等新設	R2.11.2	R2.11.13	15.4㎡	4	
42	斎宮	鍛冶山	2758－2	A	個人	進入路改修	R2.11.2	R2.11.13	13.1㎡	4	
43	斎宮	東前沖	2487－8	A	個人	建築物等除却	R2.11.4	R2.11.19	46.5㎡	4	
44	竹川	古里	535,571	C	三重県知事（斎宮歴史博物館）	ユニットハウス等設置	R2.11.20	R2.11.20	1基	3	
45	斎宮	木葉山	4156－1番地	B	西日本電信通話（株）三重支店長	支線打替	R2.11.6	R211.26	2条	3	
46	斎宮	西加座	町道	B	中部電力パワーグリッド（株）松阪営業所長	電柱建替	R2.11.11	R2.11.26	4本1条	1	
47	斎宮	笛川	1065－5番地	B	中部電力パワーグリッド（株）松阪営業所長	電柱新設	R2.11.17	R2.11.26	1本、1条	4	
48	竹川	東裏	365－1、364	B	中部電力パワーグリッド（株）松阪営業所長	電柱建替	R2.11.24	R2.12.7	4本、2条	2，4	
49	竹川	南裏	245－1、246	A	個人	ブロック塀等設置	R2.11.25	R2.12.7	32㎡	3，4	
50	斎宮	鈴池	558－3、558－6	C	三重県知事（斎宮歴史博物館）	案内標識除却	R2.12.4	R2.12.7	1基	3	
51	竹川	中垣内	493－2、493－15	B	中部電力パワーグリッド（株）松阪営業所長	電柱建替	R2.11.27	R2.12.10	2本、1条	2	
52	斎宮	牛葉	104番地	A	個人	建築物等除却	R2.12.4	R2.12.10	126.6㎡	4	
53	斎宮	中西	610	B	中部電力パワーグリッド（株）松阪営業所長	支線・支線柱撤去	R2.12.11	R2.12.25	1本、1条	4	
54	斎宮	中西	2404	A	個人	建築物除却	R2.12.22	R3.2.12	115.5㎡	4	
55	斎宮	牛葉	3016番1	A	合同会社アドバンスカンパニー	浄化槽埋設	R2.12.28	R3.2.12	5.2㎡	4	第198－11次調査
56	竹川	祓戸	709番4、710番5	C	明和町長（斎宮跡・文化観光課）	フェンス設置	R3.1.5	R3.1.29	1．6㎡	3	
57	斎宮	楽殿	2895番地2	A	個人	宅地造成	R3.1.7	R3.2.12	515.7㎡	3	第201－3次調査
58	竹川	古里	582－1、582－2地先	A	個人	宅地造営等	R3.1.8	R3.2.12	445.1㎡	3	第198－12次調査 第201－2次調査
59	斎宮	牛葉	104番地	A	個人	コンクリート舗装	R3.1.18	R3.1.29	27㎡	4	
60	斎宮	西加座	2770－3	C	明和町長（斎宮跡・文化観光課）	ユニットハウス設置	R3.1.19	R3.2.8	1棟	1	
61	竹川	古里	582番1	A	個人	住宅建築	R3.3.25	R3.5.21	66.24㎡	3	第201－5次調査
62	竹川	東裏	361－11	B	中部電力パワーグリッド（株）松阪営業所長	電柱建替	R3.2.15	R3.2.25	2本	2	
63	竹川	古里	582－1、566	B	中部電力パワーグリッド（株）松阪営業所長	電柱・支線新設	R3.3.2	R3.3.11	3本、2条	3	
64	斎宮	牛葉	579－2	A	個人	建築物等除却	R3.3.4	R3.3.11	132㎡	4	
65	斎宮	中西	町道地内	C	明和町長（斎宮跡・文化観光課）	道路舗装	R3.3.8	R3.3.16	42㎡	3	

第７表　令和２年度現状変更等許可申請一覧

写真図版１　第198－1次 調査区全景（東から）

写真図版２　第198－2次 西調査区全景（東から）

写真図版３　第198－3次 調査区全景（東から）

写真図版４　第198－4次 調査区全景（南東から）

写真図版５　第198－5次 １トレンチ全景（南から）

写真図版６　第198－6次 調査区全景（北西から）

写真図版７　第198－7次 調査区全景（南東から）

写真図版８　第198－8次 調査区全景（南西から）

写真図版９　第198－9次 調査区全景（南東から）

写真図版10　第198－10次 ３トレンチ南壁土層（北東から）

写真図版11　第198－11次 調査区全景（北から）

写真図版12　第198－12次 調査区全景（南西から）

写真図版13　第198－12次 拡張部全景（北西から）

写真図版14　第198－12次 SK11414土器出土状況（南西から）

写真図版15　第198－13次 ５トレンチ全景（北から）

報　告　書　抄　録

ふりがな	しせきさいくうあと　れいわにねんどげんじょうへんこうきんきゅうはっくつちょうさほうこく
書　　名	史跡斎宮跡　令和２年度現状変更緊急発掘調査報告
副 書 名	
巻　　次	
シリーズ名	三重県多気郡明和町斎宮跡埋蔵文化財調査報告
シリーズ番号	38
編著者名	山中由紀子　味噌井拓志
編集機関	斎宮歴史博物館（調査研究課）　明和町（斎宮跡・文化観光課）
所 在 地	〒515-0332　三重県多気郡明和町大字馬之上945番地　℡　0596（52）7126
発行年月日	西暦　2022年３月19日

ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード		北緯 °′″	東経 °′″	調査期間	調査面積 ㎡	調査原因
		市町村	遺跡番号					
斎宮跡（さいくうあと）	多気郡明和町（たきぐんめいわちょう） 斎宮（さいくう）・竹川（たけがわ）	24442	210	34° 31′ 55″ ～ 34° 32′ 30″	136° 36′ 16″ ～ 136° 37′ 37″	20200401 ～ 20210331	全13件 717.7㎡	史跡現状変更に伴う緊急発掘調査（史跡斎宮跡第198次調査）

所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
斎宮跡第198次	官衙	弥生・古墳・飛鳥・奈良・平安・鎌倉・室町・江戸	竪穴建物・掘立柱建物・掘立柱塀・土坑・溝・柱穴・ピット・古墳・方形周溝墓	縄文土器・弥生土器・土師器・須恵器・韓式系軟質土器・埴輪・緑釉陶器・白磁・灰釉陶器・黒色土器・無釉陶器・近世陶磁器・土製品・石製品・鉄製品	

要　　約

本調査は、史跡内の現状変更に伴う緊急発掘調査である。大半の調査は住宅新築に伴う小規模なものであるが、第198-６次・第198-12次調査では奈良時代の竪穴建物を計４棟、第198-６次では奈良時代の掘立柱建物計４棟を確認するなど、特に史跡西部において重要な調査成果を得た。

また、「歴まち整備事業」関連の第198-２・13次調査では、方格街区北東域の様相を具体的に確認できた。これらは史跡内の新たなデータとして蓄積し、今後の史跡内発掘調査報告書にも反映する。

史　跡　斎　宮　跡

令和２年度

現状変更緊急発掘調査報告

令和４(2022)年３月19日

編　　集　斎宮歴史博物館
　　明和町

発　　行　明和町

印　　刷　光出版印刷株式会社